

令和 5 年度
「新時代に対応した高等学校改革推進事業」
第 1 年次 研究開発実施報告書

(兼 令和5年度広島市立高等学校学力向上推進事業学力向上研究校報告書)



令和 6 年 3 月

広島市立美鈴が丘高等学校

目次

巻頭言

1 研究開発概要

- (1) 新時代に対応した高等学校改革推進事業実施計画書……………4

2 研究開発実施報告

- (1) 新しい学科で育成を目指す資質・能力の策定とルーブリックの開発……………23
(資質・能力の具体化、ルーブリック開発の過程、ルーブリックの活用)
- (2) 総合的な探究の時間の改善……………26
(全体計画の策定、探究成果発表会の実施と振り返り)
- (3) 探究活動を重視した各教科・科目の授業改善……………41
(授業改善教職員研修、授業観察月間の実施)
- (4) 新たな学校設定科目「未来計画」の開発……………49
(構想調書に基づいた教材選定、年間指導計画計画の作成)
- (5) 特色・魅力ある先進的な学校運営……………52
(特色ある教育課程の開発、ノーチャイムの試行実施)
- (6) 教員と生徒による学校改編検討組織「未来会議」……………60
(教員生徒による先進校視察、校則改変に向けた動き)
- (7) 地域とのつながり……………70
(公民館主催ボランティアへの参加)
- (8) 外部評価……………73
(高校魅力化評価システム・Ai GROWによる生徒の資質・能力の測定)
- (9) 広報活動……………78
(ホームページでの発信強化、SNSを活用した情報発信、新学科パンフレット)

3 連携機関等との意見交換・協議

- (1) コンソーシアム会議……………82
- (2) 運営指導委員会……………88

はじめに

広島市教育委員会が、平成29年に策定した「ハイスクールビジョン推進プログラム」に基づき、本校は広島市学校経営推進サポート事業「学力向上推進プラン」の指定を受けて、「学力向上のための授業改善等の方策に効果的なもの」を追求する中で、「協同学習」を基軸に据えた授業改善に価値を見出し、各教科において取り組みを進めて参りました。

令和3年度の「ハイスクールビジョン推進プログラム中間見直し」において学校経営方針を再検討し、令和4年度から学校教育目標を「校訓『進取 友愛 節度』のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において自らの未来を切り拓き、『地域共生社会』の担い手となる人材を育成する。」とするとともに目指す生徒像を実現するためにどのような資質・能力を身につけさせるのかについて職員研修を重ねて「育成を目指す9つの資質・能力のルーブリック」を作成しました。今年度は、この9つの資質・能力を生徒が身につけていくため、文部科学省「新時代に対応した広島市立高等学校研究指定校(学力向上実践研究校)」に申請し、新たに未来会議を設置し、目指す生徒像を教職員間で共有するとともに総合的な探究の時間と授業改善の充実を図っているところです。

広島市に設置された高等学校として期待される社会的役割等と本校が示している「三つの方針」に基づきカリキュラム・マネジメントの実施を目指し、今年度から設置した未来会議を中心に学科改編を進めているところです。国際平和文化都市「広島」の魅力や課題に関する知見を基にして、身の周りの課題を発見し解決しようとする力、地域社会の持続的な発展や価値の創造に貢献できる力を育むための主体的・実践的な学びの実現により生徒は自らの成長を実感することができ教職員は生徒の成長を支援し続けるための指導法を習得できる学校運営を目指しています。

まだまだ課題は多いという現実ではありますが、教職員と生徒代表と一緒に先進校視察を行うことで、生徒自からも意欲を持って取り組んでおり、この一年間の成果をここにまとめることに致しましたので、ご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、教員研修として、4年間続けてご指導いただいている岡山大学教師開発センター教授 高旗浩志先生、生徒交流でご協力いただきました熊本市立必由館高等学校、北九州市立高等学校、京都市立開建高等学校各校の校長先生をはじめとする教員及び生徒の皆さん、また教員派遣や学校訪問等にご協力いただきました多くの高等学校様に感謝申し上げます。そして、この事業を進めるあたり広島市教育委員会学校教育部指導第二課様をはじめ、多くの関係者の皆様にご教授・ご支援いただきましたことに感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

今後とも、さらなるご指導をいただきますようお願いいたします。

令和6年3月

広島市立美鈴が丘高等学校
校長 柳 義 信

1 研究開発概要

(1) 新時代に対応した高等学校改革推進事業実施計画書

ア 事業の概要

(ア)学際領域学科又は地域社会学科等を設置する学校名・設置(予定)年度

公立・私立・ 国立・株立の別	学校名 (ふりがな)	学科の種類	設置(予定) 年度	決定
広島市立	美鈴が丘高等学校 (みすずがおかこうとうがっこう)	地域社会学科	令和7年度	

(イ)学校の詳細

課程別	新学科の 収容定員	学年制・ 単位制の別	学科の名称(決定している場合)
全日制	720人	学年制	未定

(既存の学科を転換する場合は、以下も記載)

現在の生徒数	現在の学科の種類	現在の学科の名称
707人	普通科	普通科

(ウ)当該学科における特色・魅力ある先進的な教育の取組について

申請校は、学校教育目標を「校訓『進取 友愛 節度』のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において自らの未来を切り拓き、『地域共生社会』の担い手となる人材を育成する。」と設定し、新しく地域社会学科として特色・魅力ある先進的な教育の取組を行うこととしている。

1 育成を目指す資質・能力

学校教育目標に基づき、スクール・ポリシーの1つである、育成を目指す資質・能力を以下の様に検討している。

- 「国際平和文化都市『広島』をフィールドとした学びにより
地域社会の発展に貢献し続ける人物を育成する」
- 地域や社会の課題を見出す力(情報収集力・情報分析力・発信力)
 - 正解のない課題に向き合い続ける力(自省力・行動力・思考力)
 - 協同して課題を解決する力(調整力・実践力・連携力)

2 申請校における特色・魅力ある先進的な教育の取組

学校教育目標及び育成する資質・能力を踏まえ、令和7年度から現在の普通科を改編し、広島市が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに取り組む、「探究的な活動」を特色(学びの柱)とした学校とする。

(1) 新たな学校設定教科・科目の開設(1学年2単位程度)

・学びの柱である探究の「学び方を学ぶ」ためのプログラムを実施

(2) 探究活動を重視した各教科・科目の授業改善

・全各教科・科目で「育成を目指す資質・能力」に基づく目標と評価規準を設定
・生徒の「問い」から始まり、「社会につながる課題」を個人思考と協同学習で学ぶ授業へと改善

(3) 総合的な探究の時間(2～3学年計4単位程度)

・週1日は探究に特化した日をつくり、午後から学年の枠を超えたフィールドワークや課題解決学習等に集中できるよう設定(学校設定教科・科目と合わせて設定することも検討)
・探究的な活動の成果を発信する機会を設け、広島だけでなく全国に発信(校内探究活動コンテスト、市議会提案発表会、全国高校生マイプロジェクトアワード等)
・探究的な活動を支援するための連携協力体制(コンソーシアム)を現行の学校運営協議会を充実させて整備(大学教授や行政機関職員等を新たに委員として招聘)
・学校と連携協力体制(コンソーシアム)をつなぐコーディネーターを配置(令和5年度は大学教授)
・探究のテーマは生徒が主体的に決定する。

<テーマのイメージ>

□隣接する小・中学校で校種を超えた授業や学校行事等の企画・運営を行う。

□医療施設や医療専門学校と連携し地域医療の諸課題について検討する。

□近隣の大学等と連携し地域の諸課題を情報科学によって解決する方策を検討する。

(4) 先進的な学校運営

・担任チューター制や複数担任制などの柔軟な学級運営の導入、ノーチャイム、文理選択の廃止、修学旅行の充実等

イ 事業の目的等

(ア)学際領域学科等を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、地域社会学科等を設置する必要性

1 申請校を取り巻く状況

申請校は生徒急増期である昭和63年4月に当時の新興住宅地内に開校した学校であり、同名の小学校・中学校と道路を挟んで隣接している。

平成13年には普通科内に国際理数コースを設立したが、平成21年改訂高等学校学習指導要領において理数教育の充実が図られたこと等を受けて平成24年にコースの募集を停止し、令和5年現在まで普通科のみを設置している。

本市が設置している高等学校の内、普通科高校は4校あり、当該校以外は全て普通科内にコースを有し、コースを中心とした学校の特色化を図っている。コースを設置している学校では、社会構造の変化に対応した教育課程の編成や地域に開かれた教育活動等を通して特色化を図っているが、当該校は唯一普通科のみを設置している学校であるため、学校の特色化が図りにくい状況にある。

この状況の中で、申請校は平成27年度から本市指定校として主体的・対話的で深い学びの実現や総合的な探究の時間の改善に取り組み、生徒を主体とした協同学習や地域の課題や魅力に着目した探究活動を実施している。

近年、当該校が所在する住宅地内に居住する児童生徒数は減少していることに加え、近隣の私立高校の共学化や魅力化等により、当該校の志願倍率は令和5年度入試で1.04倍と過去最低を記録している。

[参考]他の本市普通科高校に設置しているコース

普通科創造表現コース(美術系) 普通科体育コース(体育系)

普通科国際コミュニケーションコース(国際系)

2 本市高等学校及び申請校の将来構想

本市は、平成28年度に魅力ある高校づくりを推進するため、市立高等学校の将来構想として「広島市ハイスクールビジョン」、ビジョンに基づく具体的な行動計画として「ハイスクールビジョン推進プログラム」を策定し、令和4年に社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため、中間見直しを行った。

申請校は、令和4年に一部改定した「広島市ハイスクールビジョン」及び「ハイスクールビジョン推進プログラム」において、普通科を新たな学科へと改編することを含めた特色ある新しい学校教育活動を推進することとしている。

3 地域社会学科を設置する必要性

申請校は、学校教育目標に「地域共生社会の担い手となる人材を育成する」ことを明記し、「総合的な探究の時間」の中で学校が所在する住宅地や生徒自身が居住する地域の魅力を紹介する探究活動等、地域と連携した特色ある取組を進めている。これらの取組は地域から歓迎され、参加する生徒の主体性や自己肯定感の醸成につながるとともに、課題の発見と解決を図る力や、新しい価値を創造する力など、持続可能な地域社会の創り手となることができる資質・能力の育成にもつながっている。

申請校はこれまで普通科として、大学受験等を意識した指導を中心としているが、前述の探究的な取組による生徒の変容や地域の活性化が図られたことにより、地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びが、学校・生徒・地域にとって効果的であるという実感を持ち始めている。

今後は、隣接する小・中学校や市の行政機関、大学等と連携協力体制を構築した上で、高校生が広島市域全体でフィールドワークを行い、様々な地域の魅力発信や課題解決を主体的に行うことで、持続可能な地域社会の将来を担う人材を育成する新たな普通科へと改編し、学校の特色化・魅力化を確実に推進する必要がある。

(イ)学際領域学科又は地域社会学科等における取組の目的・目標(地域社会学科等における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む)

1 申請校の学校教育目標及び育成を目指す資質能力

申請校は、本市の目指す教育の方向性や申請校の将来構想を踏まえ、学校教育目標を令和4年に改訂し、「校訓『進取 友愛 節度』のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において自らの未来を切り拓き、『地域共生社会』の担い手となる人材を育成する」としている。

この学校教育目標に基づき、地域社会学科で育成を目指す資質・能力のコンセプトを「国際平和文化都市『広島』をフィールドとした学びにより地域社会の発展に貢献し続ける人物を育成する」とし、具体的には、地域や社会の課題を見出す力、正解のない課題に向き合い続ける力、協同して課題を解決する力を育成することを検討している。

2 目標達成に至る申請校の取組

以上の学校教育目標の実現及び資質・能力の育成のために、申請校は地域社会学科として、広島市域を学びのフィールドとする探究活動を柱とした学びを提供する学校として学科改編を行う。

まず、入学者選抜において、広島県公立高等学校入学者選抜の特色枠の活用や面談形式で全受検者に実施する「自己表現」の配点の比重の設定等により、自らを認識し表現することができる生徒を受け入れる体制を構築する。

1年次には2時間程度連続の学校設定教科・科目により、生徒自らの興味や適性等による探究テーマの模索と共に、探究活動に必要なスキルと手法の習得、探究を行う上で不可欠な他者と協創する態度や自己を成長させるマインドセットについて学ぶことで、探究学習により生徒が確実に資質・能力を伸ばすことができる基盤をつくる。

同時に、全学年の各教科・科目の授業を探究型学習とし、生徒の個々の「問い」から「社会につながる課題」を学ぶ授業を展開し、生徒が主体的に教科横断的な視点を持つことを促す、社会に開かれた学びを全授業で展開していく。

主に2、3年次に2時間程度連続で取り組む総合的な探究の時間は、1年次の学校設定教科・科目と時間割を同時帯で設定することで全学年が縦割りで活動に取り組める形式とし、地域の資源をコンソーシアムの支援を受けながら活用して生徒が主体的に「広島市域全域で学ぶ」体制をつくる。また、社会と接続しながら自らのキャリア形成の方向性と結びつけるよう、探究テーマを設定する。具体的なイメージとしては、隣接する小・中学校で校種を超えた授業や学校行事等の企画・運営を行うことで教育系キャリアに、医療施設や医療専門学校と連携し地域医療の諸課題について検討することで医療系キャリアに、近隣の大学等と連携し地域の諸課題を情報科学によって解決する方策を検討することで情報系キャリアに結びつけられるような探究テーマを設定する。ただし、探究のテーマは生徒が社会と接続していくなかで、1年次の学校設定教科・科目で行った自らの興味や適性等による探究テーマの模索を参考としながら主体的に設定する。

また、探究的な活動の成果は、校内の探究活動コンテストや高校生による広島市議会提案発表会、全国高校生マイプロジェクトアワードなどを通して全国に発信するとともに、フィードバックを通して探究の内容を深化させていく。

最終的には、全ての生徒が全世界を含む地域社会と接続した形で自らの在り方生き方を認識した上で、キャリア形成に結びつく進路実現に主体的に向かうことができる姿へと変容を果たす。具体的には大学受験では総合型選抜により受験する生徒の増加、志望進路も地域創生系の学部を持つ大学を志望する生徒の増加等を図るとともに、大学等卒業後は広島を含む全地域の持続可能な発展に寄与する人材を育成することを目指す。

ウ 実施体制

(ア)管理機関における実施体制や事業の管理方法

本市教育委員会では、平成27年度から申請校に設置されている校内委員会(将来構想検討委員会等)に指導主事が参加し、学校を主体としつつ教育委員会と連携しながら事業に取り組む体制を構築できている。本事業においてもこの体制を継承しつつ、以下の通り適切に事業を管理する。

1 管理機関における実施体制

(1) 広島市教育委員会(管理機関)

広島市教育委員会を管理機関とし、広島市教育委員会内部に設置されているハイスクールビジョン推進委員会が管理の主体となる。

また、申請校内に設置されている「拡大未来会議」に広島市教育委員会の指導主事が参加する体制を構築する。

※ ハイスクールビジョン推進委員会は本市ハイスクールビジョン推進のために設置された指導担当部長を座長とする組織であり、教育委員会関係課(指導第二課、教育企画課、教職員課、学事課、施設課等)の課長が構成委員である。

(2) 運営指導委員会

広島市教育委員会は、外部有識者で構成される「運営指導委員会」を新たに設置し、学校からのヒヤリングによる事業計画の進捗状況などの把握、評価・検証を依頼する。

2 事業の管理方法

(1) 広島市教育委員会による業務の進行管理等

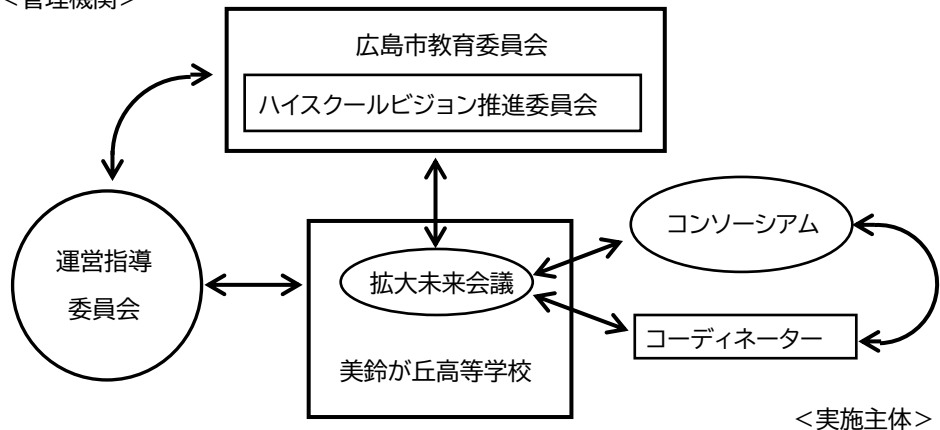
広島市教育委員会内部に設置しているハイスクールビジョン推進委員会において、運営指導委員会による学校ヒヤリングの結果、校内の拡大未来会議に参加している指導主事等による成果と課題の取りまとめを報告することで、校内の事業の進捗状況を共有し進行管理を行う。

また、ハイスクールビジョン推進委員会において成果と課題の分析も行い、実施主体である学校やコーディネーター、コンソーシアムにフィードバックする。

(2) 運営指導委員会による指導・助言

運営指導委員会は年3回実施し、学校から事業計画の進捗状況についてヒヤリングを行い、成果や課題について指導助言を行う。

<管理機関>



(イ)管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

教育委員会内部に設置したハイスクールビジョン推進委員会にて、新学科への改編の状況を共有し、事業全体の成果を検証するとともに、課題の解決に向けた支援を必要に応じて行う体制を構築する。

1 検証方法

(1) 運営指導委員会ヒヤリング

運営指導委員会による学校ヒヤリングの結果を、ハイスクールビジョン推進委員会に共有する。

(2) 拡大未来会議取りまとめ

拡大未来会議に参加する指導主事による成果と課題の取りまとめを、ハイスクールビジョン推進委員会に共有する。

(3) 学校が実施するアンケート

学校が実施している教員対象取組改善アンケートや生徒対象取組評価アンケートにより、教員や生徒の学校改革に関する意識の変容に関する分析結果をハイスクールビジョン推進委員会に共有する。

(4) 民間の評価システム

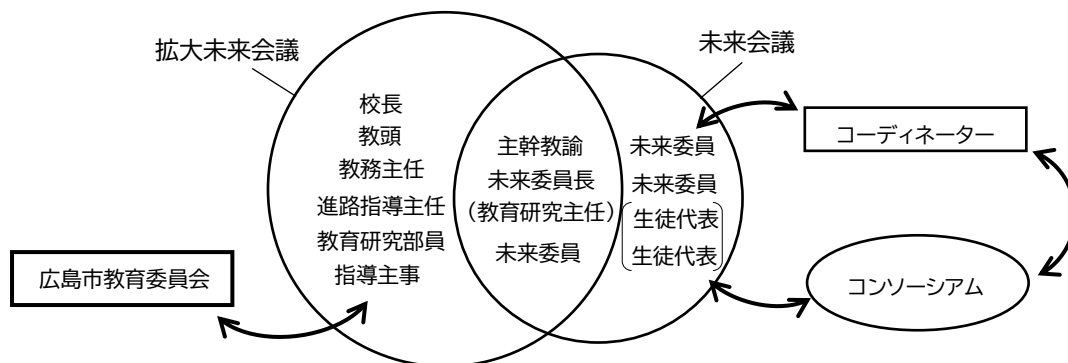
民間の評価システム「Ai GROW(IGS 株式会社)」により、学校が育成を目指す資質・能力の変容に関する分析結果をハイスクールビジョン推進委員会に共有する。

2 検証の時期

ハイスクールビジョン 推進委員会	運営指導委員会	拡大未来会議	アンケート	Ai-GROW
5月 ○第1回委員会 ←		4～5月 ○取りまとめ	6月 ○第1回実施	6月 ○第1回実施
9月 ○第2回委員会 ←	6月 ○第1回委員会 8月 ○第2回委員会	6～9月 ○取りまとめ		10月 ○第2回実施
3月 ○第3回委員会 ←	2月 ○第3回委員会	9～3月 ○取りまとめ	1月 ○第2回実施	2月 ○第3回実施

(ウ)学際領域学科又は地域社会学科等を設置する高等学校における事業の管理方法

申請校における学科改編検討を円滑に行うため、校内に「拡大未来会議」と「未来会議」を設置し、管理職、広島市教育委員会、コンソーシアム、コーディネーターとの連携により本事業を適切に管理する。



1 拡大未来会議

管理職と広島市教育委員会指導主事、関係分掌の主任等による「拡大未来会議」を設置し、学科改編の事業実施主体となる「未来会議」の検討状況や提案内容を把握し、適切に管理する。開催頻度は月1回程度とする。

2 未来会議

主幹教諭、未来委員長(教育研究主任)、未来委員(3名)、生徒代表(必要に応じて参加、2名)による「未来会議」を設置し、主に学科改編の事業実施主体として、学校教育目標や育成する資質・能力に基づいた事業計画を作成し、拡大未来会議へ提案を行う。未来会議専用の職員室(未来会議室)を新たに設置し、未来委員長と未来委員、コーディネーターの席を設ける。また、未来会議はコンソーシアムやコーディネーターとの連携の窓口となり、定期的に行う意見交換を踏まえて事業計画や実施方法について検証、見直しを行う。開催頻度は週1回程度とする。

3 コンソーシアムやコーディネーターとの連携

コンソーシアムは未来会議を窓口として定期的に学校と意見交換を行う。特にコーディネーターは未来会議室に席を設けることで常時助言を行うことができる体制を整える。また、コンソーシアムは学校評価を担う学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を充実させて整備し、学校評価(学校経営計画)の評価項目の一つに学科改編の検討状況の項目を設けることで本事業を管理する。

4 広島市教育委員会との連携

広島市教育委員会は、委員会内部に設置したハイスクールビジョン推進委員会において、事業を管理するが、拡大未来会議に参加する指導主事はその窓口となる。拡大未来会議に参加する指導主事は学校に指導・助言を行い、本事業を適切に管理する。特に学科改編の実施事業主体となる未来会議の実施計画の進行管理を担う。

(工)管理機関及び申請校における研究開発の実績(申請校が新設校の場合、管理機関における実績のみを記載)

1 管理機関における実績

(1) 国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業

平成29年度指定 音楽 黄金山小学校

平成30年度指定 音楽 黄金山小学校

平成31年度指定 家庭科 瀬野川中学校

令和2年度指定 家庭科 瀬野川中学校

2 申請校における実績

申請校は、平成27年度から令和4年度まで本市学力向上研究指定校として、主に主体的・対話的で深い学びの実現に向けて8年間研究を積み重ねてきた。

(1) 平成27年度広島市学校経営推進サポート事業「学力向上推進プラン」指定校

知識・技能を活用し生涯学び続けていこうという意欲の向上と課題探究・解決を目指す能動的学習(いわゆるアクティブ・ラーニング)の研究を本市高等学校において初めて行った。

(2) 平成28年度広島市立高等学校学力向上推進事業研究指定校

演習・対話・討論を取り入れた、課題発見とその解決を目指す能動的学習の研究を継続し、学校全体での組織的な取組として、学校の基盤となる学習法として推進した。

(3) 平成29年度広島市立高等学校学力向上推進事業研究指定校

能動的学習を学校全体の取組として継続し市立高等学校全体に普及させるとともに、総合的な探究の時間を軸とした課題発見と解決を目指す教科横断的な探究型学習の在り方に研究を行った。

(4) 平成30年度広島市立高等学校学力向上推進事業学力向上研究校

能動的学習について、豊かで深い学びを創造するために多様な授業方法を学校全体の取組として研究を行った。また、学習意欲向上に資する評価方法としてルーブリック評価表等の在り方について研究を行った。

(5) 平成31年度広島市立高等学校学力向上推進事業学力向上研究校

能動的学習を中心とした主体的かつ協同的に学ぶ集団を形成するための多様な授業方法の研究を行った。また、生徒主体の「考える授業」とそれに連動した「適切な評価」による授業の在り方について研究を行った。

(6) 令和2年度広島市立高等学校学力向上推進事業学力向上研究校

これまでの能動的学習をより深化・具体化させた協同学習を中心に据えた持続的な授業改善について研究を行った。

(7) 令和3年度広島市立高等学校学力向上推進事業学力向上研究校

新しい時代に求められる力を身に付けるための豊かで深い学びの創造をテーマとし、協同的・主体的に学ぶ集団づくりのための多様な授業方法の研究と一人一台端末を活用した豊かで深い学びの創造について研究を行った。

(8) 令和4年度広島市立高等学校学力向上推進事業学力向上研究校

新しい時代に求められる力を身に付けるための豊かで深い学びの創造を引き続きテーマとし、個の学びの深化を促す協同的な学びの創出と課題を発見し、解決を目指して主体的に粘り強く取り組む探究的な学びの創出について研究を行った。

(オ)運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
広島県立叡啓大学	保井 俊之	ソーシャルシステムデザイン学部 学部長・教授
広島県立広島大学	向居 暁	地域創生学部教授
岡山県青少年教育センター閑谷学校	香山 真一	所長 CSマイスター 元中央教育審議会臨時部会委員
広島市立大学キャリアセンター	小林 俊文	キャリアアドバイザー 元美鈴が丘高等学校長
広島市教育委員会	中谷 智子	広島市教育委員会指導担当部長

(カ)運営指導委員会が取り組む内容

<p>事業主体である学校及び管理機関である広島市教育委員会に対して指導助言を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・育成を目指す資質・能力の検証について・市立高校と大学間の連携強化(探究的な学びの協同実施、単位認定等)・市が所管する地域資源や人的ネットワークを活用した教育方法について・教科等横断的・探究的な学びを充実し、幅広い進路選択に対応する教育課程について・学校改革に資する人材交流・人材活用等について・運営・検証に生徒が主体的に関わる組織体制の構築について
--

工 学際領域学科又は地域社会学科等における取組

(ア)学際領域学科又は地域社会学科等におけるカリキュラムや教育方法等の特色・魅力
ある先進的な教育の内容

申請校は「国際平和文化都市「広島」をフィールドとした学びにより地域社会の平和と発展に貢献し続ける人物を育成する」ことを目標として掲げるが、入学する生徒の全てが学校外での主体的な学びに適応しているわけではないため、入学者選抜において、広島県公立高等学校入学者選抜の特色枠の活用や面談形式で全受検者に実施する「自己表現」の配点の比重の設定等により、自らを認識し表現することができる生徒も受け入れる体制を構築した上で以下のようなカリキュラム及び学習方法等により3年間を通した生徒の育成を目指す。

1 学校設定教科・科目『未来計画(仮称)』の新設

1年次に2単位で必修として実施する。生徒自らの興味や適性等による探究テーマの模索(キーワード「自己を見つめ、自分の好きを発見する」と共に、探究活動に必要なスキルと手法の習得を行う。これらに加えて、探究を行う上で不可欠な対人スキルトレーニング(ソーシャルスキルトレーニング等)により他者と協創する態度を育成することや自己を成長させるマインドセット(レジリエンス等)について学ぶことで、探究の型だけでなく、探究のサイクルにより内容が深化してく状態とし、探究学習により生徒が確実に資質・能力を身に付け伸ばしていくことができる基盤をつくる。

2 探究活動を重視した各教科・科目の授業改善

これまで申請校が行ってきた主体的・対話的で深い学びや協同学習を進展させ、生徒の個々の「問い」から、「社会につながる課題」を学ぶ授業を展開し、教科書内の知識の習得に留まらず、生徒が社会を通して教科横断的な視点を持つことを促していく。具体的には、生徒は「問い」や「社会につながる課題」に対して、「個人で深める」・「他者と協同して深める」・「専門家(教師・各種講師)にアクセスして深める」といった選択肢から生徒自身が選び学び続ける環境づくりを実現する。その際、授業内に留めず課外時間や家庭学習等も活用する。また、「個人で深める」学びのために学習支援サービス等を活用し、個別最適な学びを実現した上で、「他者と協同して深める」などで協働的な学びも一体的に充実させる。「専門家(教師・各種講師)にアクセスして深める」には学校の教職による助言だけでなく、外部の有識者とオンラインでの接続や、大学講師の出張授業を行うことなどを含め、社会につながるオープンな学びを充実させる。

3 総合的な探究の時間の充実

2学年および3学年の総合的な探究の時間を2単位程度連続で設定し、1学年の学校設定教科・科目『未来計画(仮称)』と併せて、全学年が縦割りで週1日の午後を探究に専念することができる日を設ける。広島市域を学びのフィールドと位置づけ、地域の資源をコンソーシアムの支援を受けながら活用して地域が主体的に「地域で学ぶ」体制(「地域を学ぶ」ではない)をつくる。探究のテーマは生徒自身の興味・関心があるだけでなく、社会と接続しながら自らのキャリア形成と結びつけられるよう主体的な設定を促す。探究的な活動の成果は、校内探究活動コンテスト、高校生による広島市議会提案発表会、全国高校生マイプロジェクトアワードなどを通じて、広島をフィールドとした学びを全国に発信する。

(イ)コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

1 連携・協力体制の構築の考え方

申請校と関係機関の間で、お互いの利益(Win-Win)となる関係を構築し、持続可能な事業展開を目指す。(関係機関の利益は括弧内で記す。)

2 関係機関等との連携の方法

(1) 大学との連携

生徒を対象とし、探究活動に必要な専門的知識や技能を伝える特別講義を実施する。(大学の広報や進学者の増加等につながる。)

教員を対象とし、授業や探究でのファシリテーターとして教師が振舞う技能を習得するための研修会を実施する。(大学の広報や研究等につながる。)

(2) 地域の小・中学校との連携

申請校の生徒が地域の小・中学校に出向き、授業や総合的な学習の時間の学習支援や部活動支援、学校行事の活性化等に取り組む。(小・中学校の学びの充実、将来的な教員志望者の増加につながる。)

(3) 地域おこしの推進を主とする行政との連携

地域の課題を探究活動のテーマとすること、探究の成果を商店街や公民館で発信することを推進する。(高校生視点のアイデアによる地域振興や、UIJ ターン就職の可能性を広げることにつながる。)

(4) 広島市佐伯区との連携

フィールドワークや実践の場を提供していただく。(高校生視点のアイデアによる地域振興や、地域イベントを生徒が企画・運営することによる地域活性化につながる。)

部活動指導員や特別講義の講師等、生きた学びを伝える人材を派遣していただく。(学校施設の地域共同利用や高校生との交流による地域活性化につながる。)

(ウ)コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績
広島経済大学	胤森 裕暢	教養教育部教授
広島工業大学	溝上 健文	アドミッションセンター広報参事 元広島県立高等学校長
有限会社 F.D.K.	木村 亮平	代表取締役
美鈴が丘高等学校 PTA	織田 絵美香	副会長
美鈴が丘公民館	河部 哲郎	館長
佐伯区役所	吉村 正美	市民部地域おこし推進課課長
美鈴が丘高等学校	生徒代表2名程度	

(工)配置するコーディネーターの属性や役割

所属	氏名
広島経済大学	胤森 裕暢

当該者の主な実績

教養教育学部教授／広島市教育委員会指導主事、広島市立高等学校教諭、広島市児童療育指導センター(現広島市子ども療育センター)主査を歴任／独立行政法人教職員支援機構の道徳教育指導者養成研修講師／広島県、広島市、竹原市、岡山県、山口県、滋賀県教育委員会の諸会議、教員研修、校内研修の講師／保護者向けの講演会(三和中学校地区懇談会、広島市南区PTA連合会)の講師／教育ネットワーク中国運営委員会「これからの教師像」主担当／広島県立三原東高等学校、広島市立美鈴丘高等学校、広島市立国泰寺中学校、安佐南中学校、祇園中学校の学校運営協議会委員／臨床心理士・学校心理士

コーディネーターが取り組む内容(勤務形態を含む)

〔勤務形態〕

外部講師

〔勤務日〕

・週に1日4時間程度

〔取組内容〕

- ・関係機関との橋渡し役を担う。
- ・週1回程度開催の未来会議、月1回程度開催の拡大未来会議に出席し、検討事項について助言等を行う。
- ・未来会議室にコーディネーター専用の席を設け、令和5年度は試行実施する学校設定教科・科目や総合的な探究の時間のカリキュラム開発について助言等を行う。
- ・毎週木曜日5限目の総合的な探究の時間に校内を巡回し、生徒の取組について助言等を行う。
- ・生徒や教員が希望する外部機関(大学、行政機関)との連携の調整を行う。
- ・生徒の探究活動を支援する教員に対して助言等を行う。
- ・職員研修にオブザーバーとして参加したり、講師として講演したりする。
- ・コンソーシアム会議に出席し、検討事項について助言等を行う。

(オ)学際領域学科又は地域社会学科等の設置及び設置に向けた検討に関する生徒、保護者、地域等への説明の実施

1 生徒への説明

- ・7月24日(月)全校集会を実施し、令和7年度から新学科を設置し、新たな取組を実践することを説明する。
- ・コンソーシアム会議に生徒の代表が毎回2名程度参加し、事業内容を把握する。また、コンソーシアム会議で審議した内容は生徒会役員や新聞文芸部員の広報活動によって全生徒に告知する。

2 保護者への説明

- ・5月13日(土)PTA 総会にて、令和7年度から新学科を設置し、新たな取組を実践することを説明する。また、同内容の文書の配付及び電子メール等の配信によって全保護者への説明を行う。
- ・年4回の PTA 常任理事会及び年3回の PTA 理事会にて、コンソーシアム会議の議事録、令和7年度に向けた学校における取組の様子等を報告する。同内容を PTA 新聞や学校 web ページに掲載し、説明を行う。

3 申請校を志願する中学校生徒及びその保護者への説明

- ・申請校の教職員及び生徒が中学校を訪問し、新学科について説明会を実施するとともに、訪問先の生徒に対して本校生徒主体となって学校設定教科・科目『未来計画(仮称)』の体験授業を実施する。
- ・オープンスクール及びミニオープンスクールでは本校生徒が企画・運営する説明会を実施し、検討内容や探究活動の取組を報告するとともに、学校設定教科・科目『未来計画(仮称)』の体験授業を実施する。

4 同窓会への説明

- ・申請校の校長が中心となって同窓会の代表を通して同窓生に説明を行う。

5 地域への説明

- ・学校開放日(5月13日(土)の PTA 総会、9月9日(土)のオープンスクール、10月14日(土)のミニオープンスクール、2月15日(木)の探究発表会)において、令和7年度から新学科を設置し、新たな取組を実践することを説明する。
- ・地域等からの希望に応じて説明会を実施する。
- ・広島市および本校 web ページにコンソーシアム会議における検討内容、令和7年度に向けた学校における取組の様子等を掲載し、説明する。

オ 実施計画

(ア)3ヶ年の実施計画の概要

[令和5年度]

※ 事業内容の先行実施のため、2学年に特別探究クラスを設置する。

5月 第1回ハイスクールビジョン推進委員会の開催

6月 第1回運営指導委員会の開催

民間アセスメントツール(Ai GROW)第1回実施

第1回コンソーシアム会議の実施

第1回教員対象取組改善アンケート及び生徒対象取組評価アンケートの実施

7月 3学年の探究発表会

学校設定教科の評価規準作成

8月 第2回運営指導委員会の開催

総合的な探究の時間の評価規準、年間指導計画作成

9月 第2回ハイスクールビジョン推進委員会の開催

学校設定教科の年間指導計画作成

10月 学校設定教科の試行実施・評価改善

民間アセスメントツール(Ai GROW)第2回実施

入学者選抜実施内容検討開始

第2回コンソーシアム会議の実施

1月 第2回教員対象取組改善アンケート及び生徒対象取組評価アンケートの実施

2月 1・2学年の探究発表会

民間アセスメントツール(Ai GROW)第3回実施

第3回コンソーシアム会議、第3回運営指導委員会の開催

3月 年間評価

第3回ハイスクールビジョン推進委員会の開催

[令和6年度]

※ コンソーシアム会議、運営指導委員会、ハイスクールビジョン推進委員会、学校アンケート、民間アセスメントツールは令和5年度と同時期に同回数程度開催

※ 1学年で学校設定教科『未来計画(仮称)』(2単位)を実施

※ 2・3学年で総合的な探究の時間を2単位に増単して実施

5月 新学科について掲載した広報物等の作成

6月 新学科名・入学者選抜実施内容発表、教育課程の完成、新学科教書採択

10月 入試要項発表

2月 選抜試験

3月 年間評価

[令和7年度]

4月 新学科運営開始(年次進行)

※ 在校生2・3年生と連携した探究活動の推進

※ 年次進行による教育内容の充実

※ コンソーシアム会議、運営指導委員会、ハイスクールビジョン推進委員会による新学科の取組評価及び未来会議を中心としたカリキュラム・マネジメントの実施

※ 指定終了後の継続運営のための予算要求等の検討

(イ)令和5年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	<p><未来会議> 学校設定教科の検討 育成を目指す資質・能力の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未来会議室、PTA 活動推進室の設置 ・未来会議が検討する内容の明確化 ・連携協力体制の構築準備
5月	<p><未来会議> 学校設定教科の評価規準作成 <教員研修> 評価と指導の一体化と育成を目指す資質・能力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員の委嘱 ・コンソーシアム構成員の委嘱 ・第1回ハイスクールビジョン推進委員会 (広島市教育委員会)
6月	<p><その他> 第1回教員対象取組改善アンケート 第1回生徒対象取組評価アンケート 第1回 Ai GROW 実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回運営指導委員会 ・第1回コンソーシアム会議(フィールドワークや学校開放等での連携協力依頼)
7月	<p><未来会議> 探究発表会(3学年)の実施 発表会の成果と課題の取りまとめ <教員研修> 授業における問いのデザイン (外部講師) <その他> 他都市先進校視察(熊本市立必由館高等学校)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究発表会(3学年)(コンソーシアム委員や地域の方々へ公開) ・他都市指定校との意見交換(学校間だけでなく、生徒観でも意見交換し有機的に連携)
8月	<p><未来会議> 先進校視察等を踏まえた総合的な探究の時間の年間指導計画等作成 必要経費等の整理 <教員研修> 生徒の「問い」から始まる授業 (外部講師) 授業観察期間の授業実践計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回運営指導委員会 ・先進校視察を踏まえた連携協力体制の再整備
9月	<p><未来会議> 先進校視察等を踏まえた学校設定教科の試行実施・評価改善 <教員研修> 教科の特性を活かした教育課程 授業観察期間①(~12月末)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放(オープンスクール)(コンソーシアム委員や地域の方々へ公開) ・第2回ハイスクールビジョン推進委員会

10月	<p><未来会議> 学校設定教科試行実施・評価改善 試行実施の成果と課題の取りまとめ 入学者選抜実施内容の検討</p> <p><教員研修> 先進校視察及び研究会等報告 広島市立高等学校研究授業</p> <p><その他> 第2回 Ai GROW 実施 他都市先進校視察(北九州市立高等学校)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校開放(ミニオープンスクール) ・他都市指定校との意見交換(学校間だけでなく、生徒観でも意見交換し有機的に連携) ・第2回コンソーシアム会議(学校設定教科や総合的な探究の時間への具体的な協力依頼)
11月	<p><未来会議> 学校設定教科・総合的な探究の時間の年間指導計画の検討</p> <p><教員研修> 市教委主催公開授業研究会</p> <p><その他> 他都市先進校視察(京都市立開建高等学校)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別探究活動(1学年)フィールドワーク ・特別探究活動①(特別探究クラス)フィールドワーク ・他都市指定校との意見交換(学校間だけでなく、生徒観でも意見交換し有機的に連携)
12月	<p><未来会議> 学校設定教科・総合的な探究の時間の年間指導計画の決定</p> <p><教員研修> 教科における探究的な学びについて(外部講師)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別探究活動②(特別探究クラス)フィールドワーク ・次年度のコンソーシアム委員及びコーディネーターの検討
1月	<p><未来会議> 新学科名、学校設定教科名の検討</p> <p><教員研修> 授業及び校務における ICT 活用 授業観察期間②(~2月末)</p> <p><その他> 第2回教員対象取組改善アンケート 第2回生徒対象取組評価アンケート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度のコンソーシアム委員及びコーディネーターの決定
2月	<p><未来会議> 探究発表会(1・2学年)の実施 新学科名、学校設定教科名の決定</p> <p><その他> 第3回 Ai GROW 実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究発表会の公開(コンソーシアム委員や地域の方々へ公開) ・第3回コンソーシアム会議 ・第3回運営指導委員会
3月	<p><未来会議> 年間評価</p> <p><教員研修> 先進校視察及び研究会参加報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回ハイスクールビジョン推進委員会 ・新学科設置(教育委員会議)

(ウ)事業の進捗状況の定期的な確認や改善の仕組み

本事業のアウトプットは、運営指導委員会ヒヤリング、拡大未来会議取りまとめ、教員及び生徒対象アンケート、民間の評価システム「Ai GROW」を中心にハイスクールビジョン推進委員会に対して行う。また、生徒の探究生徒発表会に参加するコンソーシアム委員等からの聞き取り等もアウトプットとして加え、本事業の進捗の確認や改善として活用する。

1 事業の進捗状況の定期的な確認の仕組み

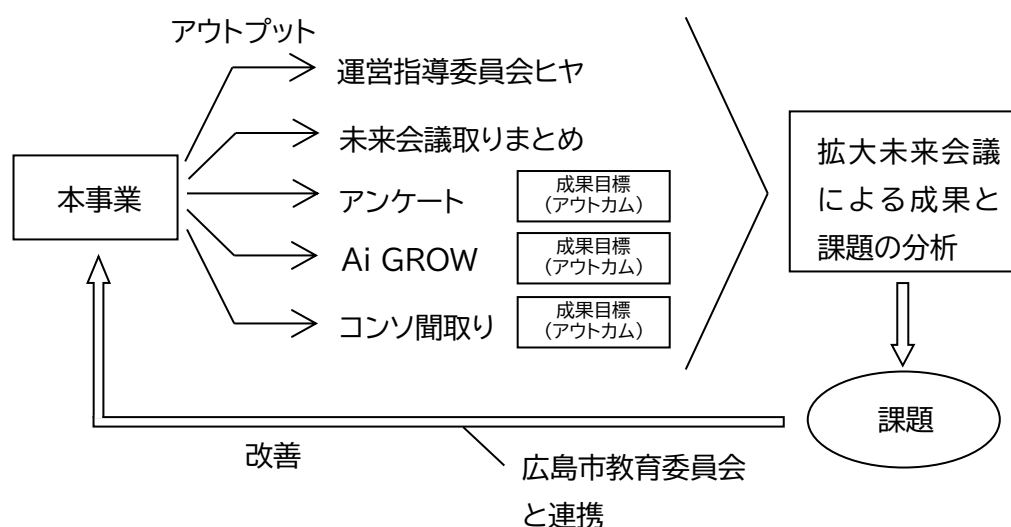
ハイスクールビジョン推進委員会(年3回開催)において、運営指導委員会ヒヤリング(年3回開催)、拡大未来会議取りまとめ(年3回)より本事業の進行管理を行う。また、コンソーシアム会議(年3回開催)においても申請校が進捗状況を報告する仕組みを構築する。

2 事業の改善の仕組み

拡大未来会議において、申請校が育成を目指す資質・能力が伸長しているかどうか、本事業のアウトプットを分析することにより評価する。具体的には、教員及び生徒対象アンケート(年2回6月、1月実施)と、生徒の探究発表会に参加するコンソーシアム委員等からの聞き取り等(年2回7月、2月実施)の項目を、資質・能力の伸長に関連したものとする。また、民間の評価システム「Ai GROW」(年3回6月、10月、2月実施)の測定項目にも申請校が育成を目指す資質・能力を事前に設定し、アンケートや聞き取りによる成果や課題の分析を客観的に裏付けるものとして位置付ける。

課題については、拡大未来会議において、以下の視点等により改善の検討を行い、必要に応じて管理機関である広島市教育委員会と連携して課題解決を図る。

<改善イメージ>



カ 成果の普及のための仕組み

- 1 広島市教育委員会主催の教育イベントにおいて全国へ発信
 - ・広島市教育委員会主催の教育イベントを開催し、本校生徒による先進的な取組に関するプレゼンテーションやコーディネーター等によるパネルディスカッションを行い、全国に向けて本市の先進的な取組を発信する。
- 2 成果発表の場を広げる
 - ・生徒の探究活動の成果を発表する取組として、他の高等学校の生徒とともに意見交換会や成果発表会を実施する(10月に実施する高校生による広島市議会提案発表会等)。
 - ・7月、11月に実施する校内探究発表会に県内小学生、中学生、高校生、教職員、関係機関の職員、地域住民等を招いて、成果の普及、共有、提言、実践の場として活用する。
 - ・地域の小学校や中学校へ訪問して行う学校説明会及び体験授業に、本校生徒も講師として参加し、取組発表や探究の模擬授業を行う。
- 3 本校 web ページの活用
 - ・探究活動の成果物や探究発表動画、パンフレット等を本校 web ページに掲載する。
 - ・大学、地域と連携した取組について、本校 web ページに掲載する。
- 4 広島市の広報機関の活用、報道機関との連携
 - ・取組の案内等を市政たより、市の web ページへ掲載し、広く周知を図る。

キ 国の指定終了後の取組継続のための仕組み

取組を継続していくため、改編の効果を検証し新しい普通科の在り方について必要に応じて柔軟に見直しを図る仕組み、学校内部から改革を推進する仕組み、設置者である教育委員会からの人的支援や物的支援を行う仕組みを構築することを検討する。

- 1 ハイスクールビジョン推進委員会による検証
 - 教育委員会内部に設置したハイスクールビジョン推進委員会において、改編の効果を検証し、構成委員からの助言により随時見直しを図る。また、人的支援や物的支援についても検討し、国からの補助が終了した後も学校の体制を維持するための予算措置について検討する。
- 2 校内の未来会議(将来構想検討委員会)の維持
 - 校内に設置された未来会議(将来構想検討委員会)を維持し、国の指定終了後であってもハイスクールビジョン推進プログラムに基づいた魅力ある高等学校づくりが推進できるような検討体制を維持する。
- 3 コンソーシアムの維持
 - 国の指定終了後もコンソーシアムを維持し、改編の効果検証や構成委員からの助言により随時見直しを図る。

【広島市立美鈴が丘高等学校】グローバル探究科(令和7年度設置)

学校教育目標:校訓「進取 友愛 節度」のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において、自らの未来を切り拓き、「地域共生社会」の担い手となる人材を育成する。
 育成を目指す資質・能力:地域や社会の課題を見出す力/正解のない課題に向き合い続ける力/協同して課題を解決する力

教員と生徒による
 (改編検討組織) X
 未来会議
 コンソーシアム



学校と関係機関を繋ぐ
 「学びのファシリテーター」
 高校コーディネーター

未来会議で生徒と教員が協働し、高校コーディネーターが学校とコンソーシアムを構成する様々な関係機関を繋ぐ

令和5年度の目標

新学科で育成を目指す資質・能力の策定

総合的な探究の時間の系統的カリキュラム化

探究活動を重視した授業改善を9つの資質能力と関連させて実施

「探究」の基礎力を育成する学校設定科目「未来計画」の開発

生徒の学校運営への参画・先進校視察

特色ある学校運営の推進

令和5年度の取組状況

職員研修等による資質・能力の策定とルーブリックの開発。全教室で資質能力ルーブリックの掲示。

令和5年度全体計画をベースとした「探究」コンセンサスの確立と系統化。年間2回の学校全体での探究成果発表会の実施と事後アンケートによる質的改善。

3か月間の授業月間の実施。育成したい資質能力に基づいた授業案の公開と実施、観察カードの提出。

「未来計画」の年間指導計画の作成。探究基礎スキル「合意形成」「レジリエンス」複数回のミニ探究、「探究のフレームワーク」を身につける計画及び教材の作成。

生徒会を中心に、令和4年度指定の市立高校3校を視察し、授業視察や生徒交流を実施。生徒による職員研修で視察報告及び提案。

ノーチャイムの試行実施や探究活動に特化した教育課程の開発。

令和5年度の○成果と●課題

- 新学科で身につけるべき資質・能力の策定とルーブリックの構築と共有
- 学校全体として「探究」の質的改善を促進する仕組みの構築及び「未来計画」の年間指導計画の作成。
- 新学科に関する様々な仕組みの試行実施及び検証や決定。高校コーディネーターの採用実施。
- 生徒が学校運営に関わるための先進校視察や教員との共同研修の実施。

- 本校の学校教育目標により特化した形での資質・能力及びルーブリックの改善
- 総合的な探究の時間を通して地域社会とつながり、課題解決に貢献するという実際の成果の創出
- コーディネーターを中心とした地域社会との接続・連携
- 新学科のコンセプトを伝える広報物の作成・配布や中学生に向けた新学科の説明と地域社会への周知

2 研究開発実施報告

(1) 新しい学科で育成を目指す資質・能力の策定とルーブリックの開発 (資質・能力の具体化、ルーブリック開発の過程、ルーブリックの活用)

ア 令和5年度の振り返り

(ア)目標

- ・新しい学科で育成を目指す資質・能力を本校の関係者と共に作り上げる。
- ・策定した資質・能力に基づいたわかりやすいルーブリックを開発する。

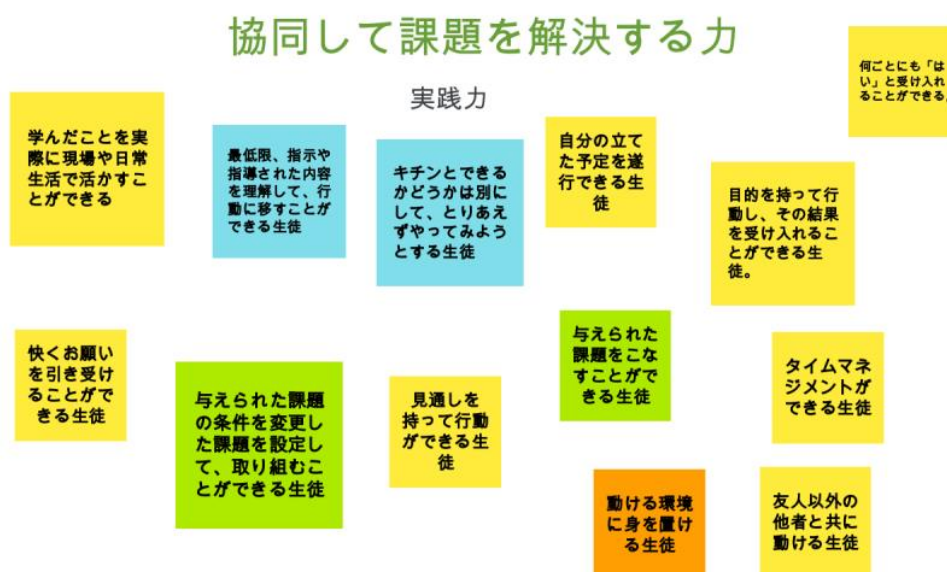
(イ)目標達成に向けた取り組み

- ① 教職員研修で得た意見を基に抽象的な資質・能力を具体化する
- ② 具体化した資質・能力をレベル分けする
- ③ ルーブリックの原案に関して様々な関係者から意見をいただく

(ウ)各取り組みの振り返り

- ① 教職員研修で得た意見を基に抽象的な資質・能力を具体化する

「地域社会の発展に貢献し続ける人物」に必要な資質・能力の 3 分野、①地域や社会の課題を見出す力②正解のない課題に向き合い続ける力③協同して課題を解決する力をそれぞれ①情報収集力・情報分析力・発信力、②自分力・思考力・行動力、③調整力・連携力・実践力の9つの資質・能力として細分化した。さらに教職員研修で9つの資質・能力を見た時に連想する本校生徒に必要な力をジャムボードに書く形で共有した。各資質・能力に書かれた記述について AI テキストマイニングを使って分析し、最終的な各資質・能力の定義を策定した。



② 具体化した資質・能力をレベル分けする。

①で考えた定義を標準レベル(レベル A)、発展レベル(レベル S)としてレベル分けしてルーブリック化した。評価の際に使用しやすいようにチェックボックスをつけた。

③ ルーブリックの原案に関して様々な関係者から意見をいただく

コンソーシアムや運営指導委員会など様々な本校の関係者から意見もいただき、幾度も修正を重ねた。

(エ)全体統括

令和5年度については、ひとまず「新学科で育成を目指す資質・能力の具体」を関係者と協働しながら学校全体や関係機関に示すことができた。ただ、まだ生徒や教職員に資質・能力が十分に浸透しているとはいえない状況である。カリキュラムのどの場面で資質・能力を育てていくか、またその測定・評価を効果的に行う方法の策定など課題は多く残っている。

イ 次年度への展望

令和6年度は、以下の2つの展開を中心に考えている。それぞれ具体的な展開を述べていく。

① 「グローバル探究科(仮称)で育成を目指す資質・能力の改善・特色化」

現在9つある資質・能力の中には定義が被っているものも見受けられ、また数が多すぎることも自体が、つけたい資質・能力の共有化に向けて障壁となっている側面もある。こういった課題を解決するために、つけたい資質・能力を再考し、現在ある資質・能力同士を併合するなどして新たな資質・能力として定義づけていきたい。また、グローバル探究科(仮称)として特に育成したい資質・能力を見出し本校の特色としていく必要がある。

② カリキュラムにおける「グローバル探究科(仮称)で育成を目指す資質・能力」の活用

学校行事、特別活動、総合的な探究の時間の時間、各教科の授業などの全てのカリキュラムにおいて、「グローバル探究科(仮称)で育成を目指す資質・能力」が着実に育成されるような意識づけや仕組み作りが肝要である。特に学校行事や総合的な探究の時間においては、決まった評価軸がない分、担当者によって目的や目標に幅が出やすい。学校の教育活動が一定の目的の一貫性を保ちながら実施されるために、「グローバル探究科(仮称)で育成を目指す資質・能力」を意識していくことが役立つだろう。

令和5年度 広島市立美鈴が丘高等学校 育成を目指す9つの資質・能力のルーブリック

主要 3分野	9つの 力	「国際平和文化都市『広島』をフィールドとした学びにより 地域社会の発展に貢献し続ける生徒」	
		レベルA	レベルS
地域や社会の課題を見出す力	情報収集力	<input type="checkbox"/> 他者の意見を傾聴することができる。 <input type="checkbox"/> インターネットや書籍を活用して情報を収集できる。	<input type="checkbox"/> 情報を多角的に捉えることができる。 <input type="checkbox"/> 専門家や論文を活用して情報を収集できる。
	情報分析力	<input type="checkbox"/> 複数の情報を比較することができる。	<input type="checkbox"/> 複数の情報の変化をみることができる。 <input type="checkbox"/> 複数の情報を分類することができる。
	発信力	<input type="checkbox"/> 地域の行事や課題、社会問題に興味を持つことができる。 <input type="checkbox"/> 考えや意見を、相手に伝えることができる。 <input type="checkbox"/> 外部に情報を発信することができる。	<input type="checkbox"/> 考えや意見を相手に応じて適切に伝えられるように工夫することができる。 <input type="checkbox"/> 新聞やSNS、インターネットを効果的に使って、外部に発信できる。
正解のない課題に向き合い続ける力	自分力	<input type="checkbox"/> 現状を受け入れ自己を改善しようとする姿勢がある。 <input type="checkbox"/> 継続的に自己を高めようとする。	<input type="checkbox"/> 自己の良さの気づいてそれを磨き上げることができる。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持ちながら、他者の意見を聞き現状を受け入れられる。
	思考力	<input type="checkbox"/> データや経験をもとに多角的に課題を捉えることができる。 <input type="checkbox"/> 論理的に結論を導こうとしている。	<input type="checkbox"/> 仮説を立てた上で検証を繰り返すことができる。 <input type="checkbox"/> 論理的に結論を導くことができる。
	行動力	<input type="checkbox"/> 実現に向けた計画を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 目標を設定し、行動することができる。	<input type="checkbox"/> 目標達成のための計画に粘り強く取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 立てた計画に基づいてより良い成果を出すために試行錯誤することができる。
協同して課題を解決する力	調整力	<input type="checkbox"/> 引き受けた仕事に責任感を持つことができる。 <input type="checkbox"/> 周囲と仕事の分担やスケジュールを調整しようとしている。	<input type="checkbox"/> 他者の意見を中立的に聞き入れ、多様な関係性や状況を踏まえることができる。 <input type="checkbox"/> 周囲と仕事の分担やスケジュールを調整し、粘り強く課題に取り組むことができる。
	連携力	<input type="checkbox"/> 他者と意見を交換しようとしている。 <input type="checkbox"/> 目標を達成するために協力し、行動することができる。	<input type="checkbox"/> 他者の意見や気持ちを受容し理解することができる。 <input type="checkbox"/> 自分の意見を他者と共有したり、積極的に質問することができる。 <input type="checkbox"/> 複数で目標を達成するために協力し、合意形成しながら行動することができる。
	実践力	<input type="checkbox"/> 与えられた課題に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 指導されたことを理解し、動くことができる。	<input type="checkbox"/> 自ら課題を設定し取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 指導されたことを理解し、発展的に考えながら動くことができる。

(2) 総合的な探究の時間の改善 (全体計画の策定、探究成果発表会の実施と振り返り)

ア 令和5年度の振り返り

(ア)目標

- ① 総合的な探究の時間の取組を系統的にまとめて、関係者が共通認識を持って総探に関わる。
- ② 生徒の探究活動を発表する場を設け関係者からフィードバックを得て、総探の改善に必要な要素を見出す。
- ③ 従来の総合的な探究の時間で行われていた取組を深化させ、本校で育成したい資質・能力をより伸長できるような教育プログラムにする。

(イ)目標達成に向けた取組

- ① 現在行われている総探のストーリーを言語化した上で、全体計画としてまとめた。全体計画を作成する上でまずは担当分掌である教育研究部のメンバーで、本校が目指す「地域共生社会の担い手」を育て得るような総探のカリキュラムの在り方を話し合い、目指したいストーリーを作り上げた。このように教育研究部のメンバーが総合的な探究の時間のカリキュラムについて十分理解したことで、これまでと比較して体系的に総合的な探究の時間に取り組むことができた。
- ② 本校の課題として年度当初から感じていたのが、探究の成果を発表する場がないことである。クラス内で各自の発表を披露する場はあったのだが、担任やクラスの生徒以外からのフィードバックを受けることができないため、探究の改善プロセスとして発表の場が十分に機能していなかった。こうした現状を受けまず取り組んだことが、3学年の生徒の探究成果を学校全体で共有することである。7月に3学年探究発表会と銘打ち開催したこの発表会には、本校の全ての生徒と教職員が参加し、3学年の探究の代表発表を聞いた。この発表会後には生徒・教職員にアンケートをとり、成果と課題について当事者目線から情報を集めることができた。また、本校の教育カリキュラムに指導助言を行うコーディネーターの大学教員からも探究の専門的な視点からのフィードバックをもらうことができた。この発表会のアンケート結果から浮彫になってきたいくつかの課題、例えば、「課題にさらされている当事者目線」「フィールドワーク等課題に対して直接アプローチする経験」「根拠として挙げている情報の質」などについては今後改善の必要がある。(3学年探究発表会振り返りに詳細あり)

また3月には第1、2学年探究中間発表会を実施した。1年生は地域魅力発信、2年生は地域課題発見について発表し、特に2年生は発表に対して指導助言の先生方から個別のフィードバックをもらうことができ、3年次の探究の深化へとつながった。

- ③ 主に取り組んだのは、従来行われていた「平和教育」の深化である。名称を「平和探究」と変更し、広島大学平和教育センターのファンデルドゥースルリ先生による「平和探究講演会」の実施により、広島の平和を多角的に見る力を育成したり、「平和探究フィールドワーク」では自分で選択した広島市域にある戦争遺構を生徒だけで訪問・見学したりした。1つ目の「平和探究講演会」は、グローバル探究科においては欠かせない要素として、2つ目の「平和探究フィールドワーク」は、生徒が自分たちで計画を立て行動するというこれまでにない動きの中で、教員が拠点地で生徒の安全管理をしたり、食事をどのようにとったりするのかなど、来年度実施予定の「地域探究フィールドワーク」に向けたノウハウや情報を収集する上で役立つ。

(ウ)各取組の振り返り

- ① 総合的な探究の時間の取組を全体計画としてまとめる中で、学校として描く総探のストーリーの過不足に気づくことができたり、関係者と同じ目線で協議することができたりと、総探を様々な人を巻きこんで展開していくために役立つものであると感じた。課題として挙げた「地域探究」を関係機関と連携して実施することについては、その連携を担う人材が役割として配置されていなかったことや、連携の具体や生徒からの要望が上手く見出せないことが、実施が難しかった理由として考えられる。
- ② 各学年の探究発表に適切な時期を考えると、3年生は夏休みに入る前で一度成果発表をしておくことが良いと感じた。ただ、1, 2年生に関しては7月だとまだ探究の内容が十分に深まっていないので発表が難しく、年度末の3月に別途、探究発表会を設けることにした。これにより1, 2学年の間に探究の専門家や、地域の方々などからフィードバックをもらうことで3学年での探究の質を高めることを狙っている。また、3月の発表会での指導助言の先生方からの生徒発表への個別のフィードバックを参加教員が聞き、自分の探究の指導の際に大変参考になるといった感想が多く聞かれた。
- ③ 今年度の取組をベースとして、「平和探究フィールドワーク」にポイント制を導入し、訪問や見学に時間のかからない訪問先は低い点数、訪問や見学に時間のかかる訪問先は高い点数にして、1グループあたりに課せられた一定の点数をクリアする仕組みを作り、自律的に生徒が様々な訪問先に向かうようにすることで、1日の中でより充実したフィールドワークを行えるようにするなど、フィールドワークの実施方法についても更に工夫していきたい。

(工)全体統括

今年度は総合的な探究の時間の改善を、学校全体として一丸となって進めていくべき施策と位置づけ、以下のようなプロセスで推進できるという仮説のもとで動いた。

- ① 現状を正しく把握すること、また現状を把握する場を設けること(探究発表会の創設)
- ② 現状を関係者と共に分析し、課題と成果を把握すること(発表会でのフィードバック、アンケート)
- ③ 推し進めたい施策の理想像を打ち出し、現状とのギャップ(差異)を認識する(教育研究部会、未来会議、職員研修)
- ④ そのギャップをどうすれば埋めることができるのか考え、実行する(教育研究部会、未来会議、職員研修)
- ⑤ ①に戻り、現状を把握する場を通して何が前より改善したか、何をもっと改善すべきか考える(探究発表会、運営指導委員会等)
- ⑥ 以下、継続

探究発表会の振り返りを起点とした DCPA サイクル(実行⇒確認⇒計画⇒改善実行)を地道に継続し、着実に総合的な探究の時間の質を向上させていきたい。またこれまで以上に様々な地域関係者に探究発表会を見てもらえるように働きかけていきたい。

イ 次年度への展望

来年度からは、「高校コーディネーター」が雇用される予定である(以下、CN)。今年度、試行的に実施した様々な取組を発展させ、CN と協働することで様々な関係機関と連携を深めながら本校の総合的な探究の時間を充実させていきたい。最大限 CN の持つ資質・能力、個性や経験が生きるような協働体制の構築にも力を入れていきたい。

学校教育目標						
校訓「進取 友愛 節度」のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において、自らの未来を切り拓き、「地域共生社会」の担い手となる人材を育成する。						
学校教育目標に基づいた育てたい生徒像						
「国際平和文化都市『広島』をフィールドとした学びにより地域社会の発展に貢献し続ける人物」						
生徒の願い	育てたい9つの資質・能力(9C)				地域の願い	
○生徒が自分たちの想いを表現して生き生きと主体的に学習したい ○自身や身近な地域の課題を見出し解決する学習は面白い	主要3分野		9つの資質・能力			○自分たちの課題を大切にしてほしい ○地域は生徒の学びに協力したいので相談に来てほしい
	地域や社会の課題を見出す力	・情報収集力(①)	・情報分析力(②)	・発信力(③)		
	正解のない課題に向き合い続ける力	・自分力(④)	・思考力(⑤)	・行動力(⑥)		
	協同して課題を解決する力	・調整力(⑦)	・連携力(⑧)	・実践力(⑨)		
総合的な探究の時間の目標						
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。						
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。						
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
各学年の学習内容						
《探究スローガン》 自分の【好き】を究め、社会に貢献する美高生!						
学年	第1学年	第2学年	第3学年			
単位数	必修2単位	必修2単位	必修2単位			
学年テーマ	《地域社会×自分》 【自己理解を深める】 【探究基礎力をつける】 【興味関心から探究する】 【地域の魅力を発見する】	《現実社会×自分》 【他者と協働する】 【探究基礎力を探究へ活かす】 【興味関心を進路探究へつなげる】 【地域の課題を発見し分析する】	《未来社会×自分》 【人生を探究的に振り返る】 【探究を進め、未来へ継承する】 【進路探究を進路実現に役立てる】 【地域の課題解決に貢献する】			
年次目標	・探究の基盤となる自己理解を深め、探究的な思考や探究の基本型を活用することができる。 ・自分の興味関心のあるトピックを探究的な思考で分析し、自分なりに考察することができる。 ・自分の住む広島市域について学び、その魅力に気づき、他者に発信することができる。	・実際の社会課題を見つけ出しながら、その課題を現状がより良くなるように解決できる。 ・1年時に学んだ探究の基礎を活用して思考を深めることができる。 ・他者と関わり合いながら探究を行うことができる。	・探究発表会を節目として実際に地域や他者に還元し、課題解決のために行動できる。 ・他者に対して、これまでの探究とその過程を自分の言葉で語るができる。 ・新たな問いをもち、今後のキャリアにつなげるができる。			
具体的な学習内容と学習活動	合意形成・レジリエンス(9C:④⑤⑦) 他者との適切に協働するために必要な合意形成のスキルや難しい局面でも粘り強く課題解決に取り組む続けるために大切なレジリエンスを高める。 キャリア探究Ⅰ(9C:③⑤⑨) 【好き】探究プロジェクト ☆探究の型を学び、自分の興味関心を深掘りして、探究的な思考で深めていく。 平和探究Ⅰ(9C:①⑥⑦) 平和探究講演会Ⅰ 平和探究フィールドワーク☆戦争によって変わった人々の営みや被爆の実相を各々が問いを持ち、自律的に平和について探究していく。 地域探究Ⅰ(9C:①⑤⑨) 地域魅力発信プロジェクト/地域探究発表Ⅰ ☆自分たちが住む広島市域について、様々な角度から学び、広島市域の魅力について理解を深め、その魅力を他者に発信する。また、その過程で気づいた課題についても考える。	キャリア探究Ⅱ(9C:①⑥⑧) 修学旅行プロジェクト ☆修学旅行を題材として東京での進路別フィールドワークで希望進路の最先端の状況を知り、地域においてそれがどのように生かせるかを考えた上で自身のキャリアイメージを具体化し、進路実現に向けた意欲を高める。 平和探究Ⅱ(9C:①⑤⑨) 平和探究講演会Ⅱ 平和について研究している専門家の話を聞くことで、自身の平和観を深化させる。1年次の平和探究Ⅰにさらに知識や思考を積み重ねる。 地域探究Ⅱ(9C:②⑤⑨) 地域課題発見プロジェクト/地域探究発表Ⅱ ☆1年次に見つけた課題や、修学旅行での学びを軸にして、希望進路とその分野が抱える地域課題を見つける。その課題をどのように解決することができるのか道筋を立てる。	キャリア探究Ⅲ(9C:②④⑨) マイヒストリープロジェクト ☆授業や総合的な探究の時間を含んだ高校3年間を振り返り、これまでの自分の在り方・生き方を見つめ直す。その上で、今後の人生において自分はどう生きていくかを前向きに考える。 平和探究Ⅲ(9C:①⑥⑨) 平和探究講演会Ⅲ 平和について研究している専門家の話を聞くことで、自身の平和観を深化させる。2年次の平和探究Ⅱにさらに知識や思考を積み重ねる。 地域探究Ⅲ(9C:③⑥⑧) 地域課題解決プロジェクト/地域探究発表Ⅲ ☆2年次に見つけた広島市域の抱える課題を解決するための道筋を軸として、実行に移した上で一連の課題解決の過程を他者に説明する。また、今後につながる新たな問いを見つける。			
関連行事	・平和探究講演会：各学年の3年間の探究の過程に位置づけ、自分の平和観を確かめ広げ深めていく手がかりを得る。 ・探究成果発表会：学校・地域関係者にも参加してフィードバックをもらうことで、探究の次のステップへとつなげる。					
評価方法	ルーブリック評価+探究成果発表会での専門家や地域の人を交えた評価+民間ツール等による資質・能力評価					
教科・科目等との関連	指導方法	指導体制	学習の評価	外部連携		
・生徒の「問い」から始まり、「社会につながる課題」を設定する。 ・上記に基づいた個人思考と協同学習で学ぶ探究的な授業を全教科で実施する。	・探究分野別などの学年を超えた縦割りを活用する。 ・ワークショップ形式など生徒が楽しみながら主体的に参加する形式を取り入れる。	・探究発表会等を通じて専門家等から意見をもらい、各学年の担当が連携し指導の計画や指導方法を適宜見直していく。 ・TTを活用して、生徒の探究へのフィードバックをきめ細かく行う。	・9つの資質・能力に基づいたルーブリックを発表等で活用する。 ・探究発表会等で学校全体の探究学習の取組について内外から評価を受ける。	・コーディネーターを通して保護者やCS、外部機関(大学、公民館、市役所等)と連携する。また必要に応じて外部から専門家を招き、アドバイスや講演会等を実施してもらう。		

令和5年度 3学年探究発表会 振り返り

教育研究部

2023年8月29日

実施日:7月24日(月)

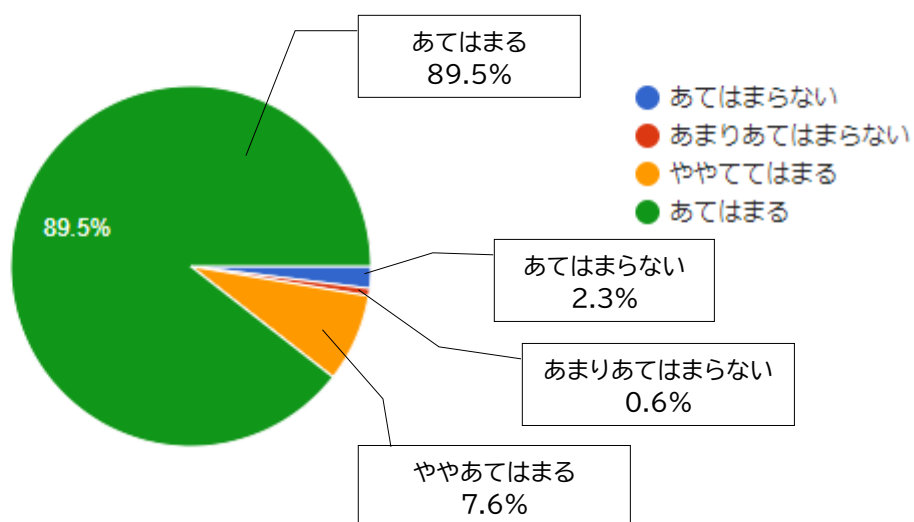
場所:美鈴が丘高校 講堂

I 【生徒振り返り】

① 特に肯定的な回答が目立った項目

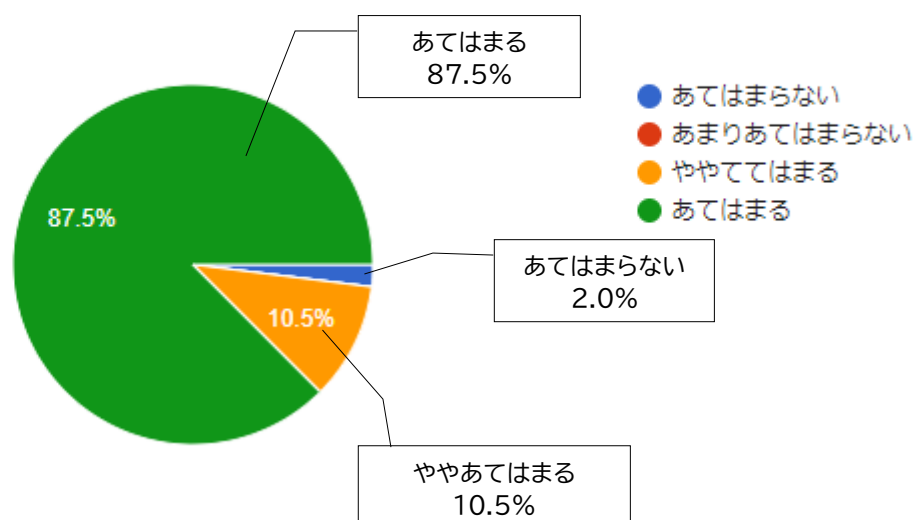
質問1 発表者たちは、収集した情報を分析し、論理的に結論を導いていた。

152件の回答



質問2 発表者たちは、分析した結果を研究目的に結び付けて考察していた。

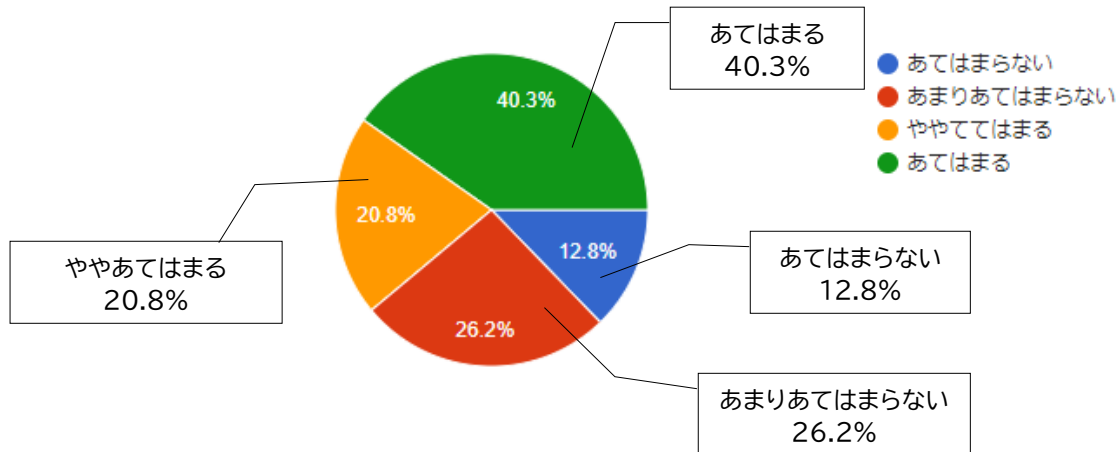
152件の回答



② 特に否定的な回答が目立った項目

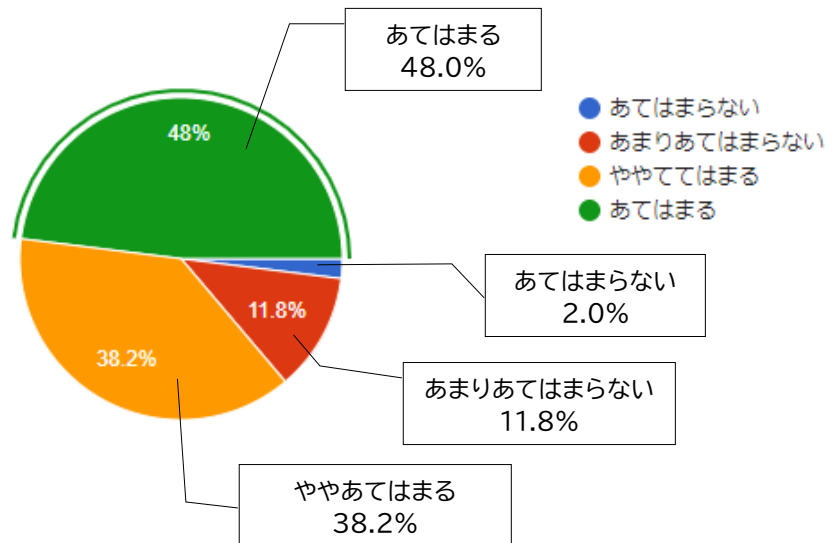
質問9 自分が他者の発表を聞く際には、自身の発表と比べながら聞いた。

149 件の回答



質問12 自分が他者の発表を聞く際には、自身に生かせる点を分析していた。

152 件の回答

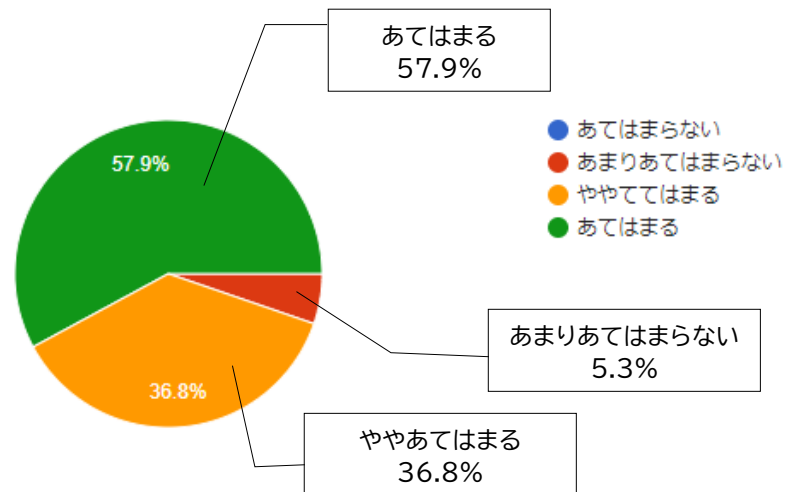


Ⅱ 【教員振り返り】

① 特に肯定的な回答が目立った項目

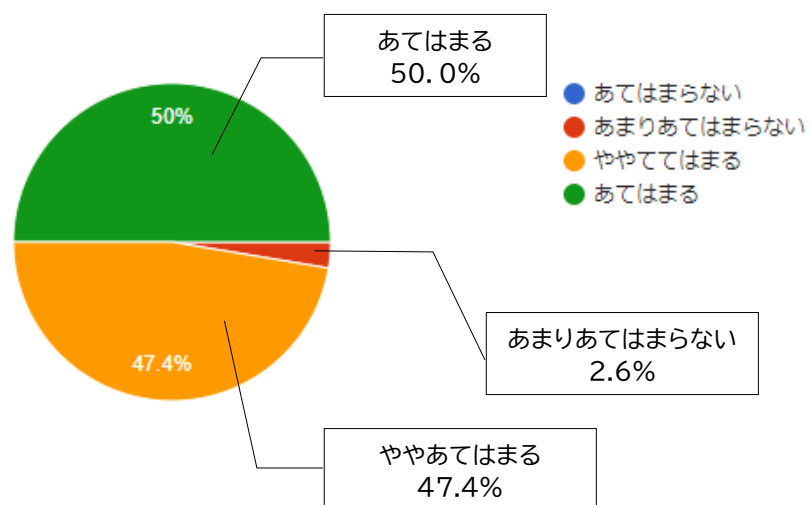
質問 5 発表者たちは、論理展開や主張等がわかりやすくなるようにスライドや発表資料等を工夫して見せていた。

38 件の回答



質問 6 発表者たちは、発表の際に要点を整理して話そうとしていた。

38 件の回答



【フォームで収集した自由意見】

- ① 情報収集の方法や、情報の分析、まとめ方を指導する。
- ② 一貫性や、テーマ軸からブレていないかを指導
- ③ 先生が地域に入る取組みが必要
- ④ 細やかなフィードバックが必要かと思います。
- ⑤ 自由度が高いものだと考えるので、自らの体験談などを盛り込むと良い
- ⑥ 教員があまり口を出さずアドバイザー的立場で関わる
- ⑦ 生徒とともに生徒の「知りたいを」を探究していく方法を学んでいくこと
- ⑧ 生徒の考察を発信することがゴールになれば、各教科における指導もさらに意味の深いものになるかと思います。全教員がそのことを意識しながら、学校全体で教科横断的な指導ができればいいなと思います。
- ⑨ やはり経験を積むことが大事。
- ⑩ 生徒の知識量や理解度をよく分析し、彼らが少し頑張れば到達できるレベルの取組を検討する。実際、消化不良的な取組が見られるので。
- ⑪ 1人に任せきりのグループがあったので、他者と協働する力を育てる。
- ⑫ 解説者の方が、取り上げた理由を述べてないことを指摘されていましたが、基本的に研究理由が課題に繋がっていると思います。実践部分が足りていないと思いました。
- ⑬ 実際生徒の案を見ると、異なった立場の視点が欠けているものが多かった。一つ一つにツッコミを入れるのとヒントになることを投げかけるのは大変だと思いました。
- ⑭ 正解やヒントを与えすぎないこと。しかし、何も無い状態から深めていくことは難しいので、絶妙なバランスを見極めながら助言する必要がある。
- ⑮ 探究の授業に関わってみて、出来るだけ少人数に対して1人の教員がつかなければ質の高い探究活動とその指導は難しいと感じている。システムや時間割、教員の指導の仕方を工夫しなければならないと感じています。
- ⑯ 教員はあまり口出しせず、サポートに徹する。失敗してもそれを学びにつなげるようサポートする。
- ⑰ 発表会が設定されることで結論を急ぐことにつながると深い探究につながらないと感じている
- ⑱ 生徒との対話を重視する。生徒同士でも相互評価できるように、展開を工夫したり、評価基準を作り共有したりする。
- ⑲ 各自の専門性をもとに多様な視点から思考すべきことに気づかせる
カリキュラム・マネジメントを考えるために共有できる場を設けた方が良い
- ⑳ 「質の高い探究活動」の具体的な事例がまだはっきりと掴めていない状況では、自分自身、生徒へ支援や援助を行うことは難しいと感じます。時間を要するためあまり現実的なアイデアではありませんが、個人的には教員が自分自身で何かテーマを見つけて、実際に探究活動を試みる機会があれば良いと感じます。

- ②① 5W1H を活用し、問題を作成しグループや他者と共有しながら優先順位を決めて、探究活動がスタートできるように働きかける。
- ②② 教員一人一人が生徒のテーマに対して専門的にアドバイスする力が必要。探究内容の発表に向けてのまとめ方の指導力。個別に対応する時間確保がどれだけできるかで指導方法は変わる。
- ②③ 指導内容、方針の共有
- ②④ 自分の実際の体験から、探究することの楽しさを伝える。自分が将来やりたい事に気づくきっかけにもなると伝え、指導していく。
- ②⑤ 教員の資質向上、意識改革

Ⅲ 成果と課題

【成果】

① アンケートより分析

(生徒)

- ・探究発表としてある程度レベルの高い発表を知ることができた。

(教員)

- ・スライドや発表の工夫については肯定的な意見が多かった。
 - オーディエンスを引き付ける発表の工夫ができています
- ・要点を整理して話そうとしていた、という項目については肯定的な意見が多かった。
 - 限られた時間の中で、探究内容を伝え切ろうとしている。
- ・発表会を見た教員から様々なフィードバックを得られた。
 - 生徒の探究の現状を見て現状を共有でき、今後の発展につながる意見をもらえた。

② 発表会担当者としての分析

- ◎ 数百人単位である程度の熱意を持って堂々と発表できる生徒がいる
- ◎ 実際に FW に行った経験と分析を盛り込む生徒がいる
- ◎ 聴衆を巻き込む生徒がいる
- ◎ 地域の問題に目をつける生徒がいる

【課題】

① アンケートより分析

(生徒)

- ・探究発表を見て、自分ごととして比較したり、学ぼうとしたりする姿勢があまりなかった。
→同じスタイルの地域探究を1,2年生はしていないので比較しにくいかもしれない。

(教員)

- ・導いた結論から、次につながる課題を見出していた、という項目については否定的な意見が多かった。
→3年7月の段階で探究を完了する、という意識が強いためか、次につながる課題についてはほぼ言及がなかった。

② 発表会担当者としての分析

- ▲ 問題意識の発端と分析が主観的すぎる
- ▲ 情報源がまとめサイトレベルのものも散見される
- ▲ 先行研究等を参考にした形跡がない
- ▲ 実際にインタビューしたり、FWに行ったりした生徒は少ない(机上の空論)
- ▲ 次への課題について述べられていない(探究自体は今後も続けていくべき)
- ▲ 実験手法、インタビュー手法、アンケートの分析手法が適切でない

IV 【次回探究発表会に向けたアクションプラン】

① 確かな情報リソースに生徒をつないでいく

→確かな情報リソースを得られる web ページ等の紹介

② 必要なとき(知りたいと思ったとき)に先行探究が見られる仕掛け【探究アーカイブ含む】

→現状自分事化はできていないが、地域探究が進むにつれどこかで先行探究等の情報が必要なタイミングくるはず。その時に、先輩たちの先行探究にアクセスできる仕組みづくりをする。

→ポンチ絵を活用してロードマップを各学年の廊下に掲示して、3 年間の流れと現在地の把握及び QR コードによるデータへのアクセスを可能にする。

③ 生徒が地域に飛び出すことができる機会の創出

・現状で活用できそうなネットワーク

→美鈴が丘公民館との連携 →美鈴が丘小学校、中学校との連携 →佐伯区役所との連携

→美鈴が丘モールとの連携 →地域の企業との連携

＝週 1 回の午後からの探究+LHR の時間を活用して外に出ることができる機会を作る

・連携における懸念点

▲ 地域連携のコーディネートをどうするか(担当教員の多忙化につながる可能性有)

▲ 本校の授業時間帯と連携先の活動時間帯が一致するとは限らない

▲ 美鈴が丘団地周辺は保育、教育、介護、などの分野とは相性がよいが、それ以外の探究分野の生徒にとって行き先はあるのか→様々な分野の集合体である市役所(区役所)とも上手く連携することで対応可能な分野が増える

④ 探究における必須要素をそれぞれのプロジェクトに落とし込む

・発表のフォーマットに【次につながる課題】を必ず入れるようにする

・情報源として、web+(論文 or インタビュー)を必須とするなど、現状よりも一歩深い情報をとれるようにする。

地域協働コーディネーターに期待する役割

令和6年1月15日

◎ 現在の教育研究部の困りごと

- ・地域探究の質をあげるにあたって、地域との密接な連携が必要なことは理解できたが、実際に窓口となって地域連携を軸とした探究を進めるのは大変である。生徒の個別ニーズに応じていくためには地域や大学、企業との専門の調整役が必要である。
- ・地域探究において、一定のレベルを生徒が超えると専門分野ではない教員が対応に困ることが想定される。そういった際、相談窓口や専門家とのつなぎ役としてコーディネーターが機能すると、生徒と教員双方の安心につながる。

◎ 期待する業務役割の想定

役割	役割の具体
外部との連携窓口	<ul style="list-style-type: none"> ・探究における地域等との連携 本校の総探の全体計画から必要となりそうな連携先を見つけ出し、生徒の課題とつなげる。もしくは、生徒の課題から必要な連携先を見つけ出してつなげる。その開拓から連携の実務を担うこと。
	<ul style="list-style-type: none"> ・探究に関わる講演会等の企画 本校の総探における講演会等の講演者を企画の趣旨を鑑みて適切に選択し、講演会を企画・実施する。
探究の相談役	<ul style="list-style-type: none"> ・総探における生徒・教員へのアドバイス 総探での担当教員や生徒の困りごとに対して適切にアドバイスを行う。校務運営会議・学年会等にも必要に応じて参画する。定期的に各学年の総探を視察し、授業を受け持つ等必要な支援を行う。
総探の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・総探および未来計画の全体計画と授業の改善 教育研究部の学年担当と連携して、全体計画・授業の改善を推進する。未来計画についても、コンセプトをもとに適宜改善していく。
探究に関わる活動の指導・引率	<ul style="list-style-type: none"> ・探究に関わる課外活動の指導・引率 地域行事への参加や学校外で行われる探究に関わる活動の生徒引率など。部活動顧問は持たずに、上記の活動の引率専任とする。

令和6年度地域探究フィールドワークに関する展望

教育研究部

令和6年2月2日(金)

1. 目的

本校生徒が総合的な探究の時間における「地域探究」の中で、地域に見出した課題を課題に関連する人物・会社・大学・行政・施設等と実際に関わることで、課題の実際の状況や解決策へのヒントを得るため。

2. 実施する時間帯

本校の教育課程編成の主な項目として、以前より探究＋LHRの連続実施があり、探究を翌週のLHRと入れ替えることで午後から2時間連続での探究の実施が可能になるため、その時間を活用する。(令和6年度3年生は5月9日木曜日を第一候補としている。)

3. 生徒の動き

事前に課題に関連する人物・会社・行政・大学・施設等の目星をつけておき、第3候補程度に行先の希望を絞る。その候補を踏まえた上で、コーディネーターと協働し生徒と訪問先を連携させる。ただし、240人全て個別に結び付けることは現実的に難しい。よって以下のような優先順位でのコーディネートを提案する。

- ① 地域×進路で分けた11の分野に基づいてコーディネーターが提携先を探す
- ② 生徒に対して分野ごとの訪問候補先(①)を提示して選択してもらう
- ③ ②以外に強い希望がある場合は生徒をコーディネーターが個別でつなぐ
- ④ 探究発表会発表者についてはできるだけ個別につなぐ

4. 生徒の安全管理

今年度実施した平和探究FWのノウハウを活用し、拠点配置方式が考えられる。公用スマートフォンの台数3台に基づき、3か所の拠点への配置を行う。担当は生徒のどの進路分野を指導してるかに応じて変えていく。どこまで生徒に当日中の成果を求めるかによるが、先ほどあげた平和探究FWのように最終的に拠点地に生徒が学びの成果をレポート等にまとめて提出する方法もある。

5. その他

生徒の希望訪問先によって、公共交通機関での移動が難しい場合は文科省の予算から借り上げタクシーなどの配置ができる可能性がある。

美鈴が丘高校の**高校コーディネーター**を募集しています！ **高校生の探究学習に関わってみませんか？**



● 生徒の探究学習を地域や企業と連携・協働させる。

広島市教育委員会 令和5年度 令和6年度に計画した高等学校の改善事業（普通科重点支援事業）

高 【広島市立美鈴が丘高等学校】地域社会に係る学科を設置（令和7年度卒業）
 学校教育目標 校訓「進取 友愛 節度」のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において、自らの未来を切り拓き、「地域共生社会」の担い手となる人材を育成する。

広島市が有する課題や魅力に注目した実践的な学びに取り組み「探究的な活動」を特色（学びの柱）とする

新しい学びの形態を目的とする。能力（探究力）「国際平和文化都市『広島』をフィールドとした学びにより、地域社会の発展に貢献し続ける人物を育成する」

- 地域や社会の課題を解決する力
- 正解のない課題に自ら取り組む力
- 協働して課題を解決する力

総合的な探究の時間 週1日（探究活動の日）をつくり、年度から学習の特色を踏まえたフィールドワークや課題解決学習に集中できるように設定

探究活動を重視した各教科・科目の授業改革
 「探究を自ら学ぶ機会（能力）を大きく伸ばす授業改革を立案
 生徒の「問い」から始まり、「社会につながる課題」を個人思考と協同学習で学習探究へと改編

外部との連携授業を行うコーディネーター
 専任と兼任による 大学・地域・行政
 （改編検討組織）×（連携協力体制）
 未来会議 コンソーシアム

新たな学びの探究教科・科目
 新たな学習認定教科・科目として、学校の柱である探究の「学び」を学ぶ「プログラム」を実施

特色・魅力ある先進的な学校運営
 社会力・リーダーシップ育成に特化した柔軟な学習環境の導入、ノータイム、文理両方の履修、修学旅行の充実等

美鈴が丘高校では、生徒の探究学習を広島県内の地域や企業、大学などと繋ぎ深めていく取組を進めています。

今回募集する高校コーディネーターには、直接授業（教科・科目）や部活動に関わるのではなく、探究学習を外部機関（大学・企業・地域・行政機関等）と連携・協働させる仕事をお願いしたいと考えています。

美鈴が丘高校の具体的な取組は
 学校ホームページでご確認ください！



学校ホームページへのアクセスはこちらから→

● 探究学習を進める教職員と共に研修でステップアップできる。

探究学習の経験や高校コーディネーターとしての経験が浅く、不安を抱かれる方もおられると思いますが、現在、美鈴が丘高校は校内に探究学習を進めるための組織「未来会議」を設置していますので、安心して先生方と一緒に取り組むことができます。



また、高校コーディネーターの研修も対面やオンラインで複数回実施されていますので、全国の高校コーディネーターとの情報交換や交流により、どなたでもステップアップできる環境が整っています。



● 勤務条件は教職員と同等です。

給与等は、学歴、教員経験年数等をもとに決定します。諸手当として、期末・勤勉手当、通勤手当、扶養手当、住居手当、退職手当等を支給します。

〔参考〕令和5年4月1日現在

（単位：円）

区分	給料月額	教職調整額	地域手当	義務教育等教員特別手当	合計
大学卒（新卒）	202,300	8,092	21,039	2,600	234,031
大学院修了（新卒）	223,000	8,920	23,192	3,000	258,112

詳細は、令和6年度広島市立高等学校臨時的任用教諭（高校コーディネーター）候補者募集案内でご確認ください。

未来を担う高校生を我々と共に成長させていきましょう！

業務内容のお問い合わせ 広島市教育委員会指導第二課 082-504-2704
 採用や選考のお問い合わせ 広島市教育委員会教職員課 082-504-2199

広島市教育委員会
 ホームページへの
 アクセスはこちらから→



(3) 探究活動を重視した各教科・科目の授業改善 (授業改善教職員研修、授業観察月間の実施)

※令和5年度広島市立高等学校学力向上推進事業学力向上研究校としても実施

ア 令和5年度の振り返り

(ア)目標

・生徒の「問い」から始まり、「社会につながる課題」を個人思考と協同学習で学ぶ授業へと改善するために、全教員で取り組む体制を構築する。

(イ)目標達成に向けた取り組み

- ① 授業改善の方向性を示したイメージ図の作成
- ② 授業改善教員研修の実施による授業改善の重点目標の共有および現状把握
- ③ 授業観察月間の実施
- ④ 生徒対象授業評価アンケートの実施

(ウ)各取り組みの振り返り

① 授業改善の方向性を示したイメージ図の作成

本校は令和元年度から「協同学習の理論に基づいた授業改善」に力を入れて取り組んできた。しかし、今年度から新たに「探究的な学習への授業改善」という方向性が打ち出されたことで、これまでの取組みとのつながりや位置づけが不明瞭になることが懸念された。

そこで、これまでの「協同学習の理論に基づいた授業改善」という方向性と、これからの「探究的な学習への授業改善」という二つの方向性が、それぞれ個別の方向性ではなく、むしろ相互に関連し合っていることを指し示す指標をポンチ絵として作成した(【資料1】「学び方のイメージ図」)。

その意義は、以下の二点にある。第一に、3年間を見据えた授業改善の計画を示した点である。これまで本校では、年度毎にその都度授業改善の重点目標を設定していた。しかし、今年度からは、令和5年度、令和6年度、令和7年度それぞれの授業改善における重点目標をあらかじめ明示することにより、授業改善のいわば「ストーリー」を描くことを意図した。これにより、授業改善担当教員に誰が就いても、安定した授業改善が可能になると思われる。

第二に、授業改善の重点目標と「新しい学科で育成すべき9つの資質・能力」を関連付けた点である。より具体的には、令和5年度における授業改善の重点目標である「問いを持って授業に臨む」は、「新しい学科で育成すべき9つの資質・能力」において「地域や社会の課題を見出す力」の育成に関わる。同様に令和6年度の「他社視点を育みながら、自ら学び取る」という重点目標は、9つの資質・能力では「協同して課題を解決する力」に該当する。このように、授業改善の重点目標と「新しい学科で育成すべき9つの資質・能力」を関連付けることにより、授業改善が普通科改革事業の中により密接に位置づけることができた。

【資料1】「学び方のイメージ図」



② 授業改善教員研修の実施による授業改善の重点目標の共有および現状把握

「授業改善の方向性」を策定するなかで、令和5年度における授業改善の重点目標が明確となった。今年度は、「問いを持って授業に臨む」を授業改善の重点目標として設定した。問いをもつことは、「協同学習」の重要な要素であると同時に、探究的な学びのプロセスの「課題発見」に位置づくものであり、また「新しい学科で育成すべき9つの資質・能力」の「地域や社会の課題を見出す力」の育成に関わるという点で重要である。この重点目標を全教員で共有するべく、6月9日に授業改善研修を実施した。

この研修では、「問いを持って授業に臨む」という重点目標を教員一人ひとりに確実に理解してもらうために、「質問」「発問」「問い」の違いを理解するワークショップを実施し、生徒も教員も答えを知らない疑問のことを「問い」と呼ぶと定義した。このワークショップを通じて、地歴・公民科や保健体育科といった問いを立てやすい教科・科目もあれば、英語や数学といった問いを立てにくい教科・科目があることがわかった。

また、研修の最後には、重点目標に対する現状を把握するために教員対象のアンケートを実施した。その結果、「生徒が自ら問いを立てるような具体的な取り組みや工夫をどの程度実施していますか」という項目に対して、「特に意識して取り組みや工夫をすることはない」と答えた教員が55.3%であったことである。約半分の教員が「生徒の問い」から授業がはじまっていない現状が浮かび上がった。

③ 授業観察月間の実施

以上のような現状をふまえ、全教員で授業改善をすすめるべく、2学期(9月1日～12月22日)までの期間で、教員同士で互いに授業を観察し合う「授業観察月間」を設けた。この授業観察月間は、授業担当者が簡易的な指導案を作成し、職員朝礼で授業を実施する日時を周知のうえ、都合の良い教員が自発的に観察する。観察する教員は、「授業観察カード」を記入し、授業担当者へフィードバックすることになっている。

特に今年度は、以下の二点を工夫した。第一に、簡易的な指導案に「新しい学科で育成すべき9つの資質・能力」のうち、どの資質・能力を育成しようと試みているのかを明示するように改善した点である。第二に、「授業観察カード」に、この授業では「新しい学科で育成すべき9つの資質・能力のうち、どの資質・能力が育っていると思いますか」という項目を付し、授業観察者にも評価してもらうようにしたことである。授業者が想定する育成すべき資質・能力と、観察者が見取った資質・能力に相違があれば、授業者にとっての新しい視点になることを期待する意図がある。

9月1日から12月22日までの期間で、全教員47名のうち25名の教員が授業を公開した。各授業では、問いを中心に授業が展開されていた。各授業の問いを抜粋したものが以下の【資料2】である。

【資料2】授業観察月間で設定された「問い」(抜粋)

教科・科目	問いの内容
保健	どうすれば学校の先生の働き方が改善されるか。
日本史	奈良時代に目指された律令国家の「理想像」とはどのようなものか。
国語	『徒然草』の作者 兼好法師が伝えたかったこととは何か。～「丹波に出雲といふ所あり」に似た他の段を読み比べて読み取る。～
音楽	表現主義の作曲家は、どのように音楽で狂気を表現したのか。
数学	平均値が同じ場合、それらの「データ」は本当に「同じ」なのか。
国語	あなたが豊太郎ならばどう行動したか。(題材:森鷗外『舞姫』)
数学	正多面体は、我々の生活の中にどのように活用されているのか。
英語	修学旅行の思い出を英語で語ろう
国語	光源氏は、なぜ昼間ではなく夕方に垣間見を行ったのか。
家庭科	フードマイレージを計算し、あなたが不思議に思うことは何か。
保健	性感染症・エイズの予防について、あなたはどう行動すればよいか。
生物	夏緑樹や照葉樹を観察し、気付いたことや疑問に思ったことは何か。
公民	核兵器はなぜなくなるらないのか。
物理	閉管の基本振動数は、どのようにして変えているのか。
歴史総合	敗戦後の日本は、非軍事化・民主化を進めていたのに、なぜ再軍事化したのか。
美術	他者の作品の良い点や工夫した点はどこか、言語化しよう。
英語	SDGsの内容を四コマ漫画で分かりやすく英語で伝えるにはどう工夫したらいいか。

④ 生徒対象授業評価アンケートの実施

2学期には、生徒を対象に授業評価アンケートを実施した。概要は以下のとおりである。

- a 目的:各教科・科目の授業改善に向けた取組み状況を、生徒の視点から把握する。
- b 方法:教科・科目ごとの Google フォームに回答する。
- c 期間:9月14日～9月30日まで
- d 対象:全学年の生徒
- e 質問項目

No	項目
1	この教科の授業は、はじめに「めあて(目標)」や本時のポイントが示されている。
2	この教科の授業は、ペアやグループ活動を取り入れている。
3	この教科の授業は、他者に自分の意見を伝えたり、他者と協力しながら課題を解決したりする機会がよくある。
4	(新)この教科の授業は、予習のための課題(教科書の読解、ノート作り、意味調べ、問題演習など)が設定されている。
5	(新)この教科の授業は、生徒が自分で問いを立てたり、課題を設定したりする工夫がされている。
6	(新)この教科の授業は、問いや課題を解決するために、自分たちで仮説を立てたり、情報を調べたりする活動が取り入れられている。
7	(新)この教科の授業は、資料や実験の結果を読み取ったり、それを整理・分析したりする活動が取り入れられている。
8	(新)この教科の授業は、「ふりかえり」や復習課題(ふりかえりシートの記述、問題演習など)に取り組む場面がある。
9	(新)この教科の授業は、学習した内容や自分の意見をまとめたり、新しい疑問に気づいたりする活動が取り入れられている。

【自分の学習に関すること】

No	項目
10	この教科の授業の「めあて(目標)」や「ふりかえり」を意識して授業を受けている。
11	予習課題(教科書の読解、ノート作り、意味調べ、問題演習など)が課されたときは、積極的に取り組んでいる。
12	復習課題(レポート作成、問題演習など)が課されたときは、積極的に取り組んでいる。
13	この教科で、問いや疑問を持って授業に参加している。
14	この教科で、自分の意見を他者に伝えることができている。
15	この教科で、他者からの意見を参考にして自分の考えを深めている。
16	この教科で、基礎的な知識や技能を身に付けることができている。
17	この教科で、思考力・判断力・表現力(考える力、整理してまとめる力、話す力、書く力)を身に付けることができている。
18	(新)この教科で、他者の意見を参考にしたり、自分で調べたりして、問いや課題を粘り強く解決しようとしている。
19	授業で疑問に思ったことを、さらに自分で調べるなどしたことがある。

【総合的な探究の時間に関すること】

No	項目
20	「興味関心型の探究活動」(1年生 1 学期の学習内容)では、学習内容を自分の事として捉えて取り組んだ。
	「修学旅行進路別研修・班別研修の事前指導」(2年生)では、自分の事として課題を設定できた。
	「課題発見型の探究活動」(3年生)では、自分の興味・関心と地域や社会が抱えている問題を関連付けて取り組んだ。
21	「総合的な探究の時間」に、他の教科の知識や技能が活かした。
22	「総合的な探究の時間」での学習により、他の教科の知識や技能が深まった。
23	「総合的な探究の時間」に刺激を受けて、自分の進路や興味関心のあることについて探究した。

【ICT の活用に関すること】

No	項目
24	Classroom を活用することで、自分に合った学習ができています。
25	Classroom を活用することで、学習内容の理解が深まった。
26	Classroom を活用することで、学習時間が増えた。
27	スタディサプリを活用することで、自分にとって効果的な学習ができています。
28	スタディサプリを活用することで、学習内容の理解が深まった。
29	スタディサプリを活用することで、学習時間が増えた。

【この授業について】

No	項目
30	この教科の授業が、どのような授業になることを望みますか。(自由記述)
	(回答)

令和5年度における授業改善の重点項目である「問いを持って授業に臨む」に深く関わる「質問5 この授業では、生徒が自分で問いを立てたり、課題を設定したりする工夫がなされている」と「質問13 この教科で、問いや疑問を持って授業に参加している」の二項目に焦点を絞り、全教科の大まかな傾向をまとめたものが以下の【資料3】である。

【資料3】:全教科における質問5および質問13の回答

	質問5の回答	質問13の回答
1年	70%前後が肯定的 40%前後が否定的	80%前後が肯定的 20%前後が否定的
2年	60%前後が肯定的 40%前後が否定的	70%前後が肯定的 30%前後が否定的
3年	60%前後が肯定的 40%前後が否定的	80%前後が肯定的 20%前後が否定的

質問5の回答より、いずれの学年の生徒も、60～70%前後が、自分で問いや課題を解決する工夫がなされていると捉えており、問いを持つための教員の工夫が生徒によく伝わっているといえる。質問13の回答より、いずれの学年の生徒も、70～80%前後の生徒が、問いや疑問をもって授業に参加していると捉えており、問いが生まれる授業になっているといえる。

また、「質問30 この教科の授業がどのような授業になることを望みますか」という項目に対する自由記述回答の大まかな傾向をまとめると、全学年を通じて「分からないところを友達と教え合う」「自分の意見を言える」「ペアワークやグループワークを増やし、他の人と考える」といった意見が目立った。生徒はしっかりと問いを持ち、他者と協同しながら学ぶような授業を求めているように思われる。

「総合的な探究の時間」に関しては、少数ではあるが「探究で他の教科の知識を使える授業」「もっと地域のことに触れたい」と、さらなる内容の充実を求めるものもあった。

(エ)全体統括

生徒の「問い」から始まり、「社会につながる課題」を個人思考と協同学習で学ぶ授業へと改善するために、全教員で取り組む体制を構築するべく、今年度は「問いをもって授業に臨む」をテーマに授業改善を進めてきた。多くの教員が、自身の授業でどのような「問い」が設定できるのかを考え、創意工夫を凝らす流れができたことは一定の成果といえる。

他方で、以下のような課題も浮き彫りになった。第一に、探究的な学びへの改善は、大学受験に対応できなくなるという不安感を教員側が抱いていることである。そうした不安感が根底にあるため、授業改善が「やらされる改善」になってしまっていることが課題といえる。第二に、生徒の「問い」をいかにして社会につなげていくかという点については、何ら取り組みができなかつたことである。授業のすべてで生徒の問いを社会につなげることは難しいかもしれないが、教科の授業と総合的な探究の時間を上手く連携させることが重要であるといえよう。

イ 次年度への展望

令和6年度における各教科・科目の授業改善の重点項目は「他者視点を育みながら、自ら学び取る」と設定している。今年度の「問いを持って授業に臨む」という重点項目が協同学習の重要な要素であると同時に、探究のプロセスにおける課題設定に位置づいていたのと同様に、令和6年度の重点項目も協同学習における重要な要素であると同時に、探究のプロセスにおける「情報収集・分析」に位置づくものと考えている。

特に各教科では、教師が一方的に知識を伝達するばかりではなく、単元のなかで生徒が各教科の見方・考え方を働かせながら他者視点を育みつつ思考を働かせ、自ら学び取るような創意工夫を全校体制で実施することを考えている。より具体的にいえば、教師が「ここは自分でやっごらん」と学習を生徒に預ける、いわば「教師のほどよい不親切」の余地をいかに授業で設けるか、そして努力を要する生徒にどのような支援を講じるかということ各教科で考えていきたい。

(4) 新たな学校設定科目「未来計画」の開発 (構想調書に基づいた教材選定、年間指導計画計画の作成)

ア 令和5年度の振り返り

(ア)目標

「探究」における「学び方を学ぶ」ための授業の年間指導計画及び具体を考え、令和6年度から実施できるようにする。

(イ)目標達成に向けた取り組み

- ① 探究の基礎を学ぶための教材を選定する。
- ② 第1学年の令和5年度総合的な探究の時間で「未来計画」で導入する予定の取組を先行実施し、年間指導計画を作成する。

(ウ)各取り組みの振り返り

- ① 探究活動に必要な課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究活動の型を学ぶ中で、コンセプトマップやフィッシュボーンなどの思考ツールの活用方法や社会で活用できるプレゼンテーションのスキルを習得することができるように、株式会社ベネッセコーポレーションの「未来を拓く探究シリーズ探究ナビ Basic」を導入予定である。この教材では各学校の探究の実相に応じて、①ナゾ解明型 ②困りごと解決型 の2種類の探究の「型」が用意されており、生徒が自分のテーマによる探究をこの「型」に沿って展開していける部分が強みであると考えている。また、基礎的な思考ツールが実践ワークを通して一通り学べるようになっている。
- ② 令和6年度は「未来計画」を2単位として展開していくため、全てを新しく始めるよりも今年度の取組をより充実・発展させることが大切であると考え、「平和探究フィールドワーク」等の取組みを行った。「平和探究フィールドワーク」では、来年度以降の生徒の個別最適な探究の要となるフィールドワークの先行事例としてノウハウを蓄積するために実施した。このフィールドワークでは、生徒が広島市域の戦争遺構14か所(教員が指定)から訪問したい3か所以上を事前に選び訪問計画書を作成した。朝の集合場所を中区の平和記念公園と南区の比治山公園の2か所に分け、そこを教員の拠点地として生徒の点呼や報告書の提出を行った。生徒がグループで戦争遺構を回っていくスタイルは当初安全面も心配されたが、非常時にスマートフォンの使用を認めるなど柔軟に対応し、結果的には大きな問題は発生せず生徒からも「自分たちで調べることで現地について探究心が出てきた」「平和学習では、平和記念公園等しか行ってこなかったため、他にも平和について触れることができる建物がたくさんあることがわかり、今後はこういった場所も含めて他者に説明できるようになりたいと思った」という感想が聞かれた。

平和探究フィールドワーク関連資料



また、年間指導計画では、これまでの探究では時間が足りていなかったミニ探究プロジェクトの時間数を増やし、探究にじっくりと取り組めるような体制を整えた。それに加え、「合意形成」や「レジリエンス」の単位についても検討し、経済産業省「未来の教室」が運営するオンライン図書館「STEAM ライブラリー」にある教材を使用する予定である。

令和6年度「未来計画」年間指導計画

実施時期	主な活動内容	成果検証
4月、5月、6月	合意形成、探究の型(探究ナビ Basic)	Ai GROW
7月、8月、9月	「好き」探究プロジェクト、レジリエンス、3学年探究発表会	魅力化ア
10月、11月	平和探究講演会、平和探究フィールドワーク	Ai GROW
12月、1月	地域魅力発信探究、進路探究発表会(2年生の発表に参加)	魅力化ア
2月、3月	進路探究講演会、1・2学年探究中間発表会	Ai GROW

(工)全体統括

本校がこれまで積み上げてきた探究の良さを生かしながら、令和6年度から始まる「未来計画」の年間指導計画および授業の具体を検討した。今年度実施した探究中間発表会で1年生が発表した地域魅力発信プロジェクトについて、指導助言者の方から「他地域との比較」「1次情報を得る」というアドバイスをいただいた。令和6年度につながる挑戦的な取り組みの実施や探究を深化させるための要素を知ることができた。

イ 次年度への展望

初めての2単位実施ということでこれまで以上に準備が大変になると予想されるが、今年度作成した資料やワークシートなどを上手く活用し担当者の負担軽減を図りながら着実に生徒の探究のレベルアップにつなげていきたい。また、「合意形成」、「レジリエンス」、「プレゼンテーション」等の新しい内容については、外部人材等も活用しながら授業を行うなど一つの形にこだわらずに本校にとっての個別最適な実施形態を考えていく。

(5) 特色・魅力ある先進的な学校運営 (特色ある教育課程の開発、ノーチャイムの試行実施)

ア 令和5年度の振り返り

(ア)目標

- ① 生徒の多様な希望進路に対応するため、文理選択の廃止を含めた令和7年度入学生の3年間の教育課程を検討する。
- ② ノーチャイムを一定期間試験的に実施し、令和7年度の導入に向けて課題を整理する。

(イ)目標達成に向けた取り組み

- ① 拡大未来会議で教育課程案を作成し、各教科会及び各分掌会にて協議し、再度拡大未来会議で検討するというサイクルを繰り返した。文理選択を廃止するための2、3年時の選択教科・科目の組み合わせ、及び探究活動に十分な時間を確保するための履修教科・科目の標準単位数化を重点的に検討した。また、本教育課程を修了した生徒がどのような進路を目指すのかのイメージを教員間で共有するために、具体的な生徒像を明確化させた。
- ② 生徒自身が時間の管理をできる能力を身につけ、自主的に行動できるようになることをねらいとして、令和5年10月30日(月)～11月2日(木)にノーチャイム期間を設定した。実施後、教職員及び生徒から Google Form を用いたアンケートを実施し、課題等の分析を行った。

(ウ)各取り組みの振り返り

- ① 1年次に学校設定教科「未来計画」を2単位設定した。探究活動等の充実を目的として課外の時間を確保するため、32単位を保持させた。

文理選択を廃止するため、現行履修教科・科目の標準単位数化及び選択科目の組み合わせを検討した。しかし、大学入学共通テスト等に対応した思考力・判断力・表現力を育成するための時間数の確保、探究的な学びを充実させるための時間数の確保、現在本校の強みである学校設定教科・科目における指導体制の維持、教科登録時の進路指導の困難さといった意見が集まり、文理選択の廃止実現は困難を極めた。検討を重ねた結果、文理選択は保持する形をとり、教科・科目内における探究的な学びの充実、教科横断的な学びの実現による文理融合型の学びの充実、及び3年次の「グローバル探究コース(仮称)」の設定をもって地域共生社会の担い手の育成を目指すこととした。これまでの「文科型」を「人文・社会探究コース」に、「理科型」を「自然科学探究コース」に名称変更し、合わせて一般選抜・総合型選抜を問わず、ほぼ全員が国公立・難関私立大学を受験し、5割が合格を目指す「文理型」コースを設定した。また、新たに設定した「グローバル探究コース(仮称)」は、総合型選抜を中心にほぼ全員が国公立・難関私立大学を受験し、5割が合格を目指す「探究型」コースを設定した。ここまでの内容を反映させた教育課程は次のとおりである。

令和7年度入学生 教育課程（案）

1年	現代の国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32		
	言語文化	歴史総合	数学I	数学A	数学II	数学B	数学C	化学	体育	保健	芸術I	英語コミュニケーションI	論理・表現I	家庭基礎	情報I	未来計画	L H R																		
2年	論理国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32		
	論理国語	地理総合	公共	数学II	数学B	数学C	化学	物理基礎	体育	保健	生物基礎	英語コミュニケーションII	論理・表現II	総合的な探究	L H R																				
3年	文理型	自然科学探究 コース	論理国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
			論理国語	地理探究	政治・経済	数学III	数学B	数学C	化学	物理	生物	体育	英語コミュニケーションIII	論理・表現III	総合的な探究	L H R																			
	探究型	人文・社会科学 コース	論理国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
			論理国語	古典探究	古典探究	政治・経済	政治・経済	倫理	数学探究	文学国語	英語研究	化学基礎演習	生物基礎演習	英語コミュニケーションIII	論理・表現III	総合的な探究	L H R																		
探究型	グローバル探究 コース（仮）	論理国語	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
		論理国語	古典探究	世界史探究	政治・経済	政治・経済	倫理	数学探究	化学	生物	体育	英語コミュニケーションIII	論理・表現III	総合的な探究	L H R																				

② ノーチャイム導入に向けて、成果と課題は次のとおりである。

成果

- ・生徒、教員ともにノーチャイム期間に「時間を意識できた」および「(チャイムがあるときと)変わらなかった」という意見が多数であり、学校生活に大きな支障はなかった。

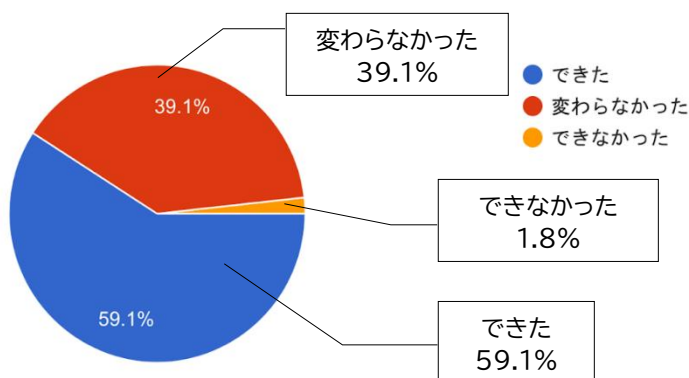
課題

- ・「チャイム＝学校」という常識の脱却が必要である。
- ・「授業と休憩のメリハリ」という規律を確保する必要がある。
- ・「あらゆる場所に時計の設置」という環境を整える必要がある。

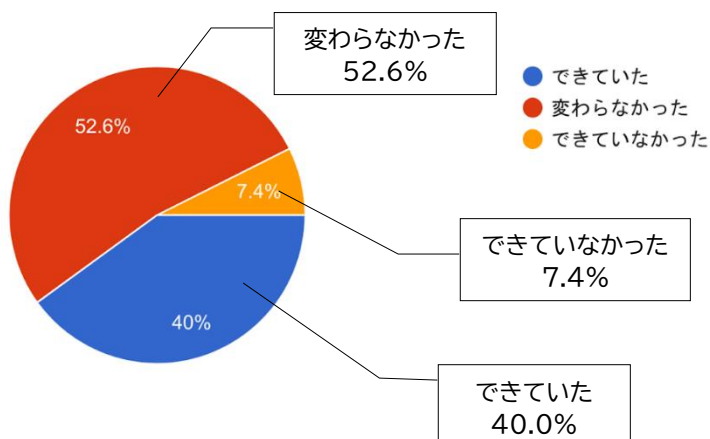
生徒及び教員の回答の結果を以下に示す。

○生徒(230件)の回答

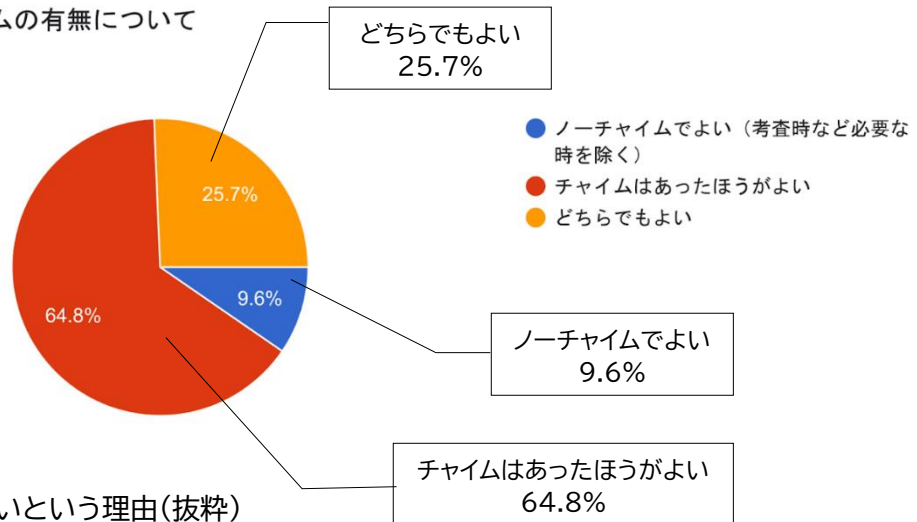
① (自分は) チャイムがあるときよりも時間を意識して行動できましたか
230件の回答



② 先生は、チャイムがあるときよりも時間を意識して行動していましたか
230件の回答



③今後のチャイムの有無について
230 件の回答



ノーチャイムでよいという理由(抜粋)

- ・時計を見る習慣がつくから。
- ・静かだから
- ・中学校のときにチャイムが無かったから
- ・支障なかったから
- ・チャイムがある時よりも時間を意識しやすくなるから。
- ・チャイムがあると、チャイムが鳴ってから移動したりして時計を見ずにチャイムに頼りすぎてしまうから。
- ・大人になった時役立つと思ったから

チャイムがあったほうがよいという理由(抜粋)

- ・不便だから
- ・気持ちの切り替えができるから。授業と休憩のメリハリがつく。
- ・(教員が時間に気付いていないため)授業の終わりが遅くなるから。
- ・移動教室のときなど、時計が無くて時間が分からなかったから。
- ・あるほうが学校らしいから。
- ・チャイムがある時でも意識はできているので、あったほうが確実だから
- ・体育が外の時に時間が分からなくて困るから
- ・授業の開始が早まったり授業の終わりが遅かったりがあったら不便だった
- ・チャイムがないと授業の開始がぐだぐだになるから
- ・始業のチャイムはない方が早めに動く習慣がつかいいと思う。しかし、終業については、チャイムはあった方が、学業と休息の切り替えができ、また先生が終業時間に気づかず次の授業に影響が出る、ということもなくなると思う。
- ・昼休憩の終わる時は、チャイムがないと分かりづらい
- ・時計が近くにない時とかはチャイムがないと不便だから

どちらでもよいという理由(抜粋)

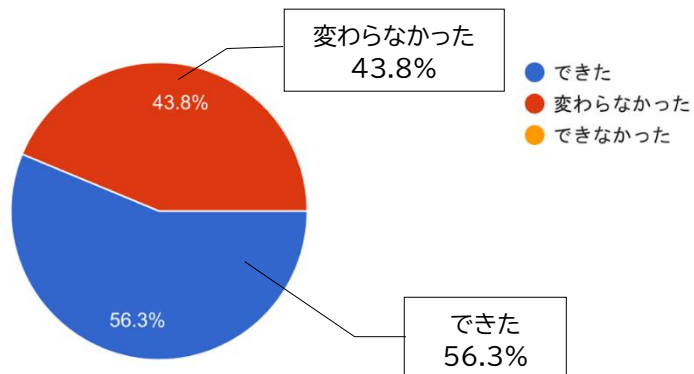
- ・変わらなかったから
- ・普段から時計を見て行動しているから。
- ・切り替えのためにはある方がよいと思うが、社会に出ると自分で時間を管理しないといけないので、ノーチャイム週間があるのはよいと思った。
- ・ノーチャイムでも続けられればみんな慣れると思うから
- ・自分自身の意識の変化はほとんどなかったため。
- ・チャイムがあってもなくても移動教室が多いため時計を見ているから。
- ・ノーチャイムでも過ごせるが、チャイムに慣れているためノーチャイムだと締りが無く感じたため。でも、私は中学の時ノーチャイム制度でしたが、生徒各々で時間をこまめに確認し着席できるよう声をかけあったり 5 分前着席キャンペーンの際には報酬は無いのにかなりのクラスで 5 分前着席ができていたり と、素直で従順な生徒像が学校全体を通して出来上がっていたように思います。そのためノーチャイムにするならノーチャイムにするで、がつんとはじめて一律して行なってしまえばみんなすぐになれると思います。
- ・自分は意識しているつもりだったけど周りや先生など全員ができていないならやる必要はないと思ったから。

感想や意見(抜粋)

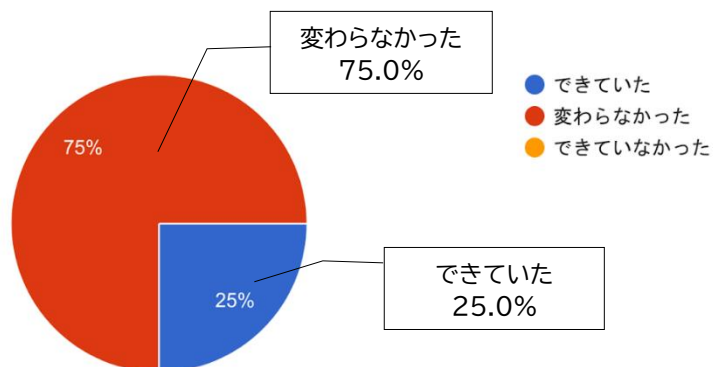
- ・先生の中で時間を過ぎても話す先生がいるので気をつけてほしい。
- ・時間の意識は普段よりできた。
- ・トイレに時計が欲しい。
- ・チャイムがないと先生が時間を見ていなくて授業がのびて次の移動教室に間に合わなくなりかける時があった。
- ・ノーチャイムで先生も自分たちも時間が意識できて良かったです。
- ・チャイムあった方が良かったです。授業ずっと続ける先生がいて迷惑でした
- ・チャイムがある時より時間を気にするようになったからたまにノーチャイムを入れて時間を意識させるのもありだなと感じた。
- ・普段はチャイムありで、模試時にノーチャイムとかがいいかなと思いました。他学年のチャイムに合わせたり複雑になったりということがなく、実際先日模試の時にノーチャイムでそれが個人的にはちょうどいいと感じました。監督の先生は公平性を期すため初め終わりの指示・号令をよりきっちり行う必要があるとは思いますが、チャイムがない時はいつも以上に時計を見て行動できたし、みんな時間を意識していて良かった。
- ・時間を意識させる目的ならば、腕時計を忘れてしまった生徒のために、廊下等にも時計を置いていただきたいです。

○教員(16件)の回答

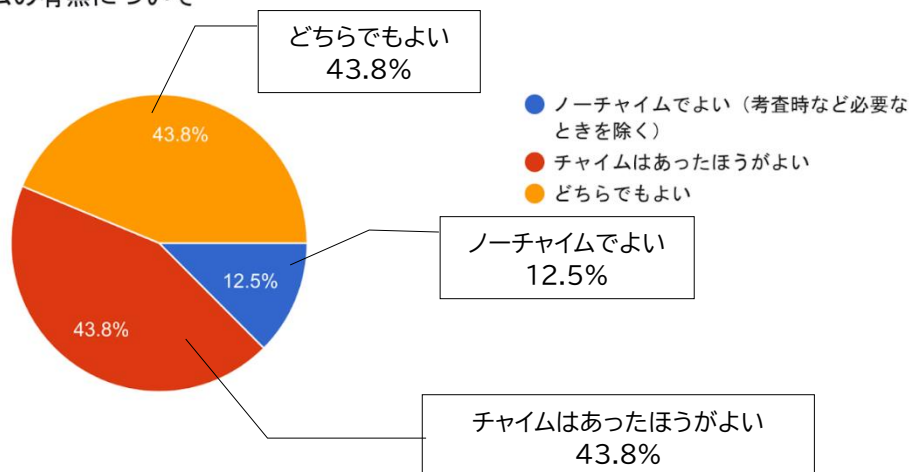
① (ご自身は) チャイムがあるときよりも時間を意識して行動できましたか
16件の回答



② 生徒は、チャイムがあるときよりも時間を意識して行動していましたか
16件の回答



③ 今後のチャイムの有無について
16件の回答



ノーチャイムでよいという理由

- ・自覚を持って動くことが、習慣化できるのではないか
- ・静かであった。チャイムが無い方が落ち着いた学校生活になると思った。

チャイムはあったほうが良いという理由

- ・チャイムが鳴ってから動いている者はほとんどいない。しかし授業の初めと終わりの切り替えとしてチャイムはよりよく機能していると思われるため
- ・チャイムがあっても授業開始 1 分前に生徒は集まっている。ノーチャイムの目的が周知されておらず、生徒も目的を知っていなかった。
- ・ケジメとかメリハリとかが大切です
- ・時間にルーズな生徒が多いため、チャイムは定刻の合図としてあった方が、締りがあって良いと考えております。
- ・生徒は時間を守るという意識が極めて低いと感じる。
- ・時間の目安がわかるから、仕事の区切りになる。
- ・切り替えられる。

どちらでもよい

- ・授業中、生徒は一生懸命、時計を気にしていました。教員の方は時計が見えないので、いつも通りでした。
- ・ノーチャイムの目的を生徒も教員もはっきり説明できるかどうかによると考えたから。
- ・ノーチャイム導入の趣旨や、育てたい生徒像があつてのノーチャイムであればよいが、そうでないのであれば特に推し進める必要性はないように感じました。
- ・特別変化を感じなかった。

感想や意見

- ・変則的な時間割の時はまだ対応ができるかどうかわからないので、チャイムは指針としてあったほうが良いと思う
- ・目的は何だったのでしょか。
- ・なんとなく始まるゆるい感じで教室の時計ばかり見ていた
- ・何を目的に実施したのかわからない。実施して検証するのですか？個人的には意味をなしていないと思います。
- ・授業の開始時間に着席できない生徒がいた場合、学習指導や他者を傷付ける行為への指導以外に指導する機会が生じて、教員のストレスになるかもしれない。
- ・生徒はいい意味で変わらない生活をしていたように感じた。授業にものすごく早く準備して臨むでもなければ、著しく遅れてくるということもなかった。
- ・朝の登校時間や予鈴などはあったほうが良いかと思った。

(工)全体統括

教育課程の検討及びノーチャイム導入の2項目について取り組んだ。「特色を出すこと」が目的ではなく、「学校教育目標で掲げる生徒の育成を達成するために本当に必要なことなのか」という視点で検討できた。

イ 次年度への展望

「学校教育目標で掲げる生徒の育成を達成するために必要なこととは何か」という視点で学校運営に関わる内容の検討を継続する。教育課程については3年次の「グローバル探究コース(仮称)」における学校設定教科・科目の具体を検討する。今年度十分に検討できなかった「複数担任制」及び「修学旅行の充実」について情報収集と研究を行い、議論を活発化させる。

(6) 教員と生徒による学校改編検討組織「未来会議」 (教員生徒による先進校視察、校則改変に向けた動き)

ア 令和5年度の振り返り

(ア)目標

- ・生徒会執行部の生徒と定期的に意見交流をしたり、先進校視察をしたりして、教員と生徒が同じ方向を向いてよりよい学校の形を見出す。
- ・生徒が自分事としてその意味を理解して自主的に校則を守ることができるように、生徒や教員と対話を重ねながら校則の在り方・内容を見直す。

(イ)目標達成に向けた取り組み

- ① 生徒会定例会に未来会議委員の教員が赴き、意見交流をする。
- ② 先進校視察をふまえて、生徒の意見を全教員へ伝える機会を作る。
- ③ 見直しが必要な校則について、教員と生徒の意見を共有する。
- ④ 校則策定や見直しの手続きの過程を作る。

(ウ)各取り組みの振り返り

- ① 生徒会定例会に未来会議委員の教員が赴き、意見交流をする。

先進校視察が近づいた段階から、教員が生徒会定例会に参加し、何のために先進校視察に行くのか、先進校視察で何を見るのかを、意見交流を通して、視察に対する具体的なイメージを持たせた。美鈴が丘高校にない良さを発見したり、美鈴が丘高校にある良さを再認識したりする中で、どのような改革を望むか考えるよう伝えた。

- ② 先進校視察をふまえて、生徒の意見を全教員へ伝える機会を作る。

熊本市立必由館高等学校、京都市立開建高等学校、北九州市立高等学校を視察した。必由館高校では、生徒の高い主体性や「平等ではなく公平」という考え方、深い探究活動に良さを見出し、市との広い連携やパーソナルな学習を取り入れたいと考えた。開建高校では、話し合いの場の多さや生徒の主体性に良さを見出し、クラスを越えての活動や地域との交流、生徒の活動支援を取り入れたいと考えた。北九州市立高校では、情報関連の施設の充実や学校行事の地域への公開、校則に疑問を持ち実際に動く姿勢に良さを見出し、生徒が現状への不満を不満で終わらせない姿勢を取り入れたいと考えた。

先進校視察で見たこと、考えたことを、生徒会執行部がパワーポイントなどにまとめ、コンソーシアム会議や職員会議、探究発表会で発表をした。特に、変化した教育課程で学んでいくことになる生徒たち自身が、どのような改革を望んでいるのか、どのような学校の姿を目指しているかを示すことができた。具体的には、生徒の声を聞く場、機会がある学校、生徒の主体性や活性が高い学校、市立学校であることを活かし、市との連携が強い学校、地域の方々との盛んな交流、公開がある学校を望んでいた。

○生徒会執行部が作成したパワーポイント(抜粋)

<p style="text-align: center;">生徒会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市議会提案発表 (広島市立学校の電力を再生エネルギー化) ・学校行事の準備(合唱祭、クラスマッチなど) ・校則改変 	<p style="text-align: center;">熊本市立必由館高校</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の高い主体性 ・「平等ではなく公平」 ・深い探究活動 
<p style="text-align: center;">熊本市立必由館高校</p> <p>美鈴に取り入れたい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市との広い連携 ・パーソナルな学習 	<p style="text-align: center;">京都市立開建高校</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場の多さ ・生徒の主体性
<p style="text-align: center;">京都市立開建高校</p> <p>美鈴に取り入れたい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスを越えての活動 ・地域との交流 ・生徒の活動支援 	<p style="text-align: center;">北九州市立高校</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報関連の施設が充実していた ・合唱祭などを地域で行い、地域の人へ公開していた ・校則へ疑問を持ち実際に改正へ動いていた
<p style="text-align: center;">北九州市立高校</p> <p>美鈴に取り入れたい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱祭などの行事を地域に公開 ・生徒が現状への不満を不満で終わらせない 	<p style="text-align: center;">まとめ</p> <p>どんな学校にしたい／してほしいか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の声を聞く場、機会がある ・生徒の主体性や活性が高い ・市立学校であることを活かし、市との連携 ・地域の方々との盛んな交流、公開がある

③ 見直しが必要な校則について、教員と生徒の意見を共有する。

白色防寒着の着用が認められていないこと、ツーブロックをしてはいけないことの二点について、教員から教員へのアンケートと生徒会執行部から教員と生徒へのアンケートを実施した。教員からのアンケートを行う前には、教職員が校則の背景や理由について理解しているか、社会の変化を踏まえて意義を適切に説明できるか、学校の教育目的に照らして適切か、具体例を提示しながら見直してもらい、どのような考えを持っているか調査した。生徒会執行部からのアンケートでは、高校生らしさをどのように考えているかを調査した。

○現状の校則(抜粋)

生徒手帳 (生徒心得)	生徒手帳 (生徒心得)
① 白色防寒着 防寒着は、 黒、紺、灰色 を基調とした華美でなく、大きなロゴのないものを着用する。 ただし、部活動指定の学校名の入ったものは認める。	② ツーブロック 髪型は高校生らしく清楚なものとし、特異な髪型（カール、パーマネット、 ツーブロック 、着脱色、ヘアワックスやヘアアイロンによる整髪など）をしてはならない。髪飾りは認めない。

○教員から教員へのアンケート(回答34件)

校則の見直しについて

[アカウントを切り替える](#) 

 共有なし

防寒着の色の指定について、どのような考えを持っていますか？

回答を入力

ツーブロックについて、どのような考えを持っていますか？

回答を入力

送信 フォームをクリア

防寒着の色の指定について、どのような考えを持っていますか？(抜粋)

- ・自転車通学者など明るい色も安全性があり、自由度を高めても構わないのではないかな。
- ・白に関して言えば冬は目立つので車などからよく見え安全だと思うので認めた方がいいと思う。経済的なこともあるので持っているものを使用するために色指定は外してもいいと思う。
- ・白色の着用は特に問題ないものと思います。色が問題ではなく、ブランドの大きなロゴがついたものやキャラクターがあるものをどうするかは検討がいると思います。

ツーブロックについて、どのような考えを持っていますか？(抜粋)

- ・定義が難しく指導も意義の説明も難しい。時代に合わず撤廃してもいいと思う。
- ・髪型については線引きが難しいためどちらともいえない。しかし、指導が相当難しいため禁止にするのは①染める、②パーマの2点がわかりやすいのかなと思う。
- ・デザインは刻々と新しくなるのでイタチごっこになりそうですね。面接を受ける際の身だしなみが基準で、生徒、保護者の判断による、でも良いかもしれませんね。判断基準は相手が好ましいと思うかどうか、を各自で考え、なおかつ、美鈴が丘高校という集団の価値を損なわない、という観点で行動するでしょうか。学校では、あくまで、集団生活のマナーを示唆する、個人の行動は、本人保護者で責任を持つ、でしょうか。

○生徒会執行部から教員へのアンケート(回答28件)

校則についてのアンケート（美鈴が丘高校）

生徒会から、先生方へ校則について何点か質問させていただきます。
本日16:00までにご回答お願いいたします。

* 必須の質問です

「高校生らしさ」を、どのようにお考えですか。 *

回答を入力

校則について、 *

- 現状維持をすべきだ
- 変えるべきだ
- その他: _____

「これはふさわしくない」と思うツーブロックはどれですか。※複数回答可



髪の毛をめくるとツーブロック



こめかみのみツーブロック



こめかみ、うしろ部分がツーブロック



頭部全体だが、段階的なツーブロック



頭頂部を残し、はっきりと明暗の分かるツーブロック

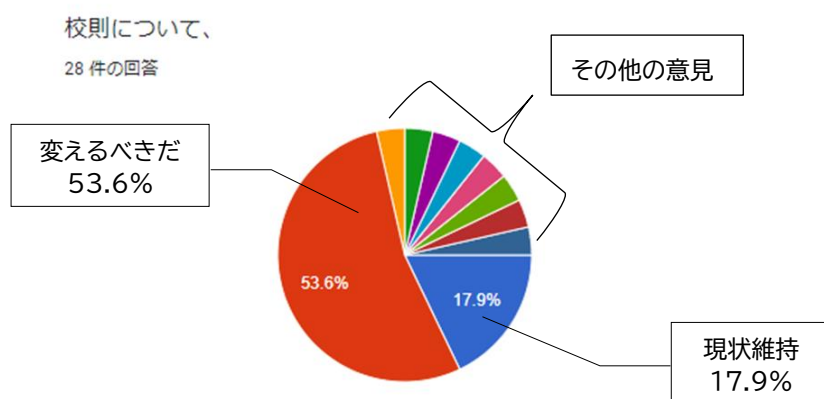
送信

フォームをクリア

「高校生らしさ」を、どのようにお考えですか。(抜粋)

- ・多様な高校が増えているので、一括りにしづらい。一般的に「高校生らしさ」として「清潔さ、さわやかさ」が求められているように思う。
- ・目標達成に向けて、一心不乱に努力する姿を見ていると高校生らしさを感じます。
- ・高校生の時期にしかできないことに徹する姿勢や態度のこと。
- ・学業を3年間の優先順位の上位に位置づけた生活や態度(服装も含めて)を心がけること。それと同時に法律的にも経済的にも(18歳も含めて)まだ自立していないため保護者や大人による支援や保護を要する立場だということ。

校則について、(グラフ・抜粋)



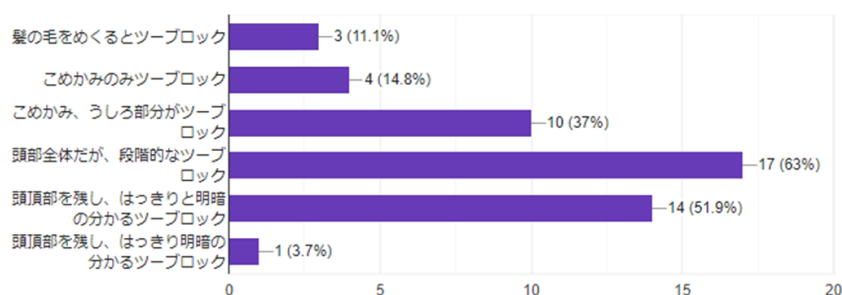
- ・校則として合理的に説明できないものに関しては、関係教員・関係機関との協議の上、改変するべきだと考える。
- ・背景や理由を教員が説明できないものは変えるべき。また、生徒がより良い学校生活を送るために必要であれば変えていくべきだが、生徒が自分事として意味を理解し、関係者と対話を重ね合意して決定していく必要がある。校則を変えるということ自体が目的になってはいけない。

「これはふさわしくない」と思うツブロックはどれですか。(グラフ)

「これはふさわしくない」と思うツブロックはどれですか。 ※複数回答可

コピー

27件の回答



○生徒会執行部から生徒へのアンケート(回答212件)

校則についてのアンケート（生徒用）

生徒会から、生徒の皆さんへ校則について何点が質問させていただきます。
2/14（水）～2/16（金）16：00までにご回答お願いいたします。

「高校生らしさ」を、どのようにお考えですか。*

回答を入力

変えてほしいと思う校則はありますか。*

- ある
- ない

上の質問（変えてほしいと思う校則はありますか。）で、「ある」と答えた場合は、**内容と理由**を書いてください。

回答を入力

「これはふさわしくない」と思うツブロックはどれですか。※複数回答可

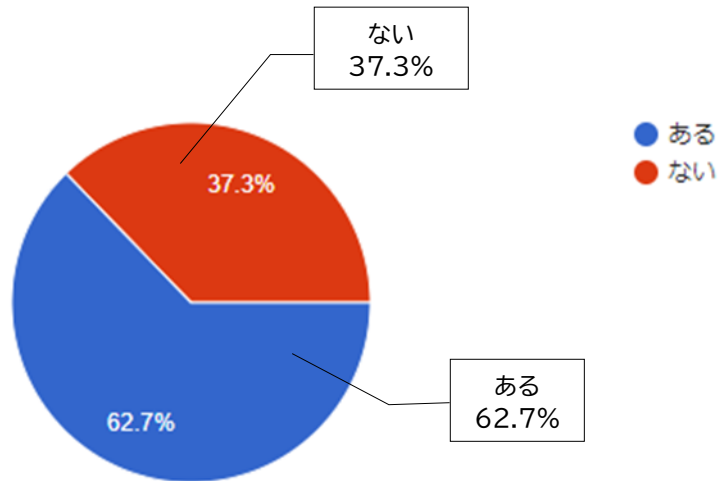
「高校生らしさ」を、どのようにお考えですか。(抜粋)

- ・勉強して部活して友達との仲を深めること。
- ・高校生らしさとは、大人の準備期間や将来したいことを見つけそれに対しがむしゃらに突き進むことだと思います。多様性が尊重される現在、強い校則で将来を狭めているのではないかと思う時があります。
- ・他人に迷惑をかけず、日常生活・学校生活に支障をきたさない程度に自由なこと。
- ・想像力が豊かなこと。
- ・ほぼ大人になっている人。
- ・中学生とは異なり、学生であり社会人としてのあり方を考え自分の意見を持ち、自分で自分を律する姿。
- ・高校という社会の中で、友達と勉強や部活動に励むこと。また友達との関わり方などを深く学ぶこと。

変えてほしいと思う校則はありますか。(グラフ)

変えてほしいと思う校則はありますか。

212 件の回答



「ある」と答えた場合は、内容と理由を書いてください。(抜粋)

- ・休憩中のスマホ活用。メイク。スカートの長さ。スカート下のジャージ。
- ・バイト禁止。
- ・校内はとても冷えるので、上着の着用を許可して欲しいです。
- ・休日はジャージ登校 OK、薄いメイク OK、文化祭は化粧 OK、女子は足が寒いので学校にいるときは長ズボンを履いても OK。
- ・髪色の自由、ツーブロック、ピアス、の許可。
- ・メイクとかしても良いと思う。遅刻をしてまでメイクするのは良くないと思うけど遅刻をしなければ別にしても良いと思う。社会に出るために学校でいろいろ学ぶのに社会に出たらしれないといけなくなってしまうメイクをしたらダメは理由がよくわからないし、別にメイクをしても遅刻などと違って誰にも迷惑かからないと思うから。授業中にメイクをしたりするのは良くないけどメイクをして学校に行く分には問題ないと思う。入試があるからとか言うなら定期テストや模試の日はしたらダメなどという風に変えたら良いと思います。
- ・スマホ OK → タブレットで調べても制限がかかっていて調べられなくて意味ない。回線が悪くて開けない。行事とかも写真で思い出をもっと残したいから。タブレットは画質が悪い。
- ・容姿に関する校則全般。社会ではメイクもヘアセットも当たり前であるのに、社会に出る前段階である高校生という期間でそれらを縛る意味がないから。
- ・ナチュラルメイクはいいと思う社会人の基本だから。
- ・体育の授業でタイツを履いてもいい。
- ・冬季に着用する防寒着の色に白色を追加する。部活動などで帰りが遅くなった時に、黒系の色より見えやすく、事故につながりにくいと思うから。

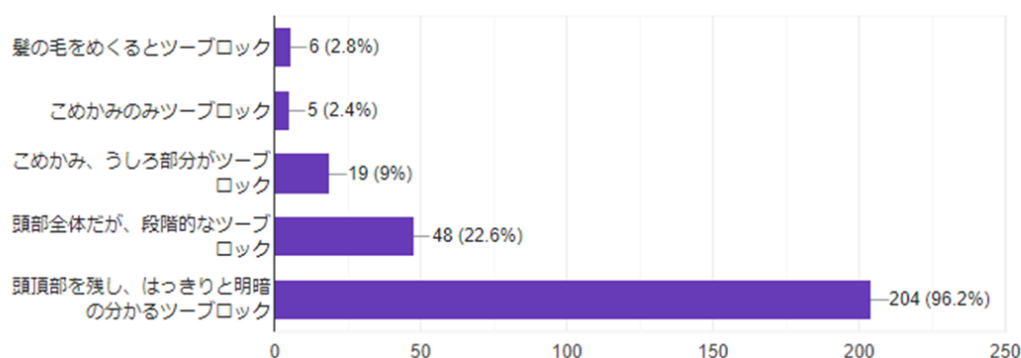
- ・パーマやツブロックごときで校則を作るのは生徒の反感を買うだけであり、その髪型ごときで校風は乱れたりしないと思うから。
- ・アイプチ。一重がコンプレックスだから。目が小さいといじられることがあるから。
- ・バイク通学したい。自転車は時間がかかる。

「これはふさわしくない」と思うツブロックはどれですか。(グラフ)

「これはふさわしくない」と思うツブロックはどれですか。 ※複数回答可

 コピー

212 件の回答



④ 校則策定や見直しの手続きの過程を作る。

校則を見直していく議論の方向性の共通認識を得るために、美鈴が丘高校の生徒が目指す姿や最上位の目標を教員と生徒で共有する必要性に気付いた。校則は、生徒が健全な学校生活を送り、よりよく成長・発達していくために遵守すべき学習上、生活上の規律であるということ的前提に校則策定や見直しを過程を検討した。まず、この前提を教員と生徒が理解して対話を重ねることができるよう、教員に対しては、職員研修で周知し、生徒に対しては、生活委員会でも周知し、生活委員から各クラスの生徒へ伝達してもらった。

生徒が自分事としてその意味を理解して自主的に校則を守るようにすることを目的に、少数派の意見も尊重することができる校則策定や見直しの手続きの過程を検討した。校則に関して、生徒の実情、社会の常識、時代の進展、保護者の考え方、地域の状況からの意見を生活委員会を中心に議論する仕組みを検討した。生活委員会は既存の委員会であるため新しい組織を作る必要がなく、各クラスから生活委員を二名選出するため、全校生徒からの意見を集約しやすいと考えた。生活委員会には、生活委員と関係教職員が出席して議論を行い、議論した内容を各クラスに伝達して意見を集め、全校生徒の意見も踏まえて再度生活委員会を開催して議論を重ね、必要に応じてこの過程を繰り返していくことで全体の合意形成ができると考えた。十分対話できた原案を関係教職員が運営委員会に、生活委員長が生徒会定例会に提出し、その後の生徒総会をもって校則策定や見直しが完了する過程を検討した。

(工)全体統括

生徒会執行部と未来会議委員の連携については、主に先進校視察を通して、美鈴が丘高校に取り入れたいことを話し合ったり、教員に向けて生徒が発表する機会を設けたりして、生徒の意見がきちんと取り入れられた改変を進めることができた。しかし、改変の具体的な内容は教員が推し進めているため、生徒の意見をどれだけ取り入れられるか、生徒会執行部以外の生徒は不参加、という点で、生徒が主体的に学科改編に取り組むことが難しい現状がある。

全校生徒の意見を取り入れるために生徒が自分事として取り組んだり、少数派の意見も尊重しながら生徒全体で対話を重ねたりする、校則の見直しの過程で検討した仕組みを活用していきたい。そのためにも、校則策定や見直しの手続きの過程を作ることを教員と生徒で合意形成しながらより良いものにする必要がある。

イ 次年度への展望

令和6年度は、以下の4点について取り組みたい

①「生徒全員が学科改編に主体的に参加する」

生徒会執行部が中心となって参加した今年度を踏まえ、アンケートや意見箱など、さまざまなツールを用いて、生徒全員の意見を吸い上げることができる仕組みが必要である。そうすることで、生徒が当事者意識をもって、美鈴が丘高校がどんな変革をとげるべきか、真剣に考え、意見を示し、積極的に参加できるようにしていきたい。

②「先進校視察に多くの生徒が参加する」

今年度先進校視察に行った生徒以外の生徒にも先進校視察に行ってもらいたい。そうすることで、先進校を直接見て感じ取る機会を多くの生徒に経験させることができる。また、新たな気づきを美鈴が丘高校に持って帰ることができる。

③「校則策定や見直しの手続きを実行する」

教員と生徒が議論を行う上での最上位の目標について共通認識を持ち、生活委員会を中心とした議論を行い、校則の見直しを絶えず行う。また、生徒が当事者意識を持って校則の見直しに参画することで、自主的に校則を守るようにしていきたい。

④「校則策定や見直しの手続きの過程をその他の学科改編に活用する」

校則策定や見直しの手続きの過程を見直し続け、生徒全員の意見を吸い上げることができる仕組みとして機能させる。学校行事の企画や学校の魅力向上や授業の改善に生徒も参画できるような仕組みを目指したい。

(7) 地域とのつながり(公民館主催ボランティアへの参加)

ア 令和5年度の振り返り

(ア)目標

- ・令和7年度新学科開設に向け、地域協働の在り方を模索する
- ・場所も近く、館長がコンソーシアムの構成員である美鈴が丘公民館を中心に連携する

(イ)目標達成に向けた取り組み

- ・美鈴が丘公民館主催の地域行事に本校生徒がボランティアとして参加する
- ・学校のグーグルクラスルームを活用し、担当教員の負担軽減しながら、生徒の地域行事の参加機会を確保する

(ウ)各取り組みの振り返り

主に夏季と冬季の2回に公民館主催地域行事へのボランティア募集を行った。生徒に広く情報が行きわたるように、普段総合的な探究の時間で使用しているクラスルームに地域行事のボランティアの案内を掲載し、興味がある生徒はフォームで応募できるようにした。1つの地域行事ごとに大体5名程度の募集があり、どの行事についても募集期間内(2週間程度)には定員が埋まり、時には定員を増やす対応をした。生徒がフォームから応募することで、スプレッドシートが参加名簿代わりになり、かつ連絡先や応募理由の共有などが簡単にできるなど、ICTの活用により担当者の負担を軽減しつつ、より細かな対応をすることができた。各地域行事が終わった後には、公民館の担当者の方から参加者の感想をまとめたものを送付していただき参加生徒に共有した。

(エ)全体統括

地域協働のきっかけとして、美鈴が丘公民館主催の地域行事への本校生徒のボランティア参加は大変意義あるものだと考えている。今は教育課程内ではなく課外活動でボランティアを行っているが、今後は美鈴が丘公民館の地域ネットワークに協力を要請しながら生徒の地域探究がより深化するような取組を行っていききたい。公民館の行事等につきかり貢献しつつ、本校からの地域探究に関するお願いも受け入れてもらえるような相互利益を大切にこれからもよい関係を続けていきたい。

イ 次年度への展望

来年度は公民館等の地域ネットワークの力を借りながら美鈴が丘地区を探究のフィールドとして選んで生徒を中心に支援をしていきたい。本校の探究活動のフィールドは「広島市域」ではあるが、所在地である「美鈴が丘」については一層力を入れて課題発見、価値創出に生徒と共に取り組んでいきたい。

ボランティア参加アンケート (日本の伝統文化に触れよう 和菓子作りに挑戦)



日時 令和6年1月20日(土) 9:30~12:30

場所 美鈴が丘公民館 実習室

○今回のボランティアに参加してみようと思った動機を教えてください。

- ・ お菓子作りに興味があり、ボランティアとして参加してみたいと思ったからです。
- ・ 子どもと触れ合うのが好きで、和菓子に興味があったから。
- ・ 子供たちに関わる仕事に興味があったので、この機会に参加してみようと思いました。
- ・ 教育に興味があったので、子供と触れ合うことで学ぶことがあると思ったから。
- ・ 和菓子に興味を持ち、小学生と一緒に学びたいと思ったから。
- ・ 教育に興味があったから
- ・ 小学校教師を目指しているから。

○今日の活動についての感想を聞かせてください。

(学びだと感じたことや、講座への意見、改善したらいいと思うことなど)

- ・ 和菓子の作り方や、子供たちのふれあい方について学んだ。また、道具の名前や使い方について知れたのでよかったです。
- ・ 子どもにもわかりやすく配慮することが大切だとわかりました。
- ・ どのように工夫して伝えるか、楽しくするために何を工夫するのか、考えながらの活動だったので、今回の体験で掴めるものがありました。
- ・ 子どもたちの様子を見ながらも、和菓子について自分も学べることでよかったです。
- ・ 普段ではお菓子づくりはしても、和菓子をつくるきっかけはないので、専門的に学ぶことができてよかったです。また色々なボランティアに参加したい。
- ・ 小学生 どう言ったら伝わりやすいのか学んだ。
- ・ 子どもと接することで将来の夢うい再認識することができました。

○どのような活動や取り組みにボランティアとして関わってみたいですか？

また、自分たちで企画してみたいことなどあれば聞かせてください。

- ・ 「みんなで1つの大きなケーキを作る」という活動をしてみたい。
- ・ 啓発活動 だれかと交流して何かをする。
- ・ 子どもと関わる企画
- ・ 今回のような、子供たちと一緒にできるボランティアに関わってみたいです。
- ・ 新しいことを学ぶことは楽しいと思うので、普段しないことを小学生とやることで自分も教えることになるので、より深く印象に残ると思った。
- ・ 教育に関すること、野球に関することなど。
- ・ 子どもと何かをして遊ぶ(ふれ合いたい)

ボランティア参加アンケート (親子食育講座)



日時 令和6年1月27日(土)

場所 美鈴が丘公民館 実習室

○今回のボランティアに参加してみようと思った動機を教えてください。

- ・ 将来の夢に役立てたいと思ったから。
- ・ 将来、栄養系の職につきたいと思っていて、とても良いと思ったから。
- ・ プロの料理人に教えてもらうことはないので、なにか新しいことが知れる良い機会になると思ったから
- ・ 子どもと交流するのが好きで、お肉の流通に興味があったから。
- ・ 将来小学校の先生になりたいと思ったので参加しました。子どもも大好きなので。

○今日の活動についての感想を聞かせてください。

(学びだと感じたことや、講座への意見、改善したらいいと思うことなど)

- ・ 一緒に作って一緒に食べることがすごく楽しかった。実際に作ることで食べ物のありがたさを知れたり、後片付けをする中で作ってくれる人への感謝の気持ちが芽生えた。
- ・ 小学生の子と一緒に何かをする事はなかなかできないので、とても良い経験になった。私自身も小学生の子から学びながら成長できました。
- ・ 天ぷらをあげるときに、火をつけて暑くなっていくと泡が細くなるということを初めて知った。高級料理店味が食べれてよかった。
- ・ 子どもへの接し方について最初はどうかまよったがだいぶ慣れました。
- ・ 最初はものすごく緊張して不安でしたが、子どもたちがとても可愛くて、だんだん楽しくなりました。今考えれば本当によかったです。今日は普段あまりしないような料理をさせてもらったので、とても良い経験になりました。

○どのような活動や取り組みにボランティアとして関わってみたいですか？

また、自分たちで企画してみたいことなどあれば聞かせてください。

- ・ 様々な年代の方達と一緒に何かするボランティアに関わってみたい。
- ・ 伝統料理を作る、学ぶ。
- ・ 子どもたちと一緒に自分の学びながらボランティアできたらいいなと思った。
- ・ 何かを作るボランティア
- ・ 子どもたちともっと関わりたいので、関れるようなボランティアを積極的にしていきたいです。

(8) 外部評価

(高校魅力化評価システム・Ai GROW による生徒の資質・能力の測定)

ア 令和5年度の振り返り

(ア)目標

- ・高校魅力化評価システムの実施・分析により、本校の「魅力化・特色化」を適切に「評価・診断」し、本校での取り組みの効果を可視化するとともに次の一手を協議する。
- ・民間の評価システム「Ai GROW(IGS 株式会社)」により、ペーパーテストでは測ることのできない 9 つの資質・能力を定量化し、教育活動の効果を検証する。
- ・生徒は、自分の強み・弱みを知る自覚するとともに、各コンピテンシーの数値変化により、自己の成長や課題を実感する。
- ・教員は、生徒の強みを褒めて、弱みをサポートできる体制を作るとともに、各コンピテンシーの数値変化から、教育活動の振り返りを行う。

(イ)目標達成に向けた取り組み

- ① 高校魅力化評価システムによるアンケートを2回(7月、2月)実施し、その結果を分析・協議する。
- ② 9つの資質・能力を、Ai GROW で測定できるコンピテンシーを組み合わせ設定した。受検結果を分析し、各コンピテンシーを数値化した。令和5年8月に本事業の対象学年である1、2年生で第1回 Ai GROW 受検を実施した。同対象生徒について、令和6年3月に第2回 Ai GROW 受検を実施した。その後、2回の受検における数値の変化(効果量)から教育活動の効果を検証した。

(ウ)各取り組みの振り返り

① 魅力化評価システムによるアンケート調査について

・アンケートの実施

高校魅力化評価システム導入初年度ということで、その分析方法や重視する指標を選定した。具体的には、普通科改革に合わせて作成されたルーブリックを基に、すべての質問項目に対して 9 つの力(情報収集力、情報分析力、発信力、自分力、思考力、行動力、連携力、調整力、実践力)との対応を明確にし、9 つの力に対応するような“重視項目”を選定した(表1)。加えてアンケート結果の分析とワークシートの作成をした。

表1:9つの力と見取る質問項目の対応と2回目受検結果

資質・能力	質問項目	本校平均(%)	全国平均(%)	年間推移(%)
情報収集力	6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く。	40.2	30.7	+13.8
情報分析力	75. 授業の内容について、「なぜそうなるのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした。	72.4	66.8	+12.7
発信力	12.活動、学習のまとめを発表する。	65.8	64.9	+8.4
自分力	74. 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った。	61.2	58.9	+8.8
思考力	15.地域の課題の解決方法について考える。	78.7	46.2	+38.2
行動力	69. いま住んでいる地域の行事に参加した。	40.4	36.2	+15.0
連携力	22. 人と違うことが尊重される雰囲気がある	83.9	81.6	+6.4
調整力	20.失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある。	81.7	79.1	+3.9
実践力	46. 勉強したものを実際に応用してみる。	69.1	67.3	+10.5

・アンケート分析(全体概要)

第一回アンケート全体を通して生徒の「協働性」が高いことが分かった。協働性にかかわる学習活動や自己認識、ウェルビーイングの項目ではいずれも80%以上が肯定的な回答をしていた。これは、本校で取り組んでいる協同学習を基盤とした授業改善の取り組みの成果であると読み取ることができる。一方「社会性」は全国平均等と比べても低い数値になっている。特に社会性にかかわる学習活動は43%、社会性にかかわる行動実績は24%程度の肯定的回答率となった。この結果から、生徒が社会性を育むことのできる対外的な活動の充実が課題として生じた。

第二回アンケートでは第一回で低い数値であった「社会性」に関して大きな伸びが見られた。特に“14. 地域の魅力や資源について考える”という項目では31%、“地域の課題の解決方法について考える”という項目では38%程度肯定的回答率が伸びた。これは第一回から第二回実施までの間に対外的な活動が重なったことが要因として考えられる。よって今年度のFW等の学習について社会性を向上させる一定の成果があったと言えるのではないだろうか。

反対に“90.この学校を中学校におすすめできる”といった質問項目に関して、肯定的回答率は-17%となった。また、これに関連してウェルビーイングに関する項目についてもあまり大きな伸びが見られなかった。生徒にとって魅力的な学校づくりということにも今後力を入れていく必要があるだろう。

・アンケートの分析(重視項目について)

7月実施のアンケートから学年ごとに大きな違いがあることが分かった。特に、“思考力”、“実践力”については1年と3年で10%以上の差があり、3年平均は全国平均を上回ってい

る。これは本校での3年間の生徒の成長を表しており、現在の教育活動の成果と言える。特に”思考力”の質問項目について3年の値が他学年や全国平均を大きく上回っていた。この要因としては、総合的な探究の時間の地域探究に関連する取り組みの効果が大きいのではないかと考えられる。この地域探究は美鈴の特色としてより一層力を入れていきたい。

一方で、”情報収集力”や”情報分析力”、”行動力”については1～3学年を通して大きな変化がないように見えた。これは、生徒が主体的に動き、地域とつながれるような仕掛けが不足していることが大きな要因だと考える。しかし、全校での今年度1年間の推移を見ると3つの項目について大きく数値が上昇している。このことから、ルーブリックに基づく9つの力の育成に関して、今年度の教育活動には一定の成果があったと言えるだろう。もう一度今年度の活動内容を振り返り、効果的だった部分を洗い出していきたい。また、フィールドワークや修学旅行等の教育活動で生徒が獲得した力を一時的なものにせず、学期や年度を超えて継続的にその力を伸ばしていく働きかけについても工夫をしていきたい。

② Ai GROWについて

IGS 担当者と協議しながら、Ai GROW が定めている測定可能なコンピテンシーを複数組み合わせ、本校が定めた9つの資質・能力を表2のように設定した。

表2:9つの資質・能力と Ai GROW コンピテンシーの組み合わせ

主要3分野	9つの資質・能力	コンピテンシー組み合わせ
地域や社会の課題を見出す力	A 情報収集力	興味(自己) + 共感・傾聴力(他者)
	B 情報分析力	課題設定(認知) + 疑う力(認知)
	C 発信力	表現力(他者) + 地球市民(コミュニティ)
正解のない課題に向き合い続ける力	D 自分力	自己効力(自己) + 耐性(自己)
	E 思考力	論理的思考(認知) + 創造性(認知)
	F 行動力	解決意向(認知) + 決断力(自己)
協同して課題を解決する力	G 調整力	個人的実行力(自己) + 柔軟性(他者)
	H 連携力	共感・傾聴力(他者) + 影響力の行使(他者)
	I 実践力	課題設定(認知) + 個人的実行力(自己)

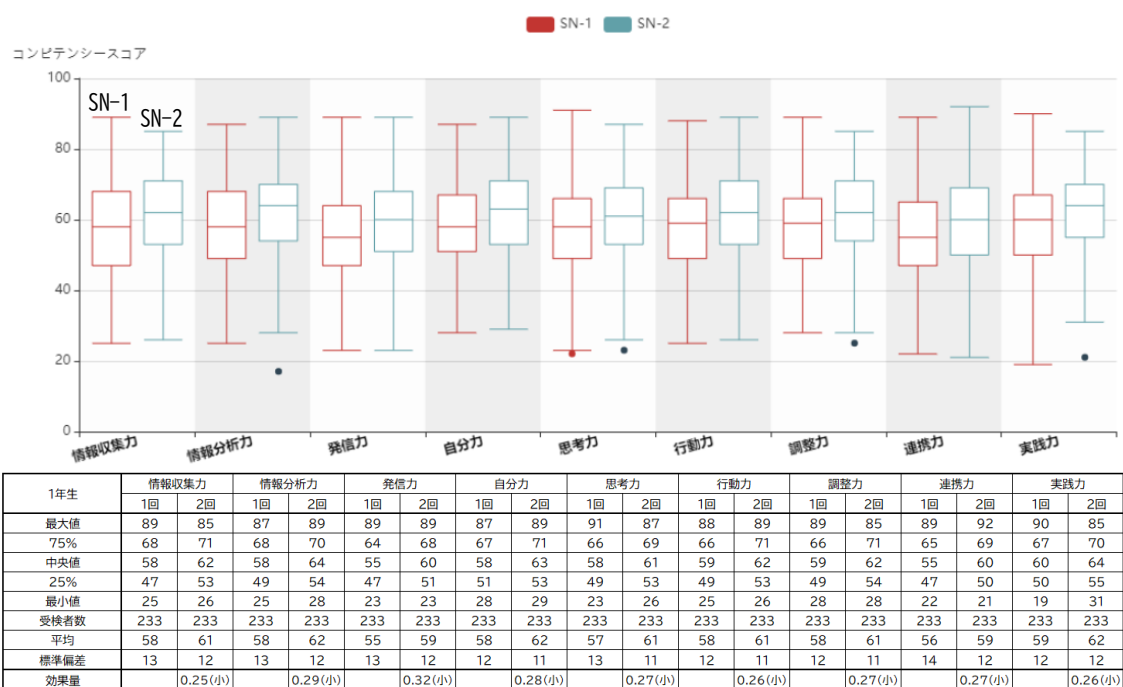
これに基づいて、9つの資質・能力について測定されたスコアの変化から算出された効果量を表3に示した。

表3:9つの資質・能力の対象学年の効果量

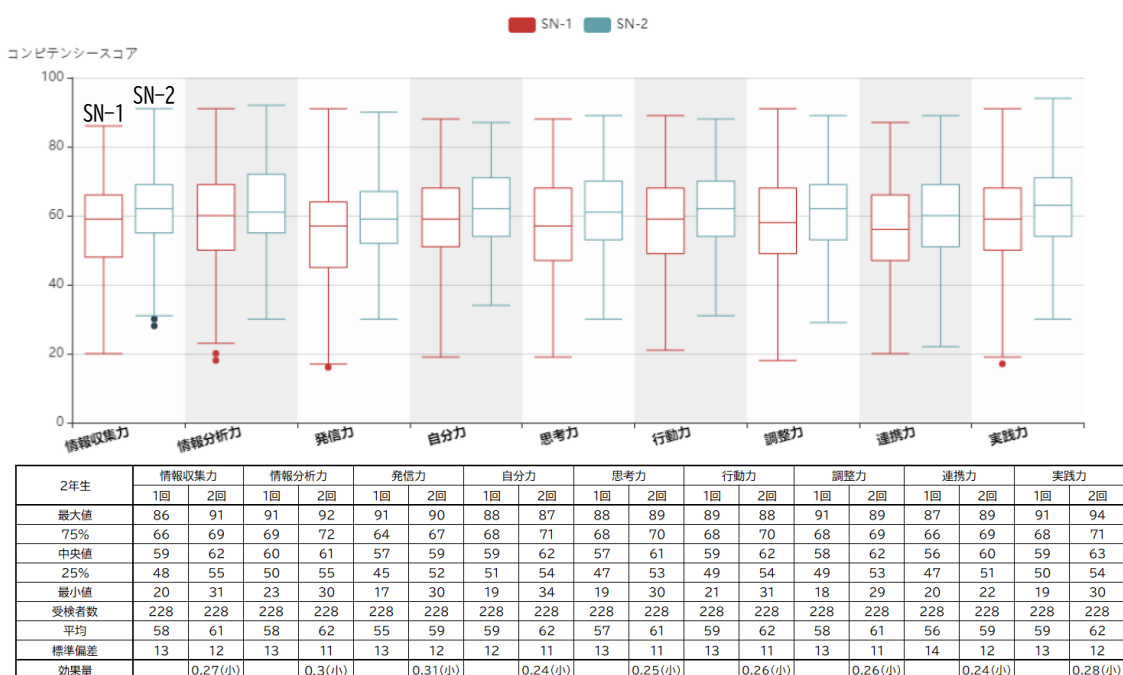
	情報収集力	情報分析力	発信力	自分力	思考力	行動力	調整力	連携力	実践力
1年生	0.25	0.29	0.32	0.28	0.27	0.26	0.27	0.27	0.26
2年生	0.27	0.30	0.31	0.24	0.25	0.26	0.26	0.24	0.28

1年生及び2年生の9つの資質・能力それぞれの効果量は0.24～0.32の範囲であり、すべての力において本構想における実現する成果目標(アウトカム)で設定した効果量0.2以上を達成した。生徒はオンライン上の個人レポートにより、自身の強みとともに探究活動や部活動などによってその強みがどのように変化・成長したのかを確認した。

9つの資質・能力について第1回(8月:SN-1)と第2回(3月:SN-2)のコンピテンススコア及び効果量(1年生)



9つの資質・能力について第1回(8月:SN-1)と第2回(3月:SnN-2)のコンピテンススコア及び効果量(2年生)



(工)全体統括

① 高校魅力化評価システムを通して生徒の「協働性」及び「社会性」が高いことが分かった。これは、本校で取り組んでいる協同学習を基盤とした授業改善の取り組み、及びFW等の学習の成果といえる。一方で、ウェルビーイングに関する項目に大きな伸びが見られなかった。生徒にとって魅力的な学校づくりが課題である。

また、重視項目に着目すると、「思考力」の平均値が高かった。総合的な探究の時間の地域探究活動の取組の成果であり、今後も美鈴が丘高校の特色としてより一層力を入れていきたい。一方で、「情報収集力」や「情報分析力」、「行動力」は年間を通じて上昇したが、全国平均と比べると低かった。生徒が主体的に動き、地域とつながれるような仕掛けが不足していることが課題である。

② Ai GROWの結果、9つの資質・能力の効果量は0.2以上であった。値としては小さいながらも、今年度の取り組みに一定の教育効果があったことは成果である。一方で、Ai GROWを受検する機会を確保することが困難であり、初回の実施が8月となったこと、期間を空けて2回目が3月実施となり、年間として2回しか受検の機会を設定できなかった。そのため、どの教育活動が効果的であったのかが不明確であることが課題である。また、教員および生徒へのAi GROWに関する共有が不十分であったため、評価システムの十分な活用に至らなかったことも課題として挙げられる。

イ 次年度への展望

(ア) 高校魅力化評価システムのアンケート調査は導入初年度ということもあり、深い分析やフィードバックというところまで手が回りきらなかった。継続してアンケート調査をしていく中で、その変化や特徴を見取り、協議していく場面を設けることでより一層の学校の特色化・魅力化を進めていきたい。

(イ) 次年度も評価システムとして Ai GROW を活用していくことが決定した。今年度以上に活用を促進し、育成するべき資質・能力の効果量のさらなる増加を目指す。そのために以下の4点を検討し、実行する。

- ① 定期考査期間に Ai GROW 受検を位置づけ、一定の間隔での受検機会を確保する。
- ② Ai GROW に特化した職員研修を実施し、教科・部活動・生徒会活動などあらゆる教育活動における評価システムとしての活用を提案する。
- ③ 生徒の適性や強み、伸ばすべき力などを正確に把握し、きめ細かい学習指導・進路指導に活用する。
- ④ 生徒自身が自分の強み、伸ばすべき力を認識し、探究活動、学習活動、学校行事、部活動に主体的に取り組み、自己成長を促す。

(9) 広報活動

(ホームページでの発信強化、SNS を活用した情報発信、新学科パンフレット)

ア 令和5年度の振り返り

(ア)目標

- ・ホームページや SNS 等を活用して中高生およびその保護者に対して、より効果的に本校の特色・魅力を広報していく体制を整える。

(イ)目標達成に向けた取り組み

- ① 「ホームページ」「今、美高では！」の内容や運営方法を整理する。
- ② 中高生や保護者を対象として、より見やすいホームページになるよう改善する。
- ③ 中学生に活発に利用されている SNS【インスタグラム】を開設し、より美鈴が丘高校を身近に感じてもらうとともに、新学科に関する情報を随時発信する。
- ④ 新学科での学びを説明するパンフレットを作成する。

(ウ)各取り組みの振り返り

- ① ホームページ等での広報に全教員が関われるように、運用マニュアルを作成し共有した。また、掲載しているすべてのページについて確認し、関係部署と連携のもと更新・削除等を行った。
- ② 学科改変に関する情報や、中高生が興味を持ちやすい部活や行事に関する情報に対してアクセスしやすいようにレイアウトを改善した。
- ③ 6月に SNS 基本運用方針を策定した上で、インスタグラムアカウントを開設した。3月時点での、投稿数は144件(内、リール動画は4件)でフォロワー数は312名である。フォロワーの属性としては、広島市在住が約87%、年齢層が13~17歳が約31%、35歳~54歳が約40%となっており、広島市域に住んでいる中学生~高校生年代とその保護者世代のフォローが70%以上を占めていると推察される。また、最も閲覧数の多かった投稿は進路探究発表会のリール動画で、6490回再生された。また、本校の受験を希望する中学生や本校に在籍する高校生の数を考えるとフォロワー数は少ないが、フォローはしていないが閲覧している層がおり、その情報発信効果は大いに期待されることである。
- ④ 新学科の学びを、総合的な探究の時間を軸にして説明するパンフレットを作製し、2月中旬に実施された全国コーディネーター研修で配布した。

(エ)全体統括

昨年度までと比較して、本校の教育活動の広報は大きく前進したと感じている。SNS 等を活用することでこれまでよりもタイムリーかつ手軽に学校に関する情報を発信することが

できた。また、新学科の方針については、ポンチ絵をベースにして公式ホームページに掲載した。このページの本格的な稼働については学科名が決定する令和6年度になると考えている。

イ 次年度への展望

令和6年度の8月には、グローバル探究科(仮称)の1期生募集説明会を外部会場を借りて行う予定である。遅くともこの説明会までには、新学科のコンセプトが校内で明確に打ち出されている必要があり、また新学科を説明するパンフレット等も配布できる状態になっていなければならない。そう考えれば、これから急ピッチで新学科の具体やアピールポイントを固めておく必要がある。

未来会議

○令和7年度 新しい普通科開設

画像をクリックすると、各項目の詳細をご覧ください。
日々の授業の様子や具体的な取り組みは「[今、美校では!!!](#)」をご覧ください。

広島市教育委員会 令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)

【広島市立美鈴が丘高等学校】地域社会に係る学科を設置(令和7年度予定)
学校教育目標
校訓「進取 友愛 節度」のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において、自らの未来を切り拓き、「地域共生社会」の担い手となる人材を育成する。

広島市が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに取り組む「探究的な活動」を特色(学びの柱)とする

新しい学科で育成を目指す資質・能力(検討中)
【国際平和文化都市『広島』をフィールドとした学びにより地域社会の発展に貢献し続ける人物を育成する】

- 地域や社会の課題を見出す力
- 正解のない課題に向き合い続ける力
- 協同して課題を解決する力

総合的な探究の時間
週1日は探究に特化した日をつくり、午後から学年の枠を超えたフィールドワークや課題解決学習に集中できるよう設定

探究活動を重視した各教科・科目の授業改善
「育成を目指す資質・能力」に基づく目標と評価規準を設定
生徒の「問い」から始まり、「社会につながる課題」を個人思考と協同学習で学ぶ授業へと改善

外部との連携調整を行う
コーディネーター

新たな学校設定教科・科目
新たな学校設定教科・科目として、学びの柱である探究の「学び方を学ぶ」プログラムを実施

【改編検討組織】 × 【連携協力体制】
未来会議 × コンソーシアム

特色・魅力ある先進的な学校運営
担任チューター制や複数担任制などの柔軟な学級運営の導入、ノーチャイム、文理選択の廃止、修学旅行の充実等

広島市立美鈴が丘高等学校 SNS 運用基本方針

令和 5 年 6 月 28 日

以下の3つを主な目的とする。

- ① 本校の教育活動や魅力を積極的に外部に発信し、中学生やその関係者に PR する。
- ② 本校の教職員及び生徒が主体的に自校の魅力を発信する場を創設する。
- ③ 生徒のメディアリテラシーや情報モラルを育成する。

1 活用する SNS

Instagram(インスタグラム)

活用事例校:市立工業、市立商業

選定理由:10代への普及率が高く、中学生に情報が届きやすい。

2 活用にあたって

想定される発信内容

- ・イベント告知(文化祭一般公開、オープンスクールなど)
- ・学校の特色ある教育活動(探究、地域清掃など)
- ・学科改編に関する広報(どのように変わるか)

3 活用イメージ

- ① 各々の行事前後に生徒会の生徒が要項などを参考に投稿を作成する。
- ② 未来会議である程度固まったことを元に会議に所属する生徒が投稿を作成する。
- ③ 探究の時間等を活用し、美鈴の魅力を発信する SNS コンテストを開催し、そのコンテストの上位者の投稿を発信する。
- ④ 本校生徒が取材を受けた場合や大会で入賞した時に投稿を作成する。

4 投稿の流れおよび管理体制

起案者が PTA の端末で投稿を作成し、管理職のいずれかの確認の後、実際に投稿する。
(端末の画面を直接見せて確認するイメージ)

※自分の端末で撮影した写真を使用する場合は、Air drop で投稿用の iPad に送信して投稿する。教員の場合は Google Drive も使用可能。

5 留意事項

- ① 投稿内容に誹謗中傷、マイナスイメージを持つものがないか十分気をつける。
- ② コメント機能はオフ、基本的に個人はフォローしない、DM を受けつけない。

③ 投稿する機材は、専用のタブレットおよび Wi-Fi を使用する。

「探究力」で、未来を切り拓く

「自分は将来どのようになりたい？何をすべき？」
この問いには決められた正解がありません。他の誰でもない、自分で考え、答えを見出さなくてはなりません。
近年、大学入試や就職試験において、このような問いに向き合う力がよりいっそう求められています。自己や身の回りの問題を「探究」し、発信できる力。美鈴が丘高校では、この「探究力」を培い、今後活かす授業を展開していきます。



令和7年度より
新学科スタート！

国際平和文化都市広島に学び、自分の未来と向き合える学校へ

美高は、
探究学習を中心とした
学校へ生まれ変わります

「好き」を究め、地域社会に貢献する人材の育成

「総合的な探究の時間」の授業時数を増やし、より充実した学習ができる点が、新学科の大きな魅力です。

新学科における探究学習の魅力！

好きを究める！

興味のあることや将来の夢について、さまざまな分野を深く探究する機会があります

地域に学ぶ！

広島市内のフィールドワークをはじめ、地域と連携した取り組みの機会を増やします

未来につながる！

探究学習の成果を活用し、希望する進路の実現につなげていきます

詳しい内容は
裏面を参照！



広島市立
美鈴が丘高等学校



←美鈴が丘高校ホームページ

misuzugaoka_hig...



144 309 0
件の投稿 人のフォロワー 人をフォロー中

【公式】広島市立美鈴が丘高等学校

～令和7年度新学科開設予定～

校訓は「進取」「友愛」「節度」

モットーは、「一人ひとりの良さを活かして、みんなで取り組む美高の学び... 続きを読む」

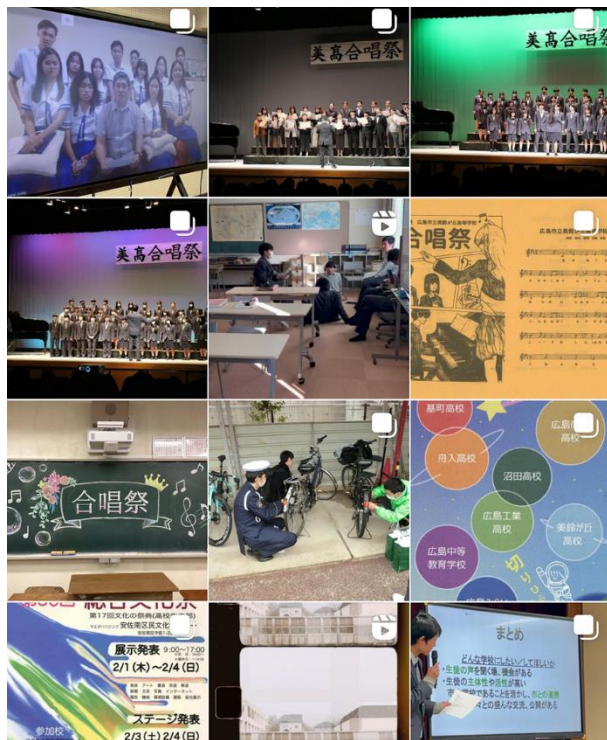
www.misuzugaoka-h.edu.city.hiroshima.j...

プロフェッショナルダッシュボード

過去30日間に2,158件のアカウントにリーチしました。

プロフィールを編集

プロフィールをシェア



3 連携機関等との意見交換・協議

(1) コンソーシアム会議

令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」指定校
美鈴が丘高等学校 第1回 コンソーシアム会議 報告

ア 日時

令和5年7月14日(金)18:00~19:30

イ 会場

美鈴が丘高等学校 プレゼンテーションルーム

ウ 参加者

広島経済大学 胤森教授 (コーディネーター)

佐伯区役所地域おこし推進課 吉村課長

美鈴が丘公民館 河部館長

美鈴が丘高等学校 PTA 織田副会長

美鈴が丘高等学校同窓会 木村副会長

広島市教育委員会事務局学校教育部指導第二課 福山指導主事

広島市立美鈴が丘高等学校 柳校長、沖本主幹教諭、内門教諭 計9名

エ 内容

(ア)事業計画の概要について

校長より

- ・未来会議の役割について
- ・拡大未来会議の役割について
- ・探究活動の具体及び探究発表会の実施について
- ・Ai GROW を活用した資質・能力の評価について

(イ)学校のこれまでの検討状況について

内門教諭より

- ・探究活動の充実について
- ・授業の改善について
- ・育成を目指す9つの資質・能力について
- ・広報活動について
- ・学科名について

(ウ)委員より意見・質疑応答

<探究について>

木村委員:生徒の探究に対する熱量はどれくらいのものなのか。

校長:熱心に取り組む生徒、主体的ではないがリーダー的存在についていく生徒、のめりこめない生徒など様々である。

吉村委員:探究は個人で取り組むのか。それともグループで取り組むのか。

校長:生徒の特性によると思われる。一人で黙々と進めたい生徒、複数人で意見を交流しながら進めたい生徒、色んな進め方があってよいと考えている。

胤森委員:教科の学びも探究にシフトする必要がある。教科で探究活動に必要な知識や技能を身に付けさせるべき。また、9つの資質・能力を生徒に提示して、その力を身に付けさせるための教科の学びや学校行事全体でカリキュラム・マネジメントを行っていくべきである。

織田委員:親は経験していないので、探究活動をよく分かっていない。生徒も分かっていないのではないだろうか。まず、生徒に探究とは何かをしっかりと伝えて、分かったうえで取り組ませる必要があると考えられる。

<学科名について>

織田委員:横文字は反対。何を学ぶところかわからない。奇抜でなくシンプルでなじみやすいものがよい。

木村委員:地域密着が伝わる学科名、「探究」が付く学科名、「人間力高めよう科」などはどうだろうか。

<全体を通じて>

織田委員:令和7年度からスタートということだが、今の状況はどんな状況なのか。

校長:令和5年度から改革はスタートしている。授業改善は今の生徒を対象に少しずつ進めている。学校設定科目の未来計画は令和6年度に先行実施するため、年間指導計画を検討している。また、同じく普通科改革支援事業採択校である北九州市立高校および熊本市立必由館高校との生徒交流を計画している。

胤森委員:探究力を身に付けさせるうえで忘れてはならないのは、教科の見方・考え方を外してはいけないことである。探究は教科の学びの中でも取り組むべきだし、総合的な探究の時間では教科の学びの視点を取り入れるべきである。

令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」指定校
美鈴が丘高等学校 第2回 コンソーシアム会議 報告

ア 日時

令和5年11月17日(金)18:00~19:30

イ 会場

美鈴が丘高等学校 プレゼンテーションルーム

ウ 参加者

広島経済大学 胤森教授 (コーディネーター)

広島工業大学 溝上広報担当参事

佐伯区役所地域おこし推進課 吉村課長

美鈴が丘公民館 河部館長

美鈴が丘高等学校 PTA 織田副会長

美鈴が丘高等学校同窓会 木村副会長

美鈴が丘高等学校生徒会 五十嵐生徒会長

美鈴が丘高等学校生徒会 西畠副会長

広島市教育委員会事務局学校教育部指導第二課 福山指導主事

広島市立美鈴が丘高等学校 柳校長、小田教頭、沖本主幹教諭、内門教諭、田中教諭
計14名

エ 内容

(ア)現在の進捗状況

<内門教諭より>

- ・9つの資質・能力の共有について
- ・探究の継続のため、先輩たちの探究活動アーカイブを作成する予定
- ・学校設定科目【未来計画】の概要について
- ・外部連携(市議会提案発表会)について
- ・広報戦略(インスタグラム開設、ホームページで生徒の活動掲載)について
- ・総合的な探究の時間、LHR、教科との関連性について
- ・今後の探究活動について(3年生の探究発表会を終えて)

<田中教諭より>

- ・第1回生徒対象取り組み改善アンケート分析について

・第1回教員対象授業改善アンケート分析について

(イ)生徒から報告・提案

<五十嵐委員、西畠委員より>

- ・熊本必由館高校の視察報告
- ・今後の美鈴が丘高校の探究活動に関する提案

<委員からの意見・質問>

河部委員:美鈴が丘で何ができると考えているか。

五十嵐委員:接続の良さを活かした小中高の連携授業や美鈴が丘団地を盛り上げるイベントを実施したい。

織田委員:必由館高校の規模はどれくらいか。

五十嵐委員:40人×9クラス。規模としては美鈴が丘高校と同じくらいなので、必由館高校でできることは美鈴が丘高校でもできるはずである。

溝上委員:美鈴が丘高校にとって何が参考になると思うか。

西畠委員:必由館の探究は和気藹々として、生徒が活発だった。現在の美鈴が丘高校の探究活動は、生徒に狙いや目的が伝わってなくて、やらされ感がある。教員と生徒を含めた全体の意識改革が必要。教員は生徒との共有を大切にほしい。必由館高校の探究はとても参考になる。

胤森委員:探究に答えは出さなくて良いのでは。「新しい疑問が生まれました」というのも良いのではないか。

吉村委員:生徒にどう還元したいと思うか。

五十嵐委員:生徒会から講堂で全校生徒に発表して伝えたい。

(ウ) 委員より意見・質疑応答

織田委員:地域共生社会の担い手の共有について、「地域」の捉え方は。美鈴が丘地域のことなのか。教員、生徒ともに共有できているのか。

校長:地域(美鈴が丘他)→広島市→広島県→もっと大きな領域と、段階的に広げていきたいと考えている。

河部委員:美鈴が丘は人口減、高齢者2%増加という課題を抱えている。まずは身近な地域で良いのではないだろうか。素材は商店街ほかたくさんある。

令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」指定校
美鈴が丘高等学校 第3回 コンソーシアム会議 報告

ア 日時

令和6年2月9日(金)18:00~19:30

イ 会場

美鈴が丘高等学校 プレゼンテーションルーム

ウ 参加者

広島経済大学 胤森教授 (コーディネーター)

広島工業大学 溝上広報担当参事

佐伯区役所地域おこし推進課 吉村課長

美鈴が丘公民館 河部館長

美鈴が丘高等学校 PTA 織田副会長

美鈴が丘高等学校同窓会 木村副会長

美鈴が丘高等学校生徒会 五十嵐生徒会長

美鈴が丘高等学校生徒会 西畠副会長

広島市教育委員会事務局学校教育部指導第二課 福山指導主事

広島市立美鈴が丘高等学校 柳校長、小田教頭、沖本主幹教諭、内門教諭、田中教諭
計14名

エ 内容

(ア) 現在の進捗状況

<内門教諭より>

- ・9つの資質・能力を育成するルーブリックを作成し、職員間で共有した。
- ・3年生探究発表会の成果と課題
成果:自分の興味関心のある課題について、足を運んで調査した。外と繋がった。
課題:生徒が自分事として解決する動きにまだまだなっていない。
- ・授業観察期間で、9つの力を育成する授業の立案し公開した。
- ・地域探究発表会を開催する。コンソーシアム委員の皆様にも意見をいただきたい。
- ・職員研修にて生徒が発表した。生徒からの訴えは大人に刺さる。

<田中教諭より>

- ・2年生は地域探究をスタート。
志望する学問分野の課題×広島市～〇〇で何が悪い?～

課題によりどんな「不」が生じるか。広島市でどんな「不」があるか、調査計画を立てる。
3月に中間発表、7月に探究発表会

・悩み

漠然とした課題のまま、外部と接続させて良いのだろうか。

教師の指導ではなく、伴走が難しい

広島に限定することで、課題が見えないのではないだろうか。

<意見・質問>

木村委員:「不」だけではなく、今あるもの、現状の取り組みをよりよくするという視点
の課題もよいのではないか。

(イ) 生徒より先進校視察報告

<五十嵐委員、西畠委員より>

- ・必由館高校は生徒が主体的に取り組んでいる。熊本市が課題を提供している。
- ・開建高校も生徒が主体的に探究活動や企画の運営を行っている。企業とうまく連携している。

・北九州市立高校では北九州市との連携がある。

・美高の探究活動に取り入れるべきと考えること。

先生と生徒の間の適切な距離感がほしい。関わりすぎず、放置するでもなく。

市立高校であることを活かすべき。市役所の人のお話を聞いて、課題をもらって、探究をサポートしていただくなど。

(ウ) 意見・質問

河部委員:広島市のように大きな範囲だと探究は難しいのではないか。まずは美鈴が丘地区で、実際に出ていく方が探究が深まるのではないか。生徒には自分でこれをやったという経験をしてほしい。

(エ) 今後の動き

<校長より>

- ・学校説明会の実施について
- ・臨時的任用職員としてのコーディネーターの配置について

<胤森委員より>

- ・地域との連携が課題。学びの支援を生徒は求めている。
- ・コンソーシアムや学校運営協議会は生徒を評価することで応援してほしい。
- ・探究発表会でルーブリックをもとに褒めてほしい。

(2) 運営指導委員会

令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」指定校
美鈴が丘高等学校 第1回 運営指導委員会 報告

ア 日時

令和5年7月28日(金)9:30~12:00

イ 会場

美鈴が丘高等学校 プレゼンテーションルーム

ウ 参加者

広島市教育委員会学校教育部 中谷指導担当部長(座長)
広島県公立大学法人叡啓大学 保井学部長・教授
広島県公立大学法人県立広島大学 向居教授
岡山県青少年教育センター閑谷学校 香山所長
広島市立大学キャリアセンター 小林先生
広島市教育委員会学校教育部指導第二課 長屋課長、檜垣課長補佐、福山指導主事
広島市立美鈴が丘高等学校 柳校長、沖本主幹教諭、内門教諭、田中教諭 計12名

エ 内容

(ア)事業計画の概要

香山委員:事業終了後も持続できる仕組みを考えてほしい。コミュニティスクールを活用することもできるのではないかと思う。

柳校長:コンソーシアムの委員の方がコミュニティスクール(学校運営協議会)の中に複数人おられるのでその仕組みは検討していきたい。

香山委員:コーディネーターについては、来年度は大学教授以外で行くという認識で間違いはないか。

福山指導主事:来年度は常勤の方を雇用することを考えている。

(イ)学校のこれまでの検討状況

保井委員:育成を目指す資質・能力が、普通科と地域社会学科でどう違うのか議論した方がいいだろう。地域社会学科だからこそその資質・能力があれば、美鈴が丘高校のコンピテンシーになるのではないかと思う。

香山委員:今ある資質・能力に加えるというよりは、特定のコンピテンシーを育成することで、美鈴が丘高校の特色とするなど、質的に改善していくといいのではないかと思う。たくさん加えるとわかりにくくなるので。

小林委員:資質・能力を各教科の学びと関連させていくことには意味がある。授業改善に落としていかないといけないであろう。

香山委員:各教科との関連だけでなく、各教科の単元と関連させる視点もあっていいと思う。この単元はこの力を育成するよとわかれば、生徒にとってもよいポートフォリオになるのでは。

探究となると先生方が及び腰になることが考えられるため、卒業生等の力を借りてはどうか。メンター制度を導入し、生徒との斜めの関係で支えていく。先生はコーディネーター、ファシリテーター役に徹するほうがいいのではないか。卒業生にとってもいい学びとなり、メンターが増えていけばよい循環になるだろう。堀川がそれをやってうまくいっている。高校生も大学の生徒を見てゴールイメージを描きやすいだろう。

柳校長:大学生が週に数時間同じ時間帯に来るのは難しいのではないか。

香山委員:オンラインを使えば実現できると思う。あとはメンターと生徒の人間関係は気を付けないといけないと思う。

保井委員:事業計画の中に、マイプロジェクトとの記載があったが、マイプロは今とても流行っていて多くの生徒参加し、大学入試への活用も進んでいる現状がある。元々のマイプロの理念は、社会に関わるだけでなく、自分自身の内面を変容させることにある。自己変容シートやキャリアマップなどを活用するなどして、自分自身のキャリアについて自分が表現できるようになるといいのではないか。

香山委員:探究は最終的にはグループでなく一人ひとりがつくるといいと思う。3年の探究発表会で全員発表すると到底回らないので、3年次の三者懇談、自分が探究した内容を保護者に発表するなどしてはどうか。自分の成長を可視化する取組がいいのではないかと思う。三者懇談で大学入試の合格可能性を担任と協議するよりもいいのではないか。

発表はうまいが文章にすると論理性が伴っていないものも多い。卒業論文などを書かせて、要卒単位に加配することなどもできるだろう。

向居委員:コンピテンシーを評価するルーブリックの妥当性について検証が必要だろう。資質・能力は学校の先生方で作り上げたもので価値があるのはわかるが、大きな3つの力とその中の9つの力、具体的なルーブリックに整合がとれていないものも散見される。測っているものが違うと成果として評価することができないのではないか。

また、「Ai GROW」というサービスを使うとのことだが、本当にこれが資質・能力を学術的に測定することができるのか謎である。業者に問わないとだまされる。

香山委員：三菱 UFJ リサーチ & コンサルティングが文部科学省の委託を受けてしっかりとした資質・能力評価ツールを作っていたと思う。もう少し研究が必要だろう。
内門委員：ループリックは昨年度学校内でボトムアップで作り上げてきたものである。先生方のご助言を受けながら今後も改善していくべきものだと捉えている。

向居委員：高校の先生方が探究を手探りでやっていくことには限界があると考えている。この点は大学と連携すべきだ。例えば先行研究をベースに問いを立てるということを知っておかなければ研究にはならない。発表をさせるだけでなく、論文を書かせてから発表をさせるなど工夫も必要だろう。高校生がやる探究をどこまで引き上げるか検討して欲しい。

香山委員：文部科学省のなかで高校版の「総合的な学習の時間」を議論したとき、全ての高校生が大学の研究レベルのことをするのは難しく、ちょうどよいところで「探究」とした。よって探究とはそもそもぼんやりとしたもので、その探究で育成を目指す資質・能力もぼんやりとしている。落としどころを学校で考えていくのがいいのではないか。

令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」指定校
美鈴が丘高等学校 第2回 運営指導委員会 報告

ア 日時

令和5年12月4日(月)14:00~16:30

イ 会場

美鈴が丘高等学校 プレゼンテーションルーム

ウ 参加者

広島市教育委員会学校教育部中谷指導担当部長(座長)

広島県公立大学法人県立広島大学向居教授

岡山県青少年教育センター閑谷学校香山所長

広島市立大学キャリアセンター小林先生

広島市教育委員会学校教育部指導第二課 長屋課長、檜垣課長補佐、福山指導主事

広島市立美鈴が丘高等学校柳校長、小田教頭、沖本主幹教諭、内門教諭、田中教諭

計12名

エ 内容

(ア)挨拶

香山委員:協働と探究は、私が校長時代に10数年間取り組んだテーマである。全国で都心のベッドタウンとなっていた団地をどうするのかという課題がある。佐伯区のホームページを見るとまちづくりのアクションプランがあるがこの課題への考えが弱いと感じる。こういった地域的課題に美鈴の生徒が切り込んでいけるといいのではないか。

小林委員:美鈴の改革がどんどん動いている実感がある。ただ、いろいろアイデアはあるが学ぶフィールドを学校が持っているかが課題だと感じる。大学では先生がそれぞれフィールドを持っており学生を巻き込んで動いている。大学とは違う高等学校においてこの学びのフィールドをどう確実なものにしていくかが課題であろう。また、先輩がやってきた探究テーマを後輩が受け継ぐような仕組みを是非実現して欲しいと思う。

(イ)校内施設見学

柳校長:図書館は現状自習室的要素が強いが、探究活動の中心としての機能が強化できればよい。また、普通教室も工夫が必要でありロッカーの移設等ができれば広々とした学びが展開できる。視聴覚教室は古い装置が使えないため撤去して

発表会や2～3クラス規模のワークショップができるようフルフラットにすることなどが理想である。奥の放送室を整理してグループワークで使用することも考えられる。

香山委員：図書館の機能を活かすには図書館司書の力が必要だろう。先行文献を読むことは重要でありそういったものを読むとか他の図書館から取り寄せるよう人材を事業終了後も持続可能な状態で配置できないか。図書館を地域に開放し、複合施設として市や地域を巻き込み、人的予算を確保することも考えられる。北海道の安平町立早来学園(義務教育学校)にフィンランドなどの流れを受けた事例がある。<https://abira-share.com/>

中谷部長：小中学校にも地域を巻き込んだ学校開放の流れがあるため今後も検討していく。

(ウ)カリキュラム開発等の状況

香山委員：フィールドワークを年間で何時間時数として確保するか確認しておいて欲しい。1年生ではどのターンでフィールドワークをするのか。また2年生の修学旅行での探究はどうなっているのか。

内門教諭：1年生は4カ月で2つの探究プロジェクトを回しフィールドワークを1回ずつ行う予定としている。また、2年生の修学旅行は希望進路別で東京での探究学習を引き続き行うことを考えている。

香山委員：1年生で探究を2回まわすことは有意義だと思う。1年生の平和や地域探究を、2年生では進路別でキャリアと絡めた上で、「東京ではどうなっているのか？」という切り口で探究する流れはいいのではないかな。指導計画にも落としやすく先生方も指導しやすいだろう。

向居委員：フィールドワークやアンケートは何を求めるか決まってないのに行っても無意味だろう。1年生ではある程度決まった課題でもいいからキーワード化して選ばせてやってもいい。初学者は斬新性を追わなくてもいいが過程(プロセス)を大切に、探究とはこうやるんだと思わせるしかけが重要ではないか。

大学でもテーマ設定(課題の設定)に一番時間がかかる。大きなテーマ(課題)がセットアップとしてあって、その中の一部を生徒に自由にやらせることで、生徒が主体的に取り組んだと実感できるミニ探究がいいのではないかな。その中で現地に行かなければならないとなればフィールドワークやアンケートを行う、その前に話をきちんと聞く指導も必要でありそんなことも実はとても大切である。こういう過程(プロセス)がとても大切であり、ミニ探究はある程度先生方も見通しが持てる(こんな感じになるんだろうな)といった形でまわしていくのではないかな。やらされ感なく何を学んだのか手ごたえを感じるルールにどう乗せるか、先生の技量にかかっている。

香山委員:私もゼロベースで社会に問いを立てさせるのは難しいと考えており、生徒による問い立ては、何度か探究して深く掘りする中でコツをつかんでくるものだと思う。平和探究に関して、思わずフィールドワークをしたくなる問い、選んだところでグループを作ってやってみる。自主的にやりたい生徒にはやらせてみる。

1年生の地域探究については先生方が問いを出すのは困ると思う。地域の大人の方々の知恵をいただいて大人に生徒に伴走してもらうようお願いしても良い。2年生は自分で問いを見つけていければいいのではないかな。

向居委員:探究をためていくことは、自動的に深めていくことになるので、系統的にやることは良いと思う。ただし、論文にまとめると指導者も大変になる。何文字以内、とか何枚以内の要旨(Abstract)でいいのではないかな。実は研究をコンパクトにまとめていくのが一番難しい。逆にだらだらと長文を書くのは簡単である。先生方の量力をできるだけかけず、成果を求めてほしい。

(エ)他の取組の具体

香山委員:教育課程のせめぎ合いはよくわかる。1年次は必須科目をできるだけまとめて履修し、2年生以降に地域探究系と文理探究系と系統に分けることも考えられる。入学時の最初の段階であってもいい。

教育課程外では探究の学びを原則みとることできないのであろうが、放課後や夏休みの活動記録を、学校外活動として単位認定するのもありではないかな。プラス1単位くらいでできないかな。

学科の名称に関しては、中学校の声をひろうため、高校生が母校に行って説明し数量調査(アンケート)等を行えば、学校の宣伝にも同時になるのではないかな。学科名を決めたプロセスとして魅力的だと考える。個人的には名称は先行実施している高校を参考にするとか、大学の学部学科名を参考にすることがいいのではないかなと思う。未来計画を前面に出すなら未来共創科などが候補になるのではないかな。いずれにしても3学期にはやって欲しい。

小林委員:教育課程は標準単位で組むべきだと思う。国の流れもそうなっている。文理選択については、井口や国泰寺は2年からの選択をやめ、3年からの選択としている。年間33単位実施しているのは基町と舟入くらいで、エリア的にも教育課程をスリム化する動きはある。教育課程案については、どこかがベースを示さないと先に進めない。ベース案に基づいて先生方から意見をもらうべきだと考える。

向居委員:心理学的に言うと課外活動における自己調整学習をできるようにすることが重要である。その点を意識して検討して欲しい。

香山委員:愛媛県立三崎高等学校 <https://ehm-misaki-h.esnet.ed.jp/>では、一般入試を希望する生徒用の授業と、学校推薦・総合選抜型入試を希望する生徒

用の授業を別々に設けて両立を図ろうとしている。そういった例が参考になるのではないかと思う。

https://www.mext.go.jp/content/20230922-mxt_koukou02-000031732_14.pdf

〔事後連絡〕

香山委員：Ai-GROWについて、同じく導入している他校の生徒との比較があれば互いに刺激になって良いと感じた。

また、探究学習の深化については、広島市役所、佐伯区役所の支援を組織化して小グループごとに市の職員が助言してくれる体制を取るのが資金的にも市立高校ということでも良いのですが、いかがでしょうか。

令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」指定校
美鈴が丘高等学校 第3回 運営指導委員会 報告

ア 日時

令和6年3月12日(火)14:30~16:30

イ 会場

美鈴が丘高等学校 プレゼンテーションルーム

ウ 参加者

広島市教育委員会学校教育部中谷指導担当部長(座長)

広島県公立大学法人県立広島大学向居教授

広島市立大学キャリアセンター小林先生

広島経済大学胤森教授(コーディネーター)

広島市教育委員会学校教育部指導第二課 長屋課長、檜垣課長補佐、福山指導主事

広島市立美鈴が丘高等学校柳校長、小田教頭、沖本主幹教諭、内門教諭、田中教諭

計11名

エ 内容

(ア) 挨拶

中谷部長:この時点での進捗状況を連絡していただきたい。小学校の例であるが、個別最適な学び(単元内で児童の学びのスピードが異なる取り組み)について、組織として最も大変なのは教員間の意識統一であるという。1年間の取り組みの成果と課題を共有し、ご助言いただきたい

柳校長:ご助言を参考に改革が進んだものもある。学校の職員だけでは取り組めないことだった。探究活動における図書館の活用について、中央図書館と協議した。その中で、公民館に図書を配達する制度を利用して生徒も中央図書館の本を借りることのできるシステムの構築や生徒の課題について図書館司書による支援について議論した。

保井委員:これからの教育の在り方(ウェルビーイング:心の幸せ)

教育の目標改正の柱 → 日本社会に根差したウェルビーイング教育

個人の幸せ → 社会の幸せ *主体性、地域との繋がり、国家間のバランス

今、美鈴が丘高校の取り組んでいることと合致していると思われる。

向居委員:心理学者として幸福感の尺度(主観的幸福感)のデータをとると、直感的に感じている人と熟考する人では、直感的に感じている人の方が幸せであることが多い。「熟考する人が幸せになるには」を考えたい。

教育において、「テストを無くそう」という動きは危険である。テストは記憶のツールとして大切だからである。

小林委員：美鈴が丘高校の校長だったころ、生徒の意見を聴く場を設定したかった。生徒主体は行動に移すことから始まる。まず、生徒にやらせてみるのが大切であると考えます。生徒が地域の方々など、色んな人と交流する場を設けてはどうだろうか。そうすれば、生徒の中で何をしたいのかが見えてくるはずである。

(イ) カリキュラム開発等の状況について

<内門教諭より>

・やったこと

- ①ループリックを作成したことで、教員間で話題にやすくなった。
- ②未来計画の年間指導計画を作成した。合意形成とレジリエンスを大切にしたい。
- ③地域観を養うための区役所連携型講座も計画している。
- ④総合的な探究の時間+教科の学び+LHR の関連を示した別葉を作成した。
- ⑤探究発表会を実施した。「自らの課題が自分ごとになっていなかった」という課題があった。
- ⑥授業観察月間を実施した。「知識を教える」から「コンピテンシーを育てる」へ意識改革ができた。また、生徒が「問い」を持って授業に臨むことを研究・実践した。

(田中教諭より補足)

「問い」を持って授業に臨むことについて、生徒対象取組評価アンケート及び教員対象授業評価アンケートを実施し、回答を分析すると、以前よりも授業での取り組みは増えてきたことが分かった。次年度は問いの質的な内容について検証したい。

- ⑦自由度の高い探究活動を目指して、フィールドワークは拠点制にした。提案した段階では多くの教員から反対意見をもらったが、やってみることで、その後の取り組みがスムーズに進むなど、教員の理解も得られるようになった。危機管理はもちろん大切だが、やってみようという精神も大切である。
- ⑧学年を超えた探究活動を実践した。今年度は、2年生が1年生に向けて進路別探究について発表したり、探究発表会ではコメントカードを新設して他学年からの意見をもらえたりするようにした。
- ⑨生徒の意見を学校運営に反映した。今年度は、先進校視察の報告を生徒が教員に向けて実施したり、教育活動充実に向けて生徒視点から提案してもらったりした。生徒の意見をどう実現していくかを検証していく。
- ⑩広報活動を充実させた。公式インスタグラムを開設し、スピード感のある取り組み紹介を行った。現在、新学科に関するパネルを作中である。
- ⑪成果検証として、高校魅力化アンケート及び Ai GROW を実施した。

・わかったこと

- ①方針を決めても改革はなかなか進まない
- ②大きなスケールで地域探究を実動させることの難しさ

香山委員(福山主事代読):区役所連携型講座はグローバルとローカルな問題を扱う好機である。また、生徒の意見を学校運営に反映させることは大賛成である。

保井委員:インスタグラムの発信は良い。

生徒のウェルビーイングも大切だが、先生方のウェルビーイングファーストの取り組みであるべきではないか。探究活動について、個別で地域と結ぶのは大変で難しいがチャンスでもある。メンティーを増やして、協同の機会を増やすのはどうか。

生徒が「問い」を持つことについては、「既存の問いを変えていく」という視点はどうか。

地域のことを知るために、広島の外を知る機会を設けることも必要である。比較することで、それは本当に最適解なのかという疑問をもつことができる。

胤森コーディネーター:外からの視点を取り入れる際にオンラインも活用できるのではないか。また、公民館のネットワークを活用するのはどうか。

<内門教諭より>

・次にやること

- ①改革の目的を生徒と教員で共有する。中規模校の普通科改革は全国的に新しい。プライドを持って取り組む。
- ②地域探究を実動させる。
- ③伴走者マインドを醸成する。職員研修を通じて伴走者としてのマインドセットを行うとともに、生徒会役員から全生徒へ働きかけを実施する。

・グローバル探究科について

地球規模と地域規模の間で視点の往還を持つ。今あるものを生かしたグローバル系の取り組みを実施する。これに伴ってアドミッションポリシーの再設定も検討する。

小林委員:探究を推進している国内の他の学校との連携強化はどうか。先生のウェルビーイングについては、部活動視点で考えても良いのではないか。部活動を活かした探究活動も生徒によっては取り組みやすいかもしれない。

向居委員:探究活動では、「問い」を立てることが最も難しい。それでいくと、部活動の視点は面白い。また、地域に住んでいて「当たり前」を見直すことも問いにつながる。そのために、外を知って、内を見つめることが必要となる。「こんな問いでもいいんだ」を共有することも大切である。

地域系の課題だと人を集めてイベントを実施というありきたりな解決策で終わることが多いので、注意が必要である。

外部との連携は大切だが、目的をはっきりさせないと、ただ交流しただけになる。生徒の学校生活のことなどテーマを決めて実施するべきである。

(ウ)事務局より

<福山指導主事より>

①コーディネーターの採用について

臨時的任用教諭として登用する。これは全国でも新しく、特に大きな規模の学校にコーディネーターの配置は珍しい。文部科学省の指定校には加配が与えられるが、これをコーディネーターに充てることで実現している。

②今年度の事業完了報告書について

成果と課題

○生徒が運営に携わっている

○育成を目指す資質・能力の設定

○未来計画の計画

▲探究と地域を繋ぐシステムの実動

▲カリキュラムの具体的な検討

▲新学科設置に係る地域社会への周知

③次年度の実施計画書について

④グローバル探究科のポンチ絵について

保井委員：修学旅行の特色として提案する。一方で他校の生徒の修学旅行を受け入れ、他方でその学校へ行くという双方向の修学旅行はどうか。

向居委員：ポンチ絵を見ると、「総合型選抜重視」と「一般選抜重視」に分かれるイメージ図に見える。どの選択をしても探究がメインであることに誤解がないようにするべき。また、総合型選抜に活用するなら3年生前期に探究活動の終着がくるように計画するべきである。

福山指導主事：出口補償も大事である。重視しているのは子ども達の学びで、その生徒の進路も考えていることを伝えたい。3年次のカリキュラムは来年度具体的に検討する。

保井委員：秋に総合型選抜の出願がある。これに上手く接合させないといけない。